令和四年度

# アクセシビリティ支援チーム 活動実績報告書

国立大学法人筑波大学
ヒューマンエンパワーメント推進局

# 目次

## PART1　障害学生支援の概要

**1. 筑波大学における障害学生支援の理念と特色** ..... 7

(1)支援の目的とコンセプト ..... 7
(2)支援の理念と対応要領 ..... 7
(3)支援の特色 ..... 8

**2. 組織・体制** ..... 10

(1)障害学生支援に係る支援組織 ..... 10
(2)障害学生支援に係る教育組織・支援組織の連携図 ..... 11
(3)ヒューマンエンパワーメント推進局における障害学生支援体制 ..... 12

**3. 令和 4 年度障害学生在籍状況一覧** ..... 13

(1)障害別利用状況(学群および大学院別) ..... 13
(2)障害別在籍状況 ..... 13

## PART2　障害学生支援の実績

**4. 学生支援実績** ..... 15

(1)入学前後の対応 ..... 15
(2)大学説明会(オープンキャンパス)における支援 ..... 15
(3)式典における支援 ..... 16
(4)ダイバーシティ・アクセシビリティ教員等に対する合理的配慮に関するオンデマンド受講 17
(5)ICT を活用した障害学生支援 ..... 18
(6)障害種別に関わらないニーズ別支援の実施 ..... 20
(7)障害を理由とした合理的配慮としてのオンラインによる授業受講 ..... 21
(8)障害学生に対する合理的配慮に関するアンケートの実施について ..... 21
(9)障害別の支援に関する重点課題 ..... 22
(10)教育組織による支援 ..... 25
(11)ヒューマンエンパワーメント推進局アセスメント機能 ..... 30
(12)アクセシブルスタディルーム(AS ルーム) ..... 31

**5. ピア・チューターの養成等** ..... 33

(1)ピア・チューター制度の概要 ..... 33
(2)ピア・チューター養成講座の実施 ..... 33
(3)ピア・チューター登録者数 ..... 34
(4)ピア・チューター活動証明書の発行 ..... 35
(5)ピア・チューター交流イベントの開催 ..... 37

**6. 教育活動** ..... 38

(1)総合科目「ダイバーシティ＆インクルージョン入門」 ..... 38
(2)自由科目(特設)「障害学生支援技術」授業概要 ..... 41
(3)手話コミュニケーション I(入門・基礎) ..... 42
(4)手話コミュニケーション II(応用・実践) ..... 45
(5)大学院共通科目「アクセシビリティリーダー特論」 ..... 48
(6)大学院共通科目「脳の多様性とセルフマネジメント」 ..... 50

**7. バリアフリー推進** ..... 51

(1)学内のバリアフリー改修 ..... 51
(2)アクセシビリティマップの作成・公開 ..... 51

**8. 就職・キャリア支援** ..... 52

(1)キャリア支援イベント ..... 52
(2)キャリア広報誌 ..... 52
(3)障害学生 OBOG ネットワーク ..... 53
(4)令和3年度卒業生・修了生の進路 ..... 53

**9. 緊急時に備えた支援** ..... 54

(1)ニーズ別避難方法等の作成、HP 掲載 ..... 54
(2)全学防災訓練「障害学生等支援防災ワーク」の実施結果 ..... 57

**10. 学内での理解・啓発活動** ..... 58

(1)駐輪マナー向上キャンペーンの実施 ..... 58
(2)障害学生支援に関する配布物 ..... 58
(3)学内各種配布物への情報掲載 ..... 59
(4)ICT の活用と体験の開催 ..... 60

**11. 研究活動** ..... 61

(1)令和4年度実施研究事業一覧 ..... 61
(2)令和4年度人材養成機能強化経費「学生の多様な能力アセスメント事業」報告書 ..... 63

**12.広報・渉外活動** ..... 70

(1)ウェブサイトにおける情報発信 ..... 70
(2)Facebook、Twitter における情報発信 ..... 71
(3)発達障害啓発マンガによる広報 ..... 73
(4)各種取材への対応 ..... 74

**13. 他機関との連携・他大学等への支援実績** ..... 75

(1)アクセシビリティ専門部会委員学外業務 ..... 75
(2)日本学生支援機構ネットワーク拠点校相談等の対応 ..... 78
(3)障害学生支援に関する訪問・見学者対応 ..... 79

(4)高大連携 ..... 81
(5)交通機関との連携 ..... 81
(6)教育関係共同利用拠点事業の概要 ..... 82

## PART3 資料

**14. 令和4年度活動歴** ..... 89

**15. 各種文書一覧** ..... 90

(1)相談申込書 ..... 90
(2)支援申請書 ..... 92

# PART 1
# 障害学生支援の概要

## 1. 筑波大学における障害学生支援の理念と特色

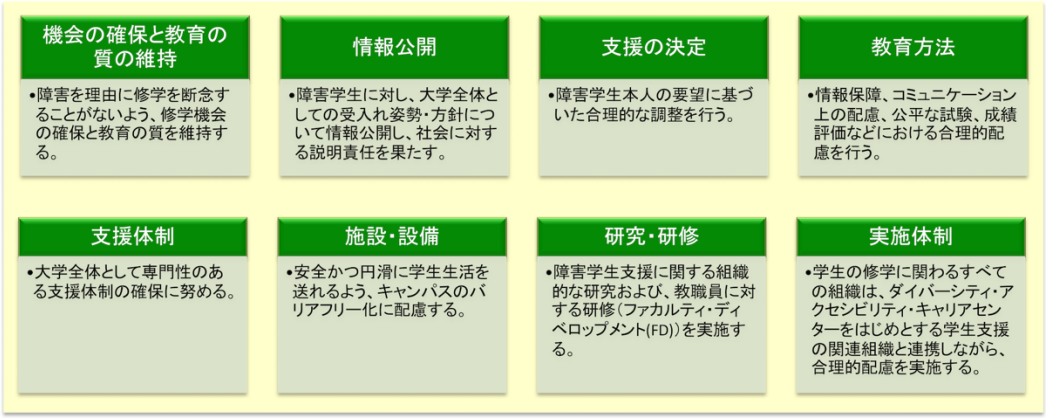
### (1)支援の目的とコンセプト

筑波大学では、障害のある学生と一般学生がともに学ぶことを通して、共生の時代を担う社会人を育成することを目的とし、障害学生支援を積極的に実施しています。また、筑波大学の障害学生支援は、以下の三つをコンセプトにしています。

- すべての学生の成長を期待する学生中心の支援活動
- 各学群・学類、各研究群・学位プログラムの専門性に基づく支援内容
- 障害科学に裏付けられ全学に平等に行きわたる支援体制

### (2)支援の理念と対応要領

本学では、国連「障害者の権利に関する条約」の理念に基づき、障害の有無や程度によって分け隔てることなく、能力と修学意志を持つ障害のある学生を受け入れ、修学のために必要かつ適切な支援を積極的に行っています。具体的には、教育研究の水準を維持しつつ、障害学生の修学に対し、合理的配慮を行い、継続的にその向上・充実に努めていくことが必要であると考えています。障害のある学生にとって、これまで以上に、学びやすい環境づくりを前進させるため、障害学生支援に関する理念を「筑波大学における障害学生支援に関する憲章」として、平成 26 年 4 月に制定しました。また、平成 28 年 3 月に筑波大学版「障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」を制定することで、障害のある学生が障害を理由に差別を受けることなく、適切な教育を受けることができるようにしています。




筑波大学における障害学生支援に関する憲章

参考:
(筑波大学における障害学生支援に関する憲章)
http://www.tsukuba.ac.jp/about/disability.html
(障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領・留意事項)
https://www.tsukuba.ac.jp/public/publicity.html

### （3）支援の特色

筑波大学は、障害学生を積極的に支援しています。
その支援組織の一つとしてヒューマンエンパワーメント推進局（以下、BHE という。）があります。BHE（アクセシビリティ支援チーム）は、障害学生の修学支援に関する相談窓口を担当し、各教育組織および事務組織との連携を密にして、全学に平等にいきわたる支援体制を作っています。

#### ア）すべての学生の成長を期待する学生中心の支援活動

障害学生の日常的な修学支援のために「ピア・チューター（学習補助者）」を配置し、本学の学生がその活動の中核を担っています。大学は、ピア・チューターの養成及び経済的な支援を行い、一定時間の活動に対しては、障害学生支援活動証明書を発行します。BHE（アクセシビリティ支援チーム）の下に組織された障害学生支援チームでは、障害学生自身も加わって、学生たちが主体的な支援活動を展開しています。

さらに全ての学生への理解・啓発を目的とした総合科目「ダイバーシティ＆インクルージョン入門」を開設し、多様な背景をもつ人々と共生する心を育てています。

#### イ）各学群・学類、各研究群・学位プログラムの専門性に基づく支援内容

全学の方針に基づいて、各教育組織が障害学生の支援の責任を担っています。このことにより、それぞれの専門分野の特性に応じた支援が保障されています。

障害学生の入学時には、BHE（アクセシビリティ支援チーム）と当該障害学生が所属する教育組織の共催による、新入障害学生入学時ガイダンスを実施し、支援ニーズや具体的な支援内容等について確認します。

#### ウ）障害科学に裏付けられ全学に平等に行きわたる支援体制

筑波大学は、障害科学を専門とする国内最大規模の研究者集団を有しており、本学の障害学生支援を支えています。支援対象の範囲や具体的な支援内容等について、専門的な見地から指導・助言を行っています。

## Support for Students with Disabilities

・Features:

University of Tsukuba has been providing vigorous supports for students with disabilities. As a core structure of the University, Bureau of Human Empowerment (BHE) conducts a deliberation on support policies, environmental arrangements on campus, and so forth. BHE (Accessibility Support team) in charge of entire services for students with disabilities facilitates close relationships between academic and administrative organizations to ensure every student with disabilities for fulfilling their campus life.

### 1. Student-Centered Support Activities for Inspiring Symbiosis Frame of Mind

In order to provide practical supports for students with disabilities for learning, BHE (Accessibility Support team) encourages all the students to participate in peer tutoring activities. University of Tsukuba aids training scheme and financial managements for the peer tutoring program. As the peer tutors are engaged in the support activities for a certain amount of time, the University issues a document certifying those activities. There is the support team for students with disabilities, which is organized under BHE (Accessibility Support team). The peer tutors and students with disabilities themselves take the initiative in the support activities.
Also, the University offers a Multidisciplinary Subject, 'Introduction to diversity & inclusion,' which aims to promote symbiosis frame of mind living with people with various backgrounds.

### 2. Support Based on Expertise in Each School, College, Program, and Main Field

As the university policies, all the academic organizations at University of Tsukuba assume responsibility for supporting students with disabilities. This ensures the expertise-based supports in relation to each area of study.
Before students with disabilities start their campus life, each academic organization that the students intend to belong to conducts counseling sessions to confirm what they need and how the University supports them in particular.

### 3. University-Wide Supporting Framework Based on Disability Sciences

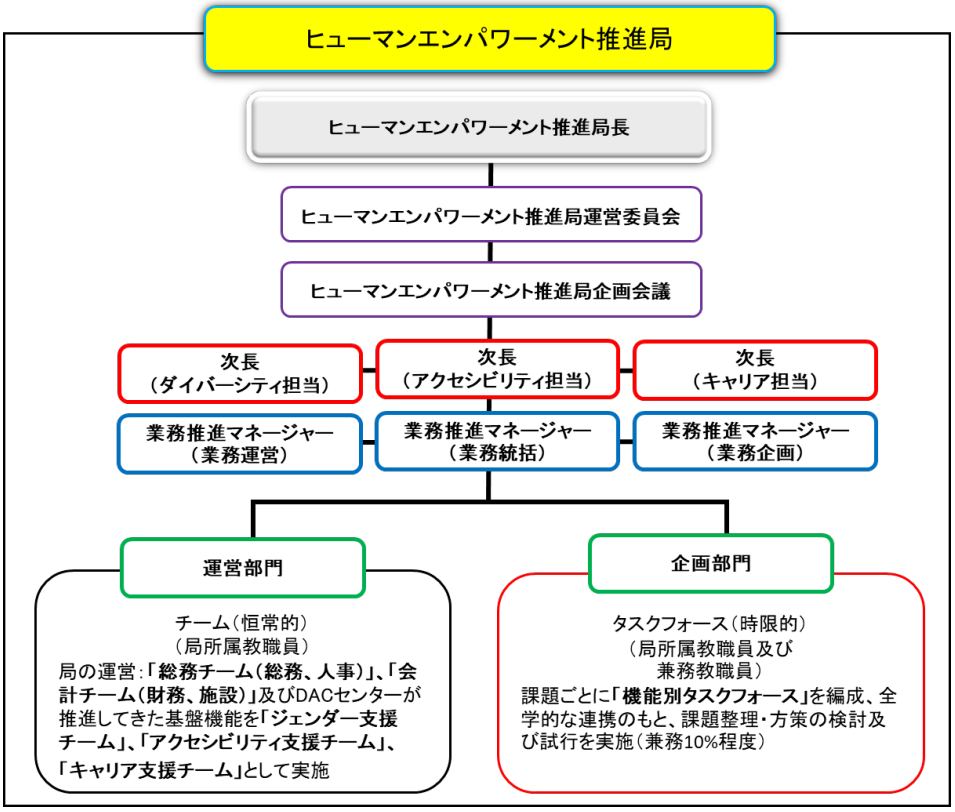
University of Tsukuba has the largest department on Disability Sciences in Japan. In terms of professional perspectives on that area of study, the scholars offer practical coaching and advices for a range of support matters, specific activities, and so forth.

## 2. 組織・体制

### (1)障害学生支援に係る支援組織

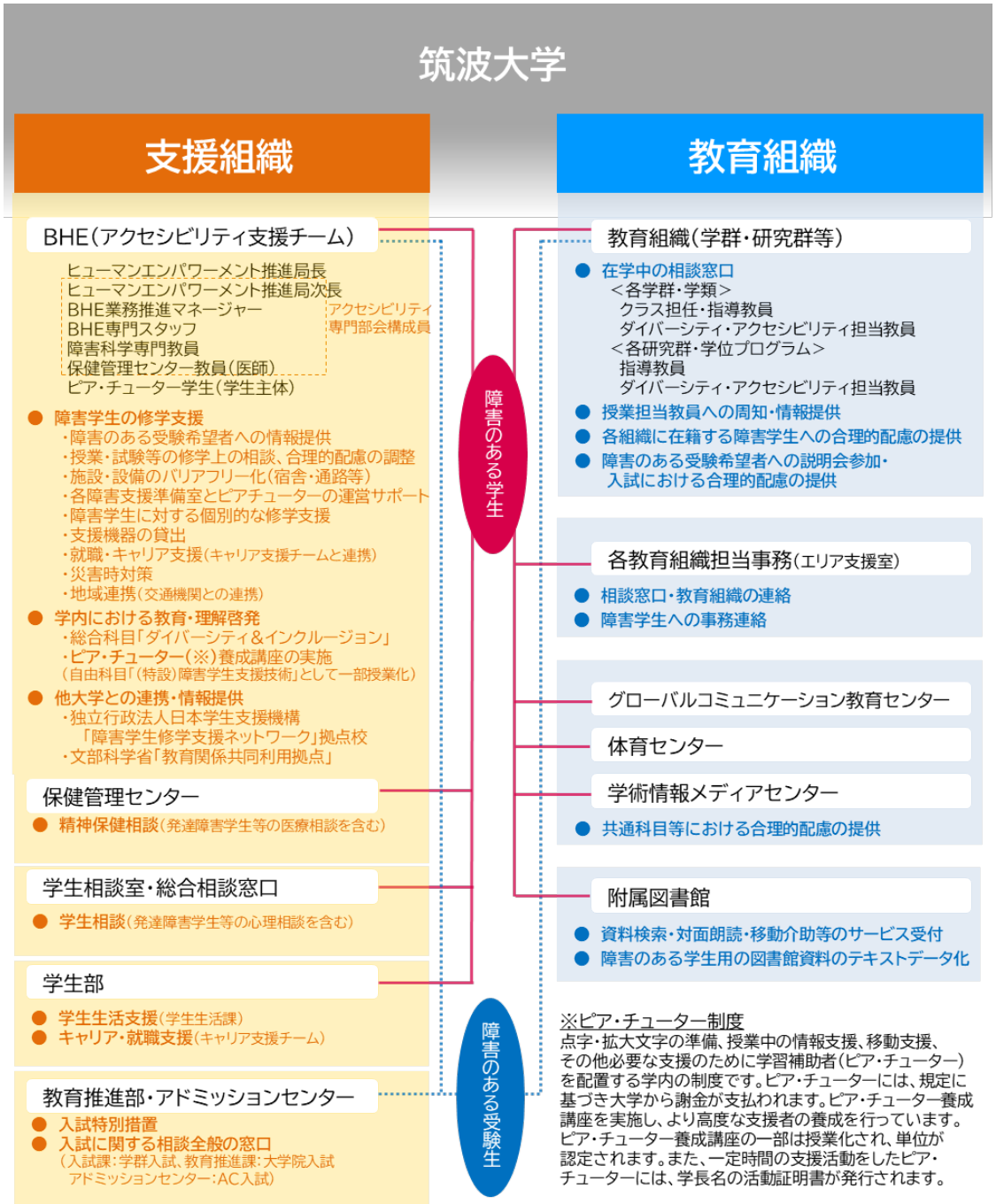
平成 27 年 10 月 1 日より、障害学生支援室は、ダイバーシティ推進室、キャリア支援室とともに、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター(以下、DAC センター)の中の部門として位置づけられることとなり、「障害学生支援室」の名称を「アクセシビリティ部門」に変更しました。平成 30 年 6 月 1 日からは、DAC センター内のダイバーシティ、アクセシビリティ及びキャリアサポートの3つの部門を有機的に融合し、ダイバーシティマネジメントを機動的に遂行するため、部門体制から大括りによる一体的な体制へと機能強化を進めていました。令和5年1月1日に発展的改組が行われ、ヒューマンエンパワーメント推進局(Bureau of Human Empowerment; BHE)となりました。

BHE には、3つのチームがあります。これまでの障害学生支援に係る組織として「アクセシビリティ支援チーム」は、障害のある学生への修学支援やピア・チューターの養成、理解啓発活動や研究活動を様々な部署と連携をしながら行っています。その他、「キャリア支援チーム」は、キャリア形成のための総合科目(学士基盤科目)や大学院共通科目の開設、各種イベントなどを通じて、学生一人ひとりが自分自身の思い描く将来に向けて準備できるよう、さまざまなサポートをしています。「ジェンダー支援チーム」は、「性(GENDER)」をめぐる様々な社会的・個別的な課題について、意識啓発活動や支援事業等を通じて、課題解決に向けた取組を行っています。



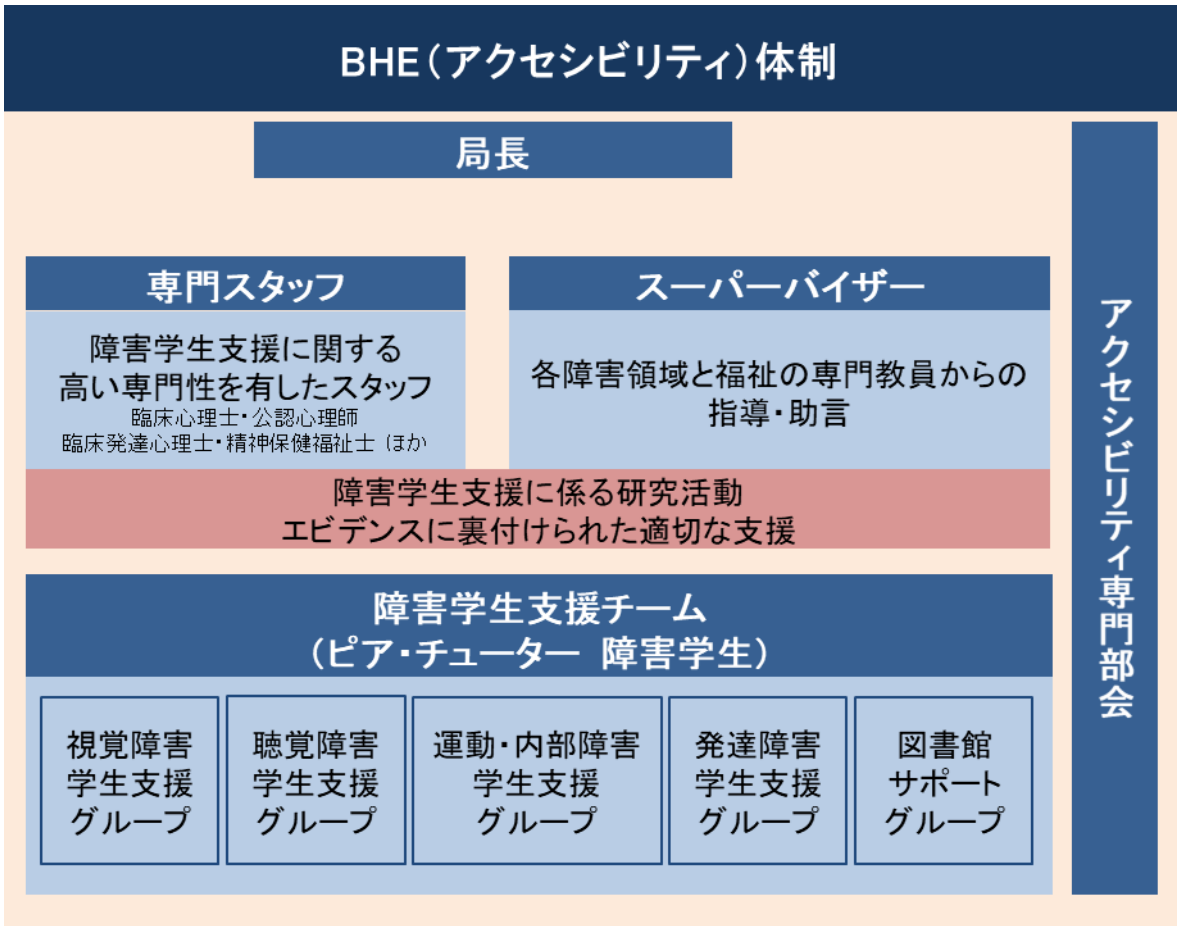

ヒューマンエンパワーメント推進局の組織図

## （2）障害学生支援に係る教育組織・支援組織の連携図



### (3)ヒューマンエンパワーメント推進局における障害学生支援体制

BHE(アクセシビリティ支援チーム)は、障害のある学生の在籍組織が修学上の合理的配慮の提供に窮することのないよう、障害学生支援に関する高い専門性を有したスタッフによって、専門的見地からの助言および合理的配慮提供に必要な助力を行うことを責務としています。支援活動にあたっては、視覚障害領域、聴覚障害領域、運動・内部障害領域、発達障害等領域の領域ごとにそれぞれ専門スタッフが配置され、アクセシビリティ専門部会に所属する構成員からスーパーバイズを受けながら、障害のある学生への適切な支援を行うともに、障害学生支援に係る研究活動を行うことで、エビデンスに裏づけられた適切な支援を提供することを目指しています。さらに学生のピア・チューターから構成される障害学生支援チームが組織されており、BHE(アクセシビリティ支援チーム)から提供される支援の一部は学生の支援活動によって、行われています。



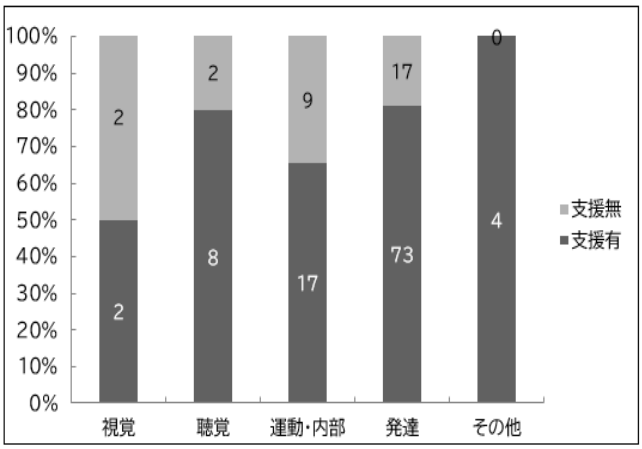

BHE(アクセシビリティ支援チーム)における障害学生支援体制図

## 3. 令和４年度障害学生在籍状況一覧

### (1)障害別利用状況(学群および大学院別)

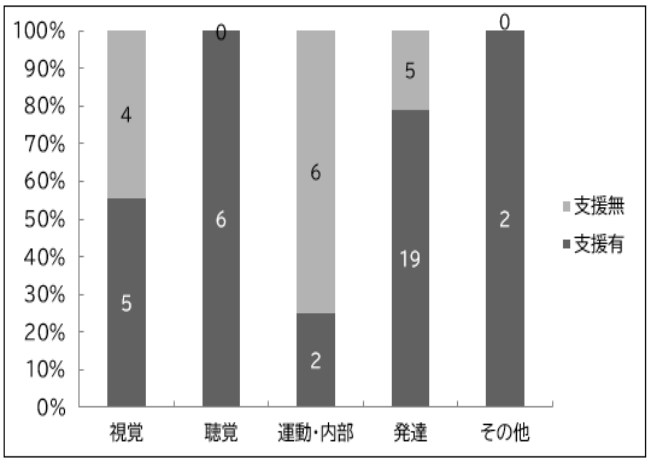
学群

| | 支援有 | 支援無 | 計 |
|---|---|---|---|
| 視覚 | 2 | 2 | 4 |
| 聴覚 | 8 | 2 | 10 |
| 運動・内部 | 17 | 9 | 26 |
| 発達 | 73 | 17 | 90 |
| その他 | 4 | 0 | 4 |




大学院

| | 支援有 | 支援無 | 計 |
|---|---|---|---|
| 視覚 | 5 | 4 | 9 |
| 聴覚 | 6 | 0 | 6 |
| 運動・内部 | 2 | 6 | 8 |
| 発達 | 19 | 5 | 24 |
| その他 | 2 | 0 | 2 |




### (2)障害別在籍状況 ※障害の重複含む

| 障害区分 | 学群 | 大学院 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 視覚障害 | 4 | 9 | 13 |
| 聴覚障害 | 10 | 6 | 16 |
| 運動・内部障害 | 26 | 8 | 34 |
| 発達障害 | 90 | 24 | 114 |
| その他 | 4 | 2 | 6 |
| | 134 | 49 | 183 |

※2月21日現在

# PART 2
# 障害学生支援実績

## 4. 学生支援実績

### (1)入学前後の対応

DAC センター主催による入学時ガイダンスを実施しました。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンデマンド配信および資料送付による全学的な支援内容および共通科目の履修に関するガイダンスと、オンライン(同時双方向)による共通科目の個別面談を実施しました。その他、教育組織が個別の入学時相談を実施したケースでは、専門スタッフがこれに参加して助言を行いました。

**ア) 新入障害学生ガイダンス**

① 主　　催:DAC センター
② 日程・場所 :3月23日(水)よりオンデマンド配信および資料送付による全学的な支援内容および共通科目の履修に関するガイダンスを実施
4月1日(金)にオンラインによる共通科目の履修に関する個別相談を実施
④ 出　席　者:障害学生、(希望により)保護者
グローバルコミュニケーション教育センター　担当教員
体育センター　担当教員
共通科目「情報」推進室　担当教員
関係教育組織の参加希望者(クラス担任、ダイバーシティ・アクセシビリティ担当教員、対応支援室事務、学類担当事務等)
⑤ 内　　容:全学的な支援内容に関するガイダンス(オンデマンド配信・資料送付)
共通科目の履修に関するガイダンス(オンデマンド配信・資料送付)
共通科目の履修に関する個別相談(オンライン)

**イ) 個別の入学時相談(学群生・大学院生)** ＊必要に応じて開催

① 主　　催 :各教育組織において設定
② 日程・場所 :各教育組織において設定
③ 出　席　者:障害学生、(希望により)保護者
教育組織の長(学類長、専門学群長、研究科専攻長等)
支援担当教員(クラス担任、ダイバーシティ・アクセシビリティ担当教員等)
対応支援室事務・学類担当事務等
DAC センター専門スタッフ等関係者
④ 内　　容: 障害の状況と支援ニーズの確認
授業・授業間移動等における配慮事項の確認
オリエンテーション等における支援内容の確認　他

### (2)大学説明会(オープンキャンパス)における支援

今年度は「オンライン型」及び「来場型(オンサイト)＋オンライン型」を併用しての開催となりました。本学ホームページ「2022 年度 受験生のための筑波大学説明会　障害のある方へのご案内」に障害のある参加者向けの動画(「本学の障害学生支援の概要説明」「障害のある学生によるキャンパスライフレポート」)を作成の上掲載するとともに、希望者との個別相談を実施しました。各学類の説明会における概要説明や模擬授業などでは、教育組織と連携し、それぞれのニーズに応じた支援(座席配慮、PC 要約筆記、文字起こし、事前の資料送付等)を行いました。

「障害別相談コーナー」はアクセシビリティ専門スタッフで相談に対応しました。相談は視覚障害1名、聴覚障害5名、運動・内部障害2名、発達・精神障害 2 名が希望しました。

### (3)式典における支援

#### ア)令和4年度入学式

4月5日(火)、令和4年度筑波大学・大学院入学式が大学会館講堂にて挙行されました。聴覚障害学生のニーズにより、総務部総務課の協力のもと、各式典において、ピア・チューターによるパソコン要約筆記支援を行いました。また、今年度より学生による手話通訳に代えて、茨城県立聴覚障害者福祉センターやすらぎによる手話通訳を実施しました。入学式の模様は、大学公式YouTubeによりライブ配信され、同画面に手話通訳を挿入しました。

#### イ)令和4年度卒業式・学位記授与式

3月24日(金)、大学会館講堂において、令和4年度学群の卒業式並びに大学院学位記授与式が挙行されました。聴覚障害学生のニーズにより、総務部総務課の協力のもと、大学院学位記授与式において、ピア・チューターによるパソコン要約筆記支援を行いました。また、茨城県立聴覚障害者福祉センターやすらぎによる手話通訳を実施しました。卒業式および修了式の模様は、映像配信業者(ミュージックプラント)によりライブ配信され、同画面に手話通訳を挿入しました。

式典におけるパソコン要約筆記の様子

### （4）ダイバーシティ・アクセシビリティ教員等に対する合理的配慮に関するオンデマンド受講

これまでヒューマンエンパワーメント推進局では障害学生と教職員との支援懇談会を実施していました。しかしながら、現在障害学生と教職員間での直接的な交流のニーズは低く、近年ではFD/SD 研修会と共催で実施してきました。そこで今年度より支援懇談会は廃止とし、オンデマンド動画による情報提供（合理的配慮の提供や障害学生支援の基本的な考え方等）への代替を行いました。

**ア）対象**

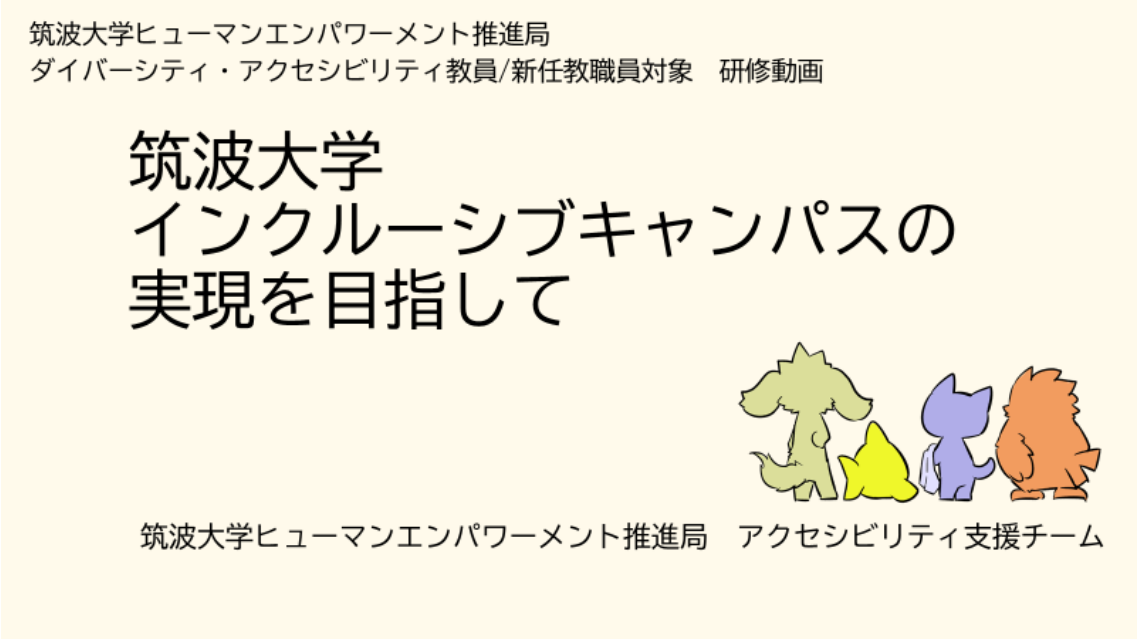
全教職員
（ダイバーシティ・アクセシビリティ（DA）教員、新任教職員を推奨）

**イ）形式**

「多様な学生 e-learning」に筑波大学教職員専用コースを設定
e-learning によるオンデマンド受講

**ウ）コンテンツ**

動画：「筑波大学インクルーシブキャンパスの実現を目指して」
時間：15 分程度
構成：大学における合理的配慮とは、合理的配慮の提供、不当な差別的取り扱いの禁止、合理的配慮の例、筑波大学における合理的配慮の提供プロセス、障害学生の声




e-learning コンテンツの画面

### (5)ICT を活用した障害学生支援

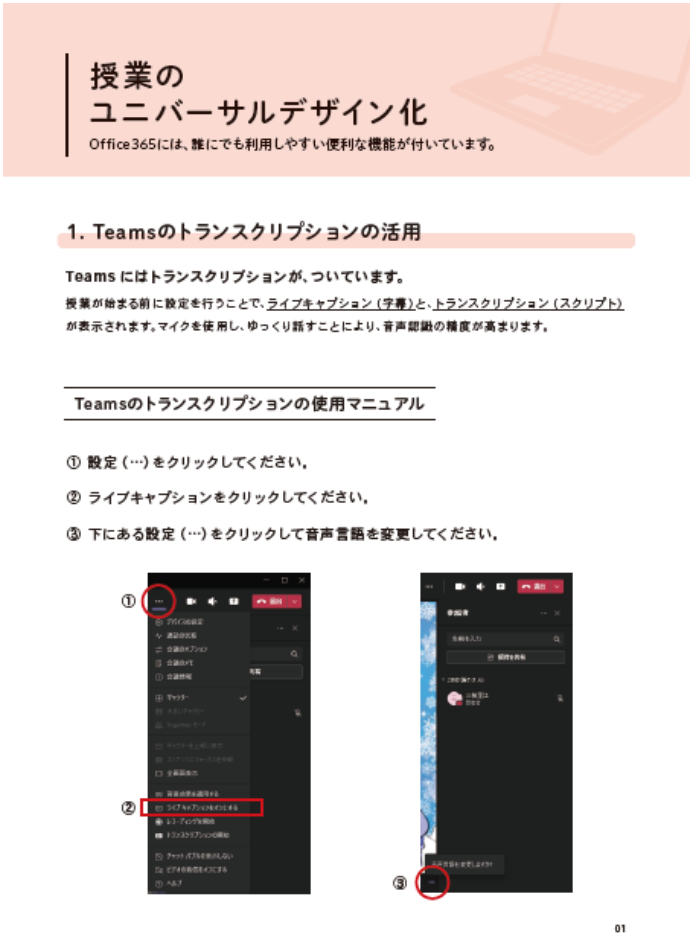
#### ア)遠隔授業におけるアクセシビリティ保障の検討

遠隔授業にけるアクセシビリティ保障を全学的に推進するため、「授業のユニバーサルデザイン化」に関する資料を作成し、アクセシビリティ支援チームのホームページ及び、教職員サイトで周知しました。資料では、Teams のトランスクリプション機能や PowerPoint の字幕や音声読み上げ機能、授業動画への字幕付与の方法をまとめた。

加えて、captiOnline や UD トークを用いた情報保障の支援を継続しています。

「授業のユニバーサルデザインデザイン化」に関する資料は、BHE(アクセシビリティ支援チーム)のウェブサイトから学外の方にもご覧いただけます。

(参考)
オンライン授業の対応　障害のある学生の受講を想定したオンライン授業の対応について(Ver.2)
https://dac.tsukuba.ac.jp/shien/support/online/

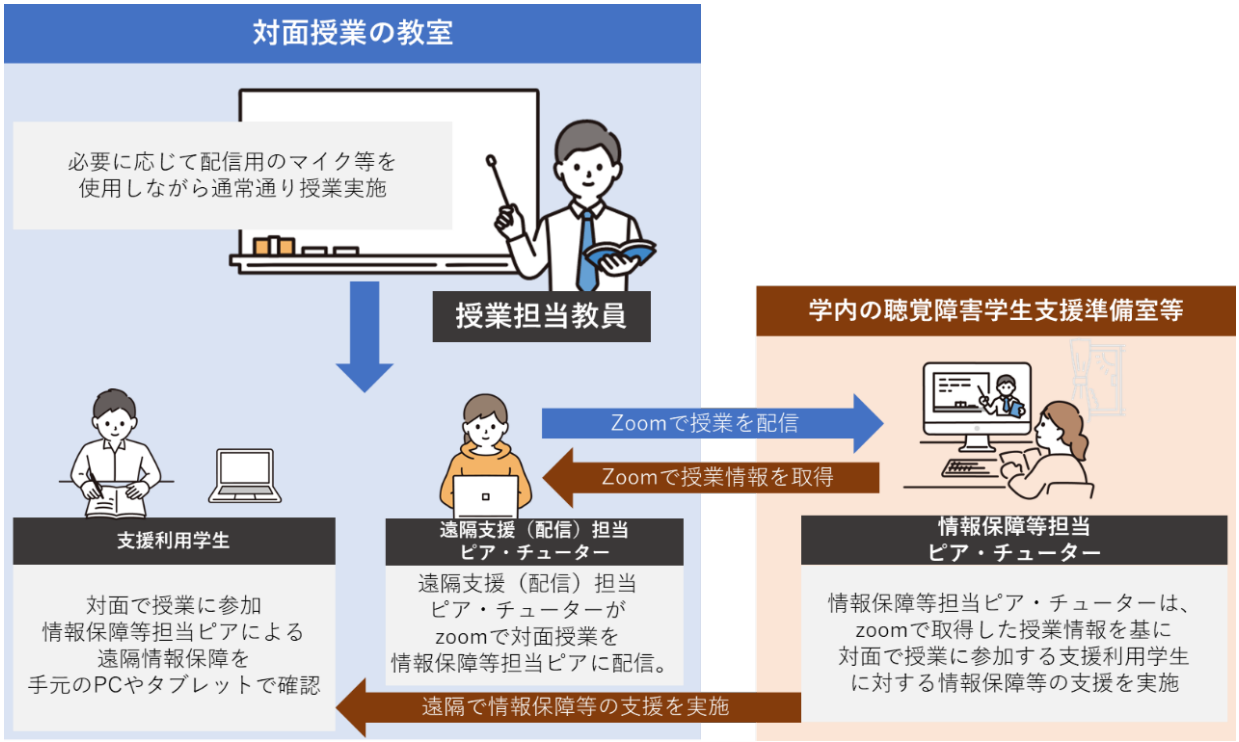



「授業のユニバーサルデザインデザイン化」に関する資料の表紙

**イ)遠隔による障害学生への授業支援の試み**

対面授業に参加する障害学生に対し、授業の配信と配信を基にした情報保障支援を実施しました。対面授業の配信にあたり、配信用機器設定マニュアルを整備するとともに配信を担当する学生への講習会を実施しました。

遠隔による情報保障支援が実現したことで、情報保障を提供するピア・チューターの移動の負担を軽減することができました。また配信を担当する学生と遠隔による情報保障を担当するピア・チューターの役割分担をしたことで、PC 要約筆記のスキルを有するピア・チューターが情報保障支援に注力することができました。




遠隔による障害学生への授業支援体制図

### ウ)iOS と iPad OS のアクセシビリティ機能活用マニュアル(仮称)の作成

障害学生と障害学生の支援に携わるスタッフに向け、iOS と iPad OS のアクセシビリティ機能活用マニュアルの政策を試みました。今年度は「見ること」に困難のある場合に活用できる機能(読み上げコンテンツ、拡大鏡)についてマニュアルを作成し、スタッフ間で内容の検討を図りました。

拡大鏡マニュアルの表紙

### (6)障害種別に関わらないニーズ別支援の実施

障害学生のニーズに応じた柔軟な支援の提供に向け、各障害領域の担当スタッフが学生の状況や支援の方針を共有する打ち合わせを定期的に実施しました。また複数の障害を重複する場合など、障害学生の必要に応じ、各障害領域の担当スタッフが連携しながら対応にあたりました。

### （7）障害を理由とした合理的配慮としてのオンラインによる授業受講

筑波大学では、「令和4年度授業の実施方針について（令和4年6月16日教育担当副学長通知）」により、対面授業または対面授業とオンデマンドの組み合わせにより授業を実施することが基本的な方針となりました。それに伴い、障害学生より障害を理由とした合理的配慮として対面授業のオンライン受講についての相談があり、対応を進めてきました。

教育組織や授業担当教員とも連携し、令和 4 年度は 32 の授業で合理的配慮としてのオンラインによる授業受講について調整を行いました。建設的対話の中で「授業の本質変更に相当する」と判断された 1 授業を除き、31 の授業でオンラインによる授業受講が調整されました。BHE では、授業担当教員に対して授業の本質変更にあたらない範囲で実施することの説明・依頼、合理的配慮依頼文書への記載、スタッフとピア・チューターによる対面授業のオンライン授業配信補助（機器の設定や zoom 等によるオンラインリアルタイム配信、機器の貸し出し等）、授業配信用機器の準備（ミーティング用マイク・カメラ、配信用カメラ等の購入）に取り組みました。今後の課題として、教育組織への合理的配慮に関する情報提供・理解啓発に向けた「合理的配慮としてのオンラインによる授業受講に関するＱ＆Ａ」の作成や、全学教職員向けのオンデマンド動画教材の公開などがあげられました。

### （8）障害学生に対する合理的配慮に関するアンケートの実施について

配慮依頼文書により合理的配慮を申請した学生について、合理滝配慮の提供状況や、学生の支援に対する評価を収集し、今後の学内での障害学生支援に役立てるために実施しました。また、次学期及び次年度の配慮依頼文書作成に向け、障害学生が春学期の支援について振り返り、面談担当者にアンケート回答内容を共有することで面談を効率的に進めることを目指しました。

アンケートは春学期終了後と秋学期終了後の 2 回実施し、無記名回答・記名回答を学生が選択できるように設定しました。アンケートでは、学年、障害種（重複回答可）、申請した合理的配慮（選択式）、申請した合理的配慮の提供状況（「十分である」～「十分でない」の４段階選択式）、提供された合理的配慮の満足度（「満足である」～「満足でない」の 4 段階選択式）、合理的配慮提供までに要した時間の満足度（「満足である」～「満足でない」の 4 段階選択式）、合理的配慮を申請した授業の時間数、合理的配慮が提供されない／不十分だった授業の有無、合理的配慮の申請や提供に関する希望や困っていることに関する自由記述回答、から構成されました。

アンケートの結果、回答学生はおおむね提供された合理的配慮が十分であり内容にも満足していた一方で、一部の授業で建設的対話が円滑に進まない、あるいは合理的配慮提供まで時間を要したという回答も寄せられました。今後の希望として、全教職員に対する合理的配慮提供に関する理解促進や、授業で配慮依頼文書を提出する際の提出方法の工夫、ピア・チューター制度の周知・説明を十分に実施すること等があげられました。

### （9） 障害別の支援に関する重点課題

#### ア） 視覚障害

① 視覚障害学生に対するアセスメント方法の整理と卒業までの成長を見越した支援内容の検討

視覚障害学生に対する面談の中で継続的にアセスメントを行っており、入学時から卒業まで、変化するニーズに対応した支援を行っています。今年度は大学を卒業する学生がおり、就職先で必要となる合理的配慮内容について検討・確認するために、対面・オンラインにて面談を行いました。その他、新入学生に対しては、必要となるピア・チューターの支援について、口頭に加え文章としても、その概要や利用方法を伝える試みも行いました。

② 教材（テキストデータ等）の有効的な共有を行うためのシステムの充実

附属図書館の「資料電子化サービス」との協力・情報交換を重ね、図書館資料のテキストデータ化を行うLS（Library Support）グループの活動を行っています。附属図書館とBHEの連携によって、障害のある学生のために教科書・論文等をテキストデータ化、蓄積・提供する本サービスは、製作した学術的な視覚障害者等用データおよびメタデータをさらに国立国会図書館に提供することで、全国の視覚障害者等の利用に供する社会貢献事業にもなっています。
今年度は対面にて養成講座を実施できた一方、資料のテキスト化については依頼がなく、チューター活動も行われていない状況にありました。そのため、チューター活動の定着と支援技術の維持を目的に、来年度に向けチューター活動の仕組みや利用学生増加に関する再検討を学生・図書館とともに行いました。

③ 視覚障害学生支援ピア・チューターの積極的な参画に関する検討

感染対策に留意しつつ、対面での各種ミーティングや支援活動を再開させた他、Teams内に学生交流用のチャネルを作ることで、チューター同士のかかわりを増やし、支援活動へ入る上での障壁の軽減を行いました。来年度においても引き続き、対面での活動をメインに、チューター活動が行いやすくなるよう努めていく予定です。

④ 視覚障害学生支援ピア・チューターの支援技術・方法に関する維持・向上

昨年度に比べ固定支援が常時行われるようになり、支援活動が少しずつ増加してきました。一方、ピア・チューター間でこれまで培ってきた支援技術やグループ運営に関する方法の引き継ぎについて課題となっています。今年度は養成講座及びその準備を対面で実施し、支援機器の利用方法や養成講座プログラムの確認を行った他、ピア・チューターの支援形態について学生と整理・再検討を行いました。加えて、チューターとして登録している学生に対する、支援技術の復習と学生同士の交流会を実施しました。来年度は支援活動の増加が予想されるため、引き続き支援へ入れるチューターの増員と、支援技術の引き継ぎが課題となります。

#### イ） 聴覚障害

① 合理的配慮のためのアセスメント等実施とその結果に基づいた支援内容の検討

合理的配慮のためのアセスメントと支援内容等を検討し、オンラインによる遠隔支援も含めて個々の支援ニーズと実情に即した支援を提供しました。

② 情報支援におけるユニバーサルデザイン化への普及と啓発

これまでグループワークを伴う授業においては、パソコンで情報支援を行い、コミュニケーションツールとしてスマホを活用していましたが、iPad 端末の導入により情報支援とコミュニケーションツールの機能が一本化され、グループワークの円滑化に効果がみられました。併せて、多様なコミュニケーションを用いる聴覚障害学生の理解啓発に有効であることが確認されました。

**ウ)運動・内部障害**

① ピア・チューター登録者(支援未経験者)の支援参加促進

運動障害学生用コーディネートシステムと聴覚障害学生用コーディネートシステムを統合したシステム改修と追加開発に向け、今年度は運動障害・聴覚障害学生と支援のコーディネートに関わるピア・チューター学生からの要望を聞き取る打ち合わせを開催しました。令和5年度春学期からの運用に向け、令和4年度中にシステム改修と追加開発を終了する予定です。

**エ) 発達障害**

① ヒューマンエンパワーメント推進局アセスメントの実施

「個別の心理・教育的アセスメント」によるアセスメントを実施し、円滑な修学支援を進めました。

② 教育関係共同利用拠点事業

教育関係共同利用拠点の再認定に伴い、全国の大学教職員等を対象とした(1)多様な学生支援に関する FD/SD 研修会・講師派遣、(2)多様な学生支援に関するコンサルテーション、(3)多様な学生支援に関する教材・データベースの展開、(4)カリキュラム開発・評価を行いました。

③ 発達障害のある高校生向け大学生1日体験講座の実施

2022 年8月と 2023 年3月に発達障害のある高校生向け大学生1日体験講座を企画・実施しました。

④ Learning Support Book の自走化(有償化)の実施

LSB の有償配信を継続実施した。教職員が閲覧可能なトライアル版(無償版)は 28 校、所属学生も自由に閲覧できるフルサポート版(有償版)は 17 校より申し込みがありました。

⑤ 発達障害学生支援に関する広報活動の充実

教職員や学生、一般等への発達障害に関する理解・啓発を目的として、発達障害啓発マンガ「ヒトはそれを『発達障害』と名づけました」のキャラクターが登場する活動報告(マンガ)を作成・公開しました。また、RADD プロジェクトのホームページで公開している漫画に書き下ろしを加える形で、株式会社金子書房より上記キャラクターを用いた発達障害啓発漫画を出版しました。

⑥ 発達領域ピア・チューター活動の充実

発達障害領域のピア・チューター養成講座を開講し、今年度ピア・チューターを 34 名養成しました。また、ピア・チューターの活動を円滑に進めるため、月1回程度のチームミーティングを行うとともに、ピア・チューターの係分担や連携方法、グループ活動の進行等について検討を進めました。

**5. ソーシャルワーク**

① 常時介護を要するような重度の障害者に対する支援体制の構築

常時介護を要するような重度の障害学生への支援に関わり、相談支援事業所を中心とした支援ネットワークとの連携を図り、必要に応じて連絡調整を行いました。自治体の費用負担により学内で行われる学生への身体介助の提供に際し、必要となる入構手続き及び待機場所の調整等を図りました。また、自治体及び大学における支援体制について情報共有を図ることを目的に学生の居住地自治体との意見交換を行いました。

② 大学在学中に利用できる福祉制度・サービスとの接続支援

新入障害学生ガイダンス、障害学生支援懇談会、オープンキャンパス時などにおいて、大学在学中に利用できる障害福祉サービス・福祉制度の利用についての概要や過去の支援例の説明を行い、BHE での相談体制を示しました。

学外で医療（精神科通院、訪問看護、カウンセリング）及び福祉サービス（訪問介護、就労移行支援）への接続を希望する学生に対して、医療サービスや福祉サービスに関する情報提供を行うとともに、必要に応じて相談支援事業所、訪問看護ステーション等との接続支援及び利用開始後の連絡調整を行いました。

また、重度肢体不自由者の自立生活に向けた取り組みについて情報提供しました。

③ 地域の福祉行政・事業者等と連携したリソース確保

相談支援事業所・訪問介護事業者と連携して、重度訪問介護従業者養成研修を受講した学生ヘルパーを活用できるよう準備しました。

④ ホームページ上の学外の社会資源との接続に関する情報の更新

アクセシビリティ支援チームホームページにおいて「学外の社会資源との接続」としてこれまでにも福祉サービスに関する各種情報を提供しており、本年度は情報の更新を実施しました。具体的には、学内で利用する修学支援と居宅で利用する生活支援の違いに関する説明、社会資源を導入するまでのプロセス、具体的な社会資源を参照するためのリンク集を新規項目として追加し、Ｑ＆Ａ の内容も運動・内部障害以外の障害学生やその保護者等の閲覧を想定して更新しました。

**（10）教育組織による支援**

**【人文・文化学群　人文学類】**

BHE 及び関係教育組織と協力して、本学類の障害学生に対して対面授業のオンライン受講が可能となる配慮を行いました。

**【人文・文化学群　比較文化学類】**

学生２人の対応についてBHEと協力し、どちらの学生も配慮依頼文書の発行によって授業への参加が容易になりました。

**【人文・文化学群　日本語・日本文化学類】**

2022 年度の大学説明会において、説明会当日（オンサイト）には障害のある参加者はいませんでしたが、後日学類 Web サイトにアップロードしたオンライン（オンデマンド）配信の動画にはDAC センターから発行された依頼文書（令和4年度大学説明会における障害のある参加者への合理的配慮の提供に係る協力について）を参考に字幕を付与しました。

**【社会・国際学群　社会学類】**

推薦入試における車いす学生、トイレ利用に特別な配慮が必要な学生に対し、机・椅子の配慮、移動の配慮等を行いました。その他、精神疾患がある学生に対し、社会学類における委員間・アドミニ職員横断的チームを作り、多くの協議や助言を行いました。

**【理工学群 数学類】**

**ア）聴覚障害を持つ学生への配慮**

対面の授業において BHE から支援者を派遣してもらい、毎回の対面授業の文字おこしをしてもらいました。ハイブリッド授業では教員が文字おこしをしました。授業の動画については、字幕をつけるなどの作業を教員が行いました。

演習の発表においても、Zoom を使って発表できるように配慮しました。具体的な手段として、例えば以下の方法が取られました。

・手作業による自動字幕の修正
・文字起こしアプリ「UD トーク」や「Whisper」を使用した Zoom によるハイブリッド授業
　manaba における補助教材を用いた授業
・ピア・チューターによる授業参加

なお、演習の授業では筆談にて質問対応をされる教員もいました。

セミナー形式の授業では、クラスの学生には「発表する際には、必要なことを口頭で述べるだけでなく板書すること」と指導した教員もいます。

**イ）病気療養中の学生への配慮**

病気療養中の学生（物理学類）から同時双方向のオンライン授業の要望があり、BHE に依頼したところ、BHE から毎回人を派遣してもらいオンライン対応を実施することができました。

**【理工学群　物理学類】**

5-6 月に障害学生（物理学類 2 年次及び 1 年次）に対する個別相談をオンラインで実施し、DAC センター・本人・保護者・学類長を含む教員等と今後の方針について相談し、期末試験等における教室移動、実験の遂行における補助、てんかん発作などに対する対応等に関してサポートを行いました。また、9 月には発達・精神障害を持つ 3 年次の学生や、海外で入院治療を受ける 1 年次の学生に対する対応を DAC センター・学類長・担任教員間で協議し、授業に参加できない時の代替措置、授業資料や授業録音などに関する配慮を行いました。

**【理工学群　工学システム学類】**

国際バカロレア特別入試において、松葉杖の利用者に対して以下の措置を行いました。
エレベーターの使用を許可しました（通常、受験生は使用禁止）。
席の後ろに松葉杖を置くための椅子を用意しました。
本人が着席するための可動式の机と椅子を用意し、楽な体勢で受験できるようにしました。

**【生命環境学群　生物学類】**

本年度に入学した運動障害の学生について、学類長、クラス担任、ダイバーシティ・アクセシビリティ担当教員、生命環境エリア支援室スタッフ、DAC センタースタッフがミーティングを行い、障害状況の情報共有と実習を含めた生物学類の授業履修における対応について話し合いました。

学習障害の可能性のある学生（複数）について、主にクラス担任と DAC センターの間で相談等行い、適宜、配慮依頼文書を作成して修学の支援を行いました。

**【生命環境学群　地球学類】**

３年次生１名の障害学生への配慮を秋学期に行いました。当該学生は ASD に起因する感覚過敏性により、教室で対面授業を受けることが難しい状況であったため、同時双方向型のオンライン授業への参加を認めました。

**【人間学群　教育学類】**

教員免許取得を希望し、教職科目を履修している科目等履修生に聴覚障害学生が１名おり、当該学生からの配慮の依頼内容を基に、各科目担当教員による個別支援を行いました。それに加え、他の教員にも「聴覚障害学生のための授業における合理的配慮」のマニュアルを配布し、聴覚障害学生のための授業支援に対する理解を高めました。

**【人間学群　障害科学類】**

内部障害のある学生において、障害に起因して授業や研究会等への参加が困難な場合に機器を用いた双方向授業を行う対応を行いました。一方向でも差し支えない授業では、対面授業に加えてオンライン授業をデュアル形式で実施する対応を行いました。

**【体育専門学群】**

**授業等における支援**

肢体不自由のある学生の専門実技・演習に関して、課題、用具、ルール、環境等へのアダプテッドが当たり前のこととなるように工夫して実践しました。例えば、実技の授業に際して、実技内容に応じた用具や補助具の作成を行い、肢体不自由のある学生だけでなく、教員や一緒に受講する学生にも使用できるようにし、体育実技をするうえでの障害について体験的に理解させるようにしました。また、車いすを使用する体育学生のキャンパス内移動に関するバリア、トレーニング環境についての実地調査を行うとともに、学生による評価も実施し、より良い教育環境の構築に向けて検討しました。

**トレーニング環境の整備**

パラスポーツにおける競技環境の整備として、車いす対応のトレッドミルへのアクセシビリティを高めることや競技用車いす、プロテクター等の整備・補充を行いました。

**【医学群　医学類】**

継続して支援を行っている学生についての報告です。

クリニカルクラークシップ（病院実習）において、左腕に疼痛があり自由に左腕を使うことができない学生に対して、学群長、学類長、主治医らによる障害支援委員会を３～４ヶ月に一度程度の割合で開催しました。昨年に引き続き本人の承諾の元、各診療科でクリニカルクラークシップでの実習がスムースに行えるよう指導教員に情報提供し配慮を要請すると共に、実習中でも左腕のリ

ハビリテーションに通う時間の確保を依頼しました。
　客観的臨床能力試験（Post-CC OSCE）におけるインクルージョン支援を行いました。試験に際し、医学群医学類障害学生支援委員会は支援案を作成し、試験を主導する公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）と WEB による協議を 3 回行い、試験時間延長などの支援を行うことが CATO により承認されました。これにより当該学生は Post-CC OSCE を無事に受験し、合格しています。

**【情報学群　情報科学類】**
**ア） 入試における配慮**
　視覚障害のある受験生に対し、前方中央の席での受験となるよう配慮しました。適応障害のある受験生に対し、別室での受験を認めました。また、聴覚障害のある受験生に対し、前方での席、文書による情報伝達、補聴器の持参・装用を認めました。

**【情報学群　知識情報・図書館学類】**
　新しく入学する障害学生に対して、必要な配慮について入学前に DAC センター、学類長、クラス担任及び学生支援でオンライン面談を行い、薬品を保管するために冷蔵庫を購入しました。

**【総合学域群】**
　新入障害学生に対して総合学域群アカデミックサポートセンター、BHE、総合学域群担当教員からなるサポート体制を構築し、相談支援事業所等との接続支援及び利用開始後の連絡調整、複数の担当者による定期的な面談を行うとともに、期末試験に対する配慮等を行い、継続的な学修支援を行いました。

**【人文社会科学研究群　人文学学位プログラム】**
　災害時等に電動車いす使用の学生を搬出するため、イーバックチェア（災害・非常用階段避難車）の設置業者による実践的な講習会を、学生、支援室、SP 事務室、関係教員参加のもと5月に行いました。

**【人間総合科学研究科　心理学専攻・人間総合科学研究群　心理学学位プログラム】**
　チャット機能の活用（ゼミ・研究指導）：発達障害のある学生に配慮し、発表や質疑応答、個別面談にチャット機能を用いることで、常時、音声でのやり取りに代替して文字でのやり取りを可能としました（音声での質問に対して、タイピングにより応答することも含む）。
　個別面談環境の調整（研究指導）：発達障害のある学生に配慮し、部屋の明るさ、座席の配置等、本人にとって最適な環境の設定方法を聞き取りし、論文指導時の環境調整を実施しました。また、発達障害・精神疾患のある学生に配慮し、共有画面にリアルタイムで面談内容を書き込みました。また、随時、学生が希望する場合、心理教育を実施しました。
　精神疾患・発達障害のある学生に対し、就労移行支援事業に勤務する会社員（かつ研究者）との面談機会を設定し、就学後キャリアパスに関する相談、及び就学後得られうる支援についての情報提供を行いました。
　学位審査を含む集団面接（オンライン）：教員からの音声による質問は、随時学生へ文字要約をして共有しました。また、音声で質問した教員への回答を、チャットでも回答可能にしました。

**【人間総合科学研究科　障害科学専攻・人間総合科学研究群　障害科学学位プログラム】**
　博士前期課程における発表会：聴覚障害学生2名に対し、情報支援を行いました。具体的には、中間発表会・最終発表会に手話通訳士を配置しました。また、感覚過敏のある学生に対して、発表プログラム及び発表会場の調整を行いました。加えて、最終試験の時間延長を希望する障害学生の要望に応えました。

**ア)研究指導及び相談:**

聴覚障害学生への指導や面談においては、学生の要望に応じて、音声認識(学生の要望にあわせて UD トーク、Teams や Google の音声認識等、ロジャーペンの使用)、あるいは、対面による面談等を実施しました。

**イ)講義:**

聴覚障害学生に対して、リアルタイムオンライン講義では文字通訳による情報支援や Teams の音声認識を利用するとともに、情報を補足する資料等の提供を行いました。また、BHE からピア・チューターの支援を受けました。運動障害学生に対して、講義室に養護机を据置するとともに BHE からピア・チューターの支援を受けました。

学生生活:視覚障害学生及び運動障害学生に対しては、学生メールボックスの位置の配慮を行いました。また、運動障害学生に対して、人間系総合支援室の利用に際して特別な配慮を行いました。学習室について、運動障害学生にはアクセスしやすい1階とし、車いすで使用しやすいように室内を整備しました。

新入生の配慮確認:BHE の協力のもと、担任及び指導教員を中心に、大学院教務に関連する事務スタッフも交えて、個別に支援内容の調整・確認を行いました。

**ウ)入学試験:**

博士前期課程推薦入学試験において、運動障害のある受験生に対し、試験時間を1.3倍とし、拡大問題による出題、iPad による解答等及び別室受験等の特別措置を行いました。また、学習障害のある受験者に対し、筆記試験の試験時間を1.3倍とし、パソコンによる出題と解答等及び別室受験等の特別措置を行いました。博士前期課程一般入学試験において、学習障害のある受験者に対し、筆記試験の試験時間の延長(専門科目 1.3 倍、外国語 1.5 倍)、パソコンによる出題と解答等及び別室受験等の特別措置を行いました。博士前期課程社会人特別選抜入学試験において、難聴のある受験生に対して補聴器の持参・使用を認めました。

**エ)大学院説明会:**

事前に参加希望者全員に対して配慮要望の確認をしましたが、希望はありませんでした。

**【人間総合科学研究群 リハビリテーション科学学位プログラム】**

運動障害のある院生(車いす利用者)に対して事前相談及び車いす用の机の準備を行いました。

盲導犬使用の重度視覚障害のある院生に対して、事前相談、入学時の校舎内等の配置・歩行のオリエンテーション、論文発表会等におけるデータの提供、授業におけるテキストデータの提供の配慮を行いました。

点字受験の配慮を希望する受験者に対して、点字及び音声による出題、PCによる解答、誘導等の配慮を行いました。

**【人間総合科学研究群 医学学位プログラム】**

聴覚障害のある学生に対して、録画した授業の動画に字幕を付与しました。

**【人間総合科学研究群 芸術学学位プログラム】**

芸術学学位プログラムに入学した聴覚障害のある学生に対して、下記の支援を行いました。

新入生のオリエンテーションでは説明 PPT に自動字幕をつけ、理解促進を目指しました。

授業等における支援として、中間報告会等において発表者全員に「PPT に自動字幕の表示」を設定するよう指示し、学生が相互に理解を促進するよう、インクルーシブ環境の向上に努めています。

**【人間総合科学研究群 フロンティア医科学学位プログラム】**

8月期及び2月期入試、入試説明会、研究室見学においては、特段の対応及び問い合わせ等はありませんでした。

特発性過眠症の学生に対し、主たる実験研究場所である動物実験施設内において、急な眠気に備える休憩場所の設置・服薬及び飲水の特別な許可（通常は飲食厳禁）といった対応を行いました。

**【人間総合科学研究科　体育学専攻・人間総合科学研究群　体育学学位プログラム】**

**ア）トレーニング環境の整備**

今年度は対象となる障害学生がいないため、すでに整備している競技用車いす、測定機器等の点検・整備を行いました。

**イ）学修環境に関する相談**

視覚障害のある受験希望者より、入学後の学修環境についての個別相談があり、先行事例をもとに実施可能な対応について提案しました。

**【理療科教員養成施設】**

視覚障害学生に対し、授業資料を適切な形式（テキストデータ、点字、拡大文字）で提供しました。

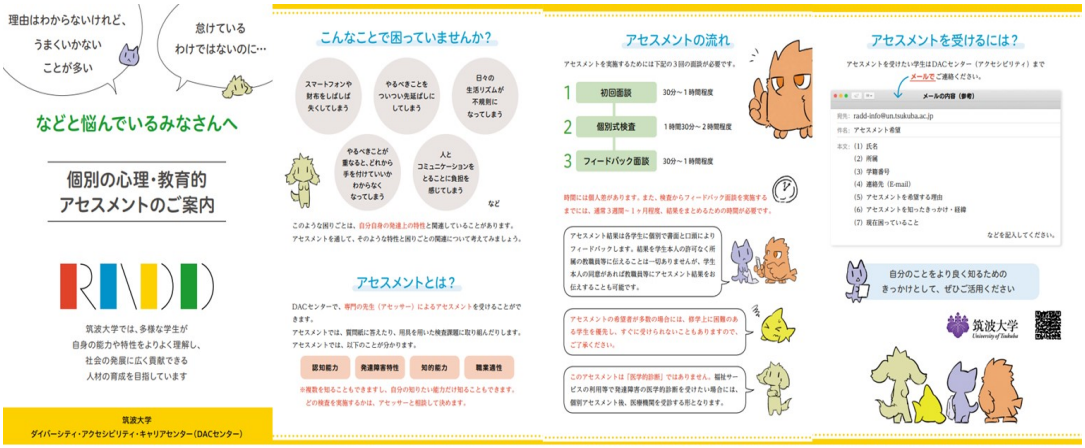
新任の重度視覚障害教員に対して、非常勤職員を雇用し、支援を行うとともに、読み上げなど必要なソフトウエア、点字ディスプレイなどのハードウエアの提供を行いました。

## (11)ヒューマンエンパワーメント推進局アセスメント機能

近年、医学的診断はないものの発達障害の傾向があり、修学上の困難を有する学生が広く認知されるようになってきています。この課題に対応するため、ヒューマンエンパワーメント推進局ではアセスメント機能を設けています。このアセスメント機能では、専門職であるアセッサーが筑波大学に在籍する学群生・大学院生等を対象にした修学状況の包括的なスクリーニングを行い、特に支援ニーズの高い学生に対して発達障害特性や知的能力等を客観的に評価する個別の心理・教育的アセスメントを行います。今年度は、ヒューマンエンパワーメント推進局のホームページをみてアセスメントを希望した学生等、約 130 名に対して個別の心理・教育的アセスメントを実施しました。

令和 5 年度以降は、今年度の組織改編に伴って実施した、窓口対応から相談、アセスメント実施に至る具体的なフローに基づいた円滑な修学支援体制を新たに構築し、「学生の多様な能力アセスメント事業」として、アセスメント体制の充実を図って参ります。

【ヒューマンエンパワーメント推進局アセスメント機能の詳細】
https://dac.tsukuba.ac.jp/shien/disabilities/developmental_disabilities/assessment/




個別の心理・教育的アセスメントに関するパンフレット

### (12)アクセシブルスタディルーム(AS ルーム)

大学では発達障害のある学生が増加しており、なかでも、自閉スペクトラム症(ASD)のある学生では感覚の過敏性のある学生も少なくありません。また、オンライン授業が行われるようになり、発達障害に限らず、視覚や聴覚に関して疲労や過敏性を感じる学生もいます。
なかには、感覚の課題により、本人の知的能力に問題がなくても、学習困難になることもあります。

しかしながら、教室などの大学の学習環境では、多数派(マジョリティ)に合わせた学習環境で設計されている場合も多く、多様な感覚のある学生に対して個別にカスタマイズできるような環境設計の取り組みは行われていませんでした。

そこで、障害科学を専門とする筑波大学人間系と、デザインを専門とする筑波大学芸術系の教員や学生と共同プロジェクトチームを 2019 年 12 月に結成し、国内外で取り組まれているセンサリールームを参考にしながら、「個人の多様な感覚特性に応じてカスタマイズできる1人用学習・休憩室」を考案しました。

2021 年 7 月に、共同自習室と1人用学習・休憩室の2室で構成される「アクセシブルスタディルーム(Accessible Study Room)」が完成しました。

障害のある学生を中心に、個々の学生がそれぞれの好みや心地よさに合わせてカスタマイズしながら、自分にとって快適な感覚の環境を探し出し、自身の学習環境の構築に役立てられるようにしております。

#### ア)利用方法

BHE に支援申請済みで AS ルームの利用を希望する学生が、スタッフと相談の上で利用します。AS ルームはスマートロックで管理されており、iOS や Android アプリケーションのダウンロード後、スタッフから鍵が発行されます。

AS ルームは 1 人でも心地よく利用できるように、完全予約制になっています。AS ルームを利用する際は、専用の予約サイトを通じて使用する日時を予約します。

#### イ)2022 年度登録状況

休憩室:22 名
共同自習室:33 名

＜休憩室の様子1　照明を調整して部屋全体を青く光らせている様子＞

＜休憩室の様子2　休憩用のベッドや Yogibo が設置されている＞

＜共同自習室の様子1　パーティションで 3 つに区切られた1人用自習スペース＞

## 5. ピア・チューターの養成等

### (1)ピア・チューター制度の概要

点字・拡大教材の準備、授業中の情報支援、移動支援、その他修学上必要な支援のためにピア・チューター(学習補助者)を配置する学内の制度です。BHE(アクセシビリティ支援チーム)では、より高度な支援者を養成するために、ピア・チューター養成講座を実施しています。ピア・チューター養成講座は、自由科目(特設)障害学生支援技術として授業化され、単位が認定されます。ピア・チューター活動では、規定に基づき大学から謝金が支払われます。また一定時間の支援活動を行ったピア・チューターには、学長名の活動証明書が発行されます。

### (2)ピア・チューター養成講座の実施

令和4年度は、下記の年間予定の通り、ピア・チューター養成講座をコースごとにそれぞれ実施しました。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、オンラインと対面を併用した講座となり、92 名が受講しました。令和 4 年度は新たに 73 名の学生がピア・チューターとして登録し、活動しました。

令和 3 年度「障害学生支援技術」障害種別養成講座年間予定

| | 日 時 | 講 座 | 内 容 | 備考(対象者等) |
|---|---|---|---|---|
| 春学期 | 6月11日(土)<br>12日(日) | 視覚コース<br>第1回 | パソコンを用いた基本的な支援の実習など | 2 日間:11 時間★2<br>(10:00~16:00)★3 |
| | 5月22日(日)<br>29日(日) | 聴覚コース<br>第1回 | 手書き要約筆記及びパソコン要約筆記に関する講義と実習 | 〃 |
| | 6月4日(土)<br>5日(日) | 運動コース<br>第1回 | ニーズ予想、車いす体験、移動支援、ノートテイクの実習など | 〃 |
| | 6月25日(土)<br>26日(日) | 発達コース<br>第1回 | 発達障害の理解、支援機器の体験、発達障害当事者との交流、グループワークなど | 〃 |
| | 5月21日(土)<br>6月18日(土) | LS コース<br>第1回 | 資料電子化(校正・図表の説明)に関する講義と実践演習 | 〃 |
| 秋学期 | 10月1日(土)<br>2日(日) | 視覚コース<br>第2回 | パソコンを用いた基本的な支援の実習など★1 | 〃 |
| | 10月15日(土)<br>22日(土) | 聴覚コース<br>第2回 | 手書き要約筆記及びパソコン要約筆記に関する講義と実習★1 | 〃 |
| | 11 月12日(土)<br>13日(日) | 運動コース<br>第2回 | ニーズ予想、車いす体験、移動支援、ノートテイクの実習など★1 | 〃 |
| | 11月26日(土)<br>27日(日) | 発達コース<br>第2回 | 発達障害の理解、支援機器の体験、発達障害当事者との交流、グループワークなど★1 | 〃 |
| | 10月23日(日)<br>11月20日(日) | LS コース<br>第2回 | 資料電子化(校正・図表の説明)に関する講義と実践演習★1 | 〃 |

★注 1:各コース第 1 回と第 2 回の講座は同じ内容です。どちらか 1 回のみ受講できます。

★注 2:本授業の単位を取得するためには、原則として上記の講座に 2 日間以上参加する必要がある。

★注 3:開始・終了時間は講座によって変わる可能性があります。

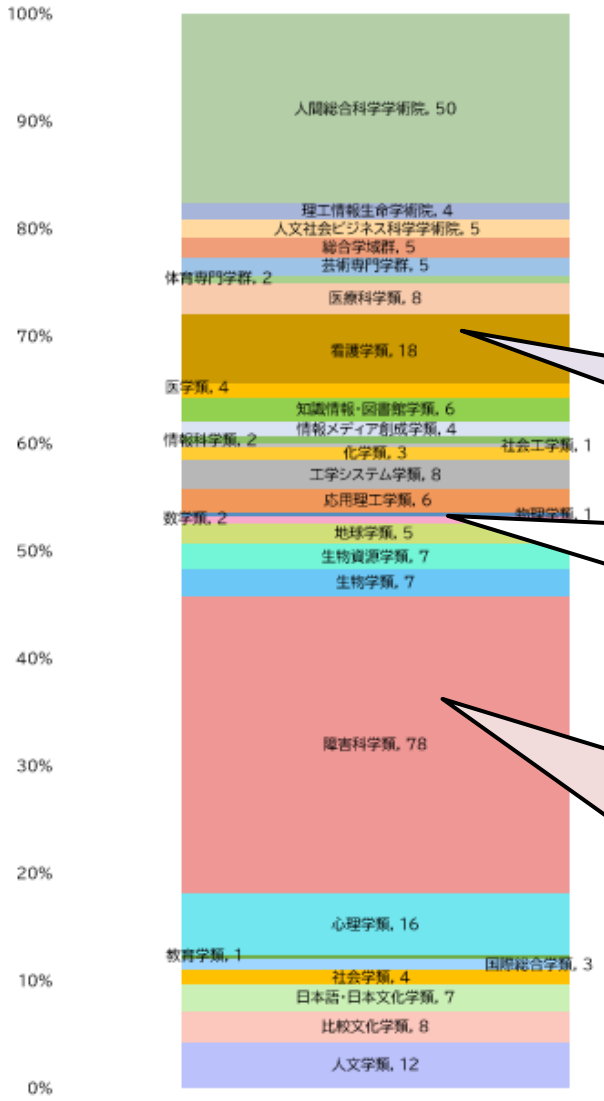
### (3)ピア・チューター登録者数

#### ア)ピア・チューター延べ登録者数(各支援グループ別)

| 所属チーム | ピア・チューター登録者数(人) |
|---|---|
| 視覚グループ | 53(59) |
| 聴覚グループ | 87(79) |
| 運動グループ | 50(69) |
| 発達グループ | 34(35) |
| LS グループ※ | 53(58) |
| 専属(個別支援) | 5(1) |
| 登録者数(延べ) | 282(301) |
| 登録者数(実数) | 169(176) |

・複数チーム所属の場合は、それぞれのグループごとに集計しています。
・ピア・チューターには、後輩の支援やチーム・スタッフ活動を行う障害学生を含みます。
・( )内は令和 3 年度のデータです。
※LS(Library Support)グループ:
H29 年度～図書館資料のテキストデータ化を行っています。

#### イ)学群・学類ピア・チューターの所属内訳




すべての学群にピア・チューターが所属しています。これは、自由科目「障害学生支援技術」の授業内で宣伝を行い、幅広い学群で募集していること、障害学生の所属が多岐にわたっていることなどが理由であると考えられます。

看護学類・医療科学類の学生も多くピア・チューターに登録しています。

理系科目での支援ニーズが高まっていることから、生命環境学群や理工学群のピア・チューター不足が課題となっています。

学群・学類ピア・チューターの3割程は、障害科学類の学生でした。障害科学類は、各障害について学ぶ学類であり、在籍する障害学生数も最も多く、障害学生と接する機会が多いなどの理由により、支援に興味を持ち、活動を始める学生が伝統的に多くなっています。

**（4）ピア・チューター活動証明書の発行**

平成 20 年度より、障害学生支援の活動に参加した学群生・大学院生に対して、就職活動等の際に活動実績を大学外に証明できるよう、「活動証明書」を学長名で発行しています。

**ア）証明書の種類**

R3 年度より証明書様式を「障害学生支援活動証明書」の1種類に統合しました。

**イ）対象者**

授業等において障害学生に対する直接的な支援活動に、当該年度に 15 時間以上従事した者。ピア・チューター養成講座の企画・運営等のチーム・スタッフ活動に、当該年度に 30 時間以上従事した者。

**ウ）発行手続き**

証明書は年度ごとに発行されます。証明書の発行は学生本人の申請に基づいて行うため、証明書の条件を満たしていても申請を行わない学生もいます。そのため、証明書の発行数がピア・チューター活動実績の全容を表しているわけではありません。

**エ）発行実績**

R3 年度より証明書様式を「障害学生支援活動証明書」の1種類に統合

**エ）発行実績**

R3 年度より証明書様式を「障害学生支援活動証明書」の1種類に統合

| 年度 | ピア・チューター総数 | 障害学生支援活動証明書 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 対象者数 | 申請者数 | 発行者数 |
| R3 | 176 | 51 | 20 | 20 |
| R4 | 169 | 59 | 23 | 22 |

※参考（H20～R2年度実績）

| 年度 | ピア・チューター総数 | 障害学生に対するピア・チューター活動実績証明書 | | | 障害学生支援チーム・スタッフとしての活動実績証明書 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 対象者数 | 申請者数 | 発行者数 | 対象者数 | 申請者数 | 発行者数 |
| H20 | 170 | 110 | 46 | 46 | 32 | 21 | 21 |
| H21 | 179 | 109 | 45 | 42 | 32 | 17 | 16 |
| H22 | 229 | 117 | 45 | 41 | 27 | 17 | 16 |
| H23 | 215 | 115 | 35 | 35 | 25 | 14 | 13 |
| H24 | 189 | 113 | 33 | 33 | 31 | 15 | 15 |
| H25 | 238 | 102 | 48 | 48 | 29 | 21 | 21 |
| H26 | 247 | 112 | 21 | 21 | 41 | 10 | 10 |
| H27 | 257 | 96 | 17 | 17 | 17 | 5 | 5 |
| H28 | 215 | 72 | 17 | 17 | 42 | 11 | 10 |
| H29 | 224 | 83 | 16 | 16 | 24 | 6 | 6 |
| H30 | 257 | 66 | 14 | 13 | 31 | 11 | 11 |
| R1 | 250 | 76 | 28 | 28 | 46 | 22 | 22 |
| R2 | 203 | 40 | 13 | 10 | 17 | 12 | 11 |

### （5）ピア・チューター交流イベントの開催

障害種別に関わらないニーズ別支援実施にも関連し、ピア・チューター同士が交流を深めるためのイベントを企画しました。イベントはピア・チューターが内容の企画や当日の運営を担当し、当日は運営担当の学生を含め計 15 名のピア・チューターがイベントに参加しました。イベントでは各支援グループの活動紹介や、支援機器の体験、ボッチャ、手話体験を実施しました。

ボッチャの様子

活動紹介の様子

支援機器体験の様子 1

支援機器体験の様子 2

## 6. 教育活動

### (1)総合科目「ダイバーシティ＆インクルージョン入門」

ダイバーシティ＆インクルージョンの考え方、多様な背景をもつ人々が共生する社会のあり方について、受講生自身のことばで説明ができるようになり、さらに、多様な人々との日常での関わり方やダイバーシティ推進に関する問題意識を高め、一人ひとりが主体的に共生社会の一員として貢献できるようになることを目標としていました。授業を通して、ダイバーシティやインクルージョンに関する基礎的知識を学ぶとともに、この分野に関わる研究、諸問題について理解し、より専門的な学習を進めていくための意識を高めることを期待し、他のアクセシビリティ関連授業の受講や障害学生支援活動への参加も促しました。DAC センター、人文社会系、グローバルコミュニケーション教育センター(CEGLOC)、システム情報系、障害科学域の教員に加えて、学外から非常勤講師を迎え、幅広い視点からの講義となりました。今年度の非常勤講師は、電通ダイバーシティラボの伊藤義博氏に依頼しました。R4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴いオンライン(オンデマンド型)による実施となり、196 名が履修し、多くの学生への理解啓発を図ることができました。

#### ア)授業計画(春学期 BC モジュール)

| 学期 | 回 | 月 日 | 講 義 題 目 | 講義担当者 | 所 属 | 講 義 概 要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 春学期(BCモジュール) | 1 | 5 月 26 日 | ダイバーシティ(多様性)とは？ | 五十嵐浩也 | DAC センター | 「ダイバーシティ(多様性)」について講義を行うことで、ダイバーシティの定義や、現状や歴史的背景、今日的課題について学習する。 |
| | 2 | 6 月 2 日 | からだの多様性～身体障害～ | 藤原あや | 福岡教育大学 | 「からだの多様性」について講義を行うことで、身体障害児・者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。 |
| | 3 | 6 月 9 日 | 脳の多様性～発達障害～ | 佐々木銀河 | 人間系 | 「脳の多様性」について講義を行うことで、発達障害児・者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。 |
| | 4 | 6 月 16 日 | 多様性と公共政策 | 明石純一 | 人文社会系 | 「多様性と公共政策」について講義を行うことで、国際移住者を中心に多様な文化的背景をもつ人々が共生することのできる社会と政策についての学習をする。 |
| | 5 | 6 月 23 日 | 性の多様性～LGBT～ | 河野禎之 | 人間系 | 「性の多様性」について講義を行うことで、LGBT+/SOGIの基礎的知識や、当事者への支援の在り方等について学習する。 |
| | 6 | 6 月 30 日 | Othering and Diversity(英語による講義) | James Morris | 人文社会系/CEGLOC | This class deals with various aspects of Othering. |
| | 7 | 7 月 7 日 | ダイバーシティとテクノロジー | 鈴木健嗣 | システム情報系 | 「ダイバーシティとテクノロジー」について講義を行うことで、ダイバーシティとインクルージョンの支援、アクセシビリティに関するテクノロジーの利用や現状の課題、今後の発展等について学習する。 |
| | 8 | 7 月 14 日 | 企業とダイバーシティ | 伊藤義博 | 電通ダイバーシティラボ | 「企業とダイバーシティ」について講義を行うことで、企業におけるダイバーシティの現状や、制度等について学習する。 |
| | 9 | 7 月 21 日 | キャリア・働き方の多様性 | 末富真弓 | GoodQuset | 「キャリアや働き方」について講義を行うことで、就労の実態や、就労に関する支援・制度等について学習する。 |
| | 10 | 7 月 28 日 | ダイバーシティ推進について | 河野禎之 | 人間系 | これまでの講義を踏まえた「ダイバーシティ推進」に関する講義とグループワークを通じて、ダイバーシティ推進の意義や今後の課題等について理解を深める。 |

**イ)授業評価アンケート(春学期実施分)**

令和 4 年度春学期に実施した「学生による授業評価アンケート」において、196 名の受講生のうち 76 名から回答がありました。設問 3「授業を通じて、この科目に関連する分野への興味や関心が高まりましたか。」について「大いにそう思う」または「そう思う」との回答は 94.7%、設問 4「総合的に判断してこの授業を受講してよかったと思いますか。」について「大いにそう思う」または「そう思う」との回答は 96.1%であったことから、本科目を開設することの意義を確認できました。このほか、設問 9「この授業の内容はよく理解できた。」について「大いにそう思う」または「そう思う」と回答した学生は 98.7%、設問 10「この授業における教材・資料の提示が理解の促進に効果的であった。」について「大いにそう思う」または「そう思う」と回答した学生は 100%であり、授業の進め方についても高い評価を得ることができました。

授業評価アンケート集計結果(ダイバーシティ&インクルージョン入門)

**1 授業の準備は十分にされていたと思いますか。 【選択式:5者択1】**

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う | 44 |
| 2 | そう思う | 31 |
| 3 | どちらとも言えない | 0 |
| 4 | そう思わない | 1 |
| 5 | 全くそう思わない | 0 |

**2教員の説明や授業の進め方は適切でしたか。 【選択式:5者択1】**

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う | 34 |
| 2 | そう思う | 38 |
| 3 | どちらとも言えない | 3 |
| 4 | そう思わない | 1 |
| 5 | 全くそう思わない | 0 |

**3授業を通じて、この科目に関連する分野への興味や関心が高まりましたか。 【選択式:5者択1】**

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う | 42 |
| 2 | そう思う | 30 |
| 3 | どちらとも言えない | 4 |
| 4 | そう思わない | 0 |
| 5 | 全くそう思わない | 0 |

**4総合的に判断して、この授業を受講してよかったと思いますか。 【選択式:5者択1】**

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う | 43 |
| 2 | そう思う | 30 |
| 3 | どちらとも言えない | 3 |
| 4 | そう思わない | 0 |
| 5 | 全くそう思わない | 0 |

**5所属する学類・専門学群を選択してください。 【選択式：28者択1】**

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 人文学類 | 0 |
| 2 | 比較文化学類 | 0 |
| 3 | 日本語・日本文化学類 | 0 |
| 4 | 社会学類 | 6 |
| 5 | 国際総合学類 | 3 |
| 6 | 教育学類 | 4 |
| 7 | 心理学類 | 3 |
| 8 | 障害科学類 | 0 |
| 9 | 生物学類 | 1 |
| 10 | 生物資源学類 | 4 |
| 11 | 地球学類 | 3 |
| 12 | 数学類 | 2 |
| 13 | 物理学類 | 1 |
| 14 | 化学類 | 2 |
| 15 | 応用理工学類 | 8 |
| 16 | 工学システム学類 | 4 |
| 17 | 社会工学類 | 1 |
| 18 | 情報科学類 | 1 |
| 19 | 情報メディア創成学類 | 1 |
| 20 | 知識情報・図書館学類 | 2 |
| 21 | 医学類 | 14 |
| 22 | 看護学類 | 0 |
| 23 | 医療科学類 | 0 |
| 24 | 体育専門学群 | 0 |
| 25 | 芸術専門学群 | 1 |
| 26 | 地球規模課題学位プログラム | 0 |
| 27 | 総合学域群 | 15 |
| 28 | 大学院生 | 0 |

**6私はこの授業に意欲的に取り組んだ。 【選択式：4者択1】**

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う | 26 |
| 2 | そう思う | 47 |
| 3 | そうは思わない | 3 |
| 4 | 全くそうは思わない | 0 |

**7この授業はシラバスに沿って計画的に行われていた。 【選択式：4者択1】**

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う | 36 |
| 2 | そう思う | 40 |
| 3 | そうは思わない | 0 |
| 4 | 全くそうは思わない | 0 |

**8授業担当者の話し方は聞き取りやすかった。 【選択式：4者択1】**

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う | 32 |
| 2 | そう思う | 44 |
| 3 | そうは思わない | 0 |
| 4 | 全くそうは思わない | 0 |

**9この授業の内容はよく理解できた。 【選択式：4者択1】**

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う | 24 |
| 2 | そう思う | 51 |
| 3 | そうは思わない | 1 |
| 4 | 全くそうは思わない | 0 |

**10この授業における教材・資料の提示が理解の促進に効果的であった。 【選択式：4者択1】**

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う | 31 |
| 2 | そう思う | 45 |
| 3 | そうは思わない | 0 |
| 4 | 全くそうは思わない | 0 |

**11この授業を受講することに決めた一番の理由は何ですか。 【選択式：7者択1】**

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 内容に興味があるから | 47 |
| 2 | 専門科目の理解に役立ちそうだから | 4 |
| 3 | 単位がとりやすそうだから | 12 |
| 4 | 授業内容の評判がいいから | 8 |
| 5 | 先生の評判がいいから | 0 |
| 6 | 友人が受講するから | 2 |
| 7 | その他 | 3 |

**12この授業のために授業以外で1週間あたりどれ位勉強しましたか。（予習、レポートを含む） 【選択式：6者択1】**

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 30分未満 | 36 |
| 2 | 30分～1時間 | 31 |
| 3 | 1～1.5時間 | 7 |
| 4 | 1.5～2時間 | 2 |
| 5 | 2～3時間 | 0 |
| 6 | 3時間以上 | 0 |

## （2）自由科目（特設）「障害学生支援技術」授業概要

多くの学生に障害学生の支援技術を提供し、ピア・チューター活動への参加意欲を高めるため、ピア・チューター養成講座の一部を授業化しています。今年度の授業履修者数は 92 名でした。令和 4 年度は新たに 73 名の学生がピア・チューターとして登録し、活動しました。

【授業概要】

R4 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、オンラインと対面を併用した講座となりました。全体オリエンテーションでは、本学における障害学生支援のしくみと実際の支援内容について説明しました。また、ニーズ別の支援内容に関する講義では、視覚障害、聴覚障害、運動・内部障害、発達障害等のニーズに関する実際の支援内容について解説しました。いずれも全受講生を対象にオンライン（オンデマンド型）で実施しました。

その後、受講生は、視覚コース、聴覚コース、運動・内部コース、発達コース、LS コースのいずれかを選択し、コース別に講義・演習等を受講しました。視覚コースでは移動支援・印刷物のテキストデータ化等、聴覚コースでは手書き要約筆記やパソコン要約筆記等、運動・内部コースでは移動支援・ノートテイク等、発達コースでは情報配信サービスの作成・グループ活動等、LS コースでは図書館資料のテキストデータ化の技術の習得を目指しました。

### (3)手話コミュニケーションⅠ(入門・基礎)

手話コミュニケーションⅠ(入門・基礎)は「きこえることときこえないことを理解し、自己紹介と日常会話ができる程度の手話を習得する」ことを目的として、今年度新設されました。見延山大学の望月香代氏を招き、聴覚障害の概要、きこえ方の違い、手話の必要性などの基礎知識を身につけるだけでなく、自己紹介や日常会話の手話の演習をグループワークによって行いました。グループワークでは多様性の理解に基づく主体的で実践的な学びへの導入として、聴覚障害学生も交え、一定の経験を有するピア・チューターもサポートするような構成をとりました。R4 年度は対面で実施し、43 名が受講しました。

#### ア)授業計画(春学期集中講義)

1 日目

| 時限 | 講　義　概　要 |
|---|---|
| 1 | きこえること・きこえないことの確認 |
| 2 | 手話の必要性・あいさつの手話 |
| 3 | 自己紹介の手話 1(名前・指文字) |
| 4 | 自己紹介の手話 2(家族・趣味) |
| 5 | 実践(聴覚障害者に伝えよう) |

2 日目

| 時限 | 講　義　概　要 |
|---|---|
| 1 | 自己紹介の手話 3(仕事・住所) |
| 2 | 自己紹介の手話 4(まとめ) |
| 3 | 実践(聴覚障害者とコミュニケーションしよう) |
| 4 | 時間の表し方 1(一日・一か月) |
| 5 | 時間の表し方 2(一年)・まとめ |

#### イ)授業評価アンケート(春学期実施分)

令和 4 年度春学期に実施した「学生による授業評価アンケート」において、43 名の受講生のうち 29 名から回答がありました。設問 13「「手話コミュニケーションⅠ」の講義内容の総合的な評価をしてください」について「とても良かった」または「良かった」との回答は 100%であったことから、本科目について高い評価を得ることができました。また設問 8「あなたは、聴覚障害者とコミュニケーションをとってみたいと思いますか」について「そう思う」または「少しそう思う」と回答した学生は 96.6%、設問 10「あなたは、聴覚障害者とコミュニケーションをとることにどの程度自信がありますか」について「少し自信がある」と回答した学生は 65.6%、設問 12「あなたは、聴覚障害者と手話で日常会話や自己紹介などのやりとりをすることができますか」について「そう思う」または「ややそう思う」と回答した学生は 75.9%であったことから、本項目を開設することの意義を確認できました。

授業評価アンケート集計結果(手話コミュニケーションⅠ(入門・基礎))

※自由記述形式で回答する設問を除く

**1. あなたの学年を選択して下さい**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| 学類1年生 | 20 |
| 学類2年生 | 4 |
| 学類3年生 | 3 |
| 学類4年生 | 2 |
| その他 | 0 |

**3. あなたの所属をご記入ください**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| 障害科学類 | 9 |
| 心理学類 | 7 |
| 知識情報・図書館学類 | 4 |
| 芸術専門学群 | 1 |
| 社会学類 | 1 |
| 情報メディア創成学類 | 1 |
| 比較文化学類 | 1 |
| 生物資源学類 | 1 |
| 地球学類 | 1 |
| 総合学域群第1類 | 1 |
| 体育専門学群 | 1 |
| 工学システム学類 | 1 |

**4. あなたは、筑波大学における聴覚障害学生支援の体制や内容について知っていますか**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| そう思わない | 1 |
| あまりそう思わない | 4 |
| どちらでもない | 3 |
| ややそう思う | 18 |
| そう思う | 3 |

**6. 手話の習得について、現時点で、どのようなイメージを持っていますか？**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| 難しい | 1 |
| やや難しい | 12 |
| どちらでもない | 8 |
| やや簡単 | 8 |
| 簡単 | 0 |

**8. あなたは、聴覚障害者とコミュニケーションをとってみたいと思いますか？**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| そう思わない | 1 |
| あまりそう思わない | 0 |
| どちらでもない | 0 |
| 少しそう思う | 3 |
| そう思う | 25 |

**10. あなたは、聴覚障害者とコミュニケーションをとることにどの程度自信がありますか？**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| 自信がない | 0 |
| あまり自信がない | 4 |
| どちらでもない | 6 |
| 少し自信がある | 19 |
| 自信がある | 0 |

**12. あなたは、聴覚障害者と手話で日常会話や自己紹介などのやりとりをすることができますか**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| そう思わない | 1 |
| あまりそう思わない | 2 |
| どちらでもない | 4 |
| ややそう思う | 19 |
| そう思う | 3 |

**13. 「手話コミュニケーションⅠ」の講義内容の総合的な評価をしてください**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| とても良かった | 28 |
| 良かった | 1 |
| どちらでもない | 0 |
| あまり良くなかった | 0 |
| 良くなかった | 0 |

**15. スタッフとして聴覚障害学生が講義に参加したことはあなたにとって良かったですか**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| とても良かった | 28 |
| 良かった | 0 |
| どちらでもない | 1 |
| あまり良くなかった | 0 |
| 良くなかった | 0 |

### （4）手話コミュニケーション II（応用・実践）

手話コミュニケーション II（入門・基礎）は手話コミュニケーション I で学んだ知識や習得した手話をもとに、聴覚障害者を理解した上で支援ができる知識を深められることを目的として、今年度新設されました。手話コミュニケーション I に引き続いて見延山大学の望月香代氏を招き、聴覚障害学生および一定の経験を有するピア・チューターのサポートのもと、通常会話ができる手話の習得を目指しました。R4 年度は対面で実施し、13 名が受講しました。

#### ア）授業計画（春学期集中講義）

1 日目

| 時限 | 講　義　概　要 |
|---|---|
| 1 | 聴覚障害者とは・手話確認 |
| 2 | 自己紹介表現と読み取り |
| 3 | 手話の文法 1（表情・具体的表現） |
| 4 | 手話の文法 2（主語をわかりやすく） |
| 5 | 聴覚障害者と交流（生活を知る） |

2 日目

| 時限 | 講　義　概　要 |
|---|---|
| 1 | 手話の文法 3（空間の利用・両手の活用） |
| 2 | 手話の文法 4（繰り返し・意味にあった手話） |
| 3 | 文法まとめ |
| 4 | 聴覚障害者に手話で伝えよう |
| 5 | まとめ |

#### イ）授業評価アンケート（春学期実施分）

令和 4 年度秋学期に実施した「学生による授業評価アンケート」において、13 名の受講生のうち 13 名から回答がありました。設問 13「「手話コミュニケーション I」の講義内容の総合的な評価をしてください」について「とても良かった」または「良かった」との回答は 100％であったことから、本科目について高い評価を得ることができました。また設問 8「あなたは、聴覚障害者とコミュニケーションをとってみたいと思いますか」について「そう思う」または「少しそう思う」と回答した学生は 96.6％、設問 10「あなたは、聴覚障害者とコミュニケーションをとることにどの程度自信がありますか」について「少し自信がある」と回答した学生は 65.6％、設問 12「あなたは、聴覚障害者と手話で日常会話や自己紹介などのやりとりをすることができますか」について「そう思う」または「ややそう思う」と回答した学生は 75.9％であったことから、本項目を開設することの意義を確認できました。

授業評価アンケート集計結果(手話コミュニケーションⅠ(入門・基礎))

※自由記述形式で回答する設問を除く

**1. あなたの学年を選択して下さい**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| 学類1年生 | 12 |
| 学類2年生 | 0 |
| 学類3年生 | 1 |
| 学類4年生 | 0 |
| その他 | 0 |

**3. あなたの所属をご記入ください**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| 障害科学類 | 4 |
| 心理学類 | 1 |
| 知識情報・図書館学類 | 1 |
| 社会学類 | 1 |
| 情報メディア創成学類 | 1 |
| 人文学類 | 1 |
| 生物資源学類 | 1 |
| 地球学類 | 1 |
| 総合学域群第1類 | 1 |
| 工学システム学類 | 1 |

**4.「手話コミュニケーションⅡ」の授業の中で、自分の伝えたいことを聴覚障害者に手話で伝えることができましたか**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| そう思わない | 0 |
| あまりそう思わない | 1 |
| どちらでもない | 1 |
| ややそう思う | 6 |
| そう思う | 5 |

**5. あなたは、聴覚障害者とコミュニケーションをとってみたいと思いますか？**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| そう思わない | 0 |
| あまりそう思わない | 0 |
| どちらでもない | 0 |
| 少しそう思う | 1 |
| そう思う | 12 |

**7. あなたは、聴覚障害者とコミュニケーションをとることにどの程度自信がありますか？**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| 自信がない | 0 |
| あまり自信がない | 2 |
| どちらでもない | 2 |
| 少し自信がある | 7 |
| 自信がある | 2 |

**9. あなたは、聴覚障害者への手話を用いた支援（手話通訳）を行いたいと思いますか？**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| そう思わない | 0 |
| あまりそう思わない | 2 |
| どちらでもない | 2 |
| 少しそう思う | 7 |
| そう思う | 2 |

**11. あなたは、聴覚障害者への手話を用いた支援（手話通訳）をすることにどの程度自信がありますか**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| 自信がない | 3 |
| あまり自信がない | 7 |
| どちらでもない | 2 |
| 少し自信がある | 1 |
| 自信がある | 0 |

**13. 今後も手話に関する学習を継続したいですか**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| そう思わない | 0 |
| あまりそう思わない | 0 |
| どちらでもない | 0 |
| 少しそう思う | 2 |
| そう思う | 11 |

**17. 来年度以降の「手話コミュニケーション」の授業に、スタッフとして携わりたいですか**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| そう思わない | 1 |
| あまりそう思わない | 2 |
| どちらでもない | 3 |
| 少しそう思う | 6 |
| そう思う | 1 |

**18.「手話コミュニケーションⅡ」の講義内容の総合的な評価をしてください**

| 回答 | 人数 |
|---|---|
| とても良かった | 9 |
| 良かった | 3 |
| どちらでもない | 0 |
| あまり良くなかった | 0 |
| 良くなかった | 1 |

### (5)大学院共通科目「アクセシビリティリーダー特論」

産業界や地域社会のリーダーとなる学生に対して、障害の特性や関わり方を理解し、障害のある人のアクセシビリティを支援するための知識を身に付けることを目標としていました。障害のある人々が包摂された社会を実現するために、身体障害や発達障害といった様々な障害の理解や支援に関する幅広い講義を行いました。また、障害のある人への災害時支援や、障害のある人に役立つ支援技術、諸外国と日本における支援の比較や展開といったマクロな視点や今日的な話題を通して、多様な背景をもつ人々が共生することのできる社会とはどのような社会なのかについて、受講生が自ら考える機会を提供しました。R4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴いオンライン(オンデマンド型・同時双方向型)による実施となり、35名が受講し、障害の特性についての理解や、特性に応じた支援のあり方について理解を促すことができました。

### ア)授業計画(春学期 AB モジュール)

| 学期 | 回 | 月 日 | 講 義 題 目 | 講義担当者 | 所 属 | 講 義 概 要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 春学期(ABモジュール) | 1 | 4 月14日 | 障害者支援の理念と背景 | 竹田 一則 | 人間系 | 「障害者支援の理念と背景」について講義を行うことで、アクセシビリティの現状や歴史的背景、今日的課題について学習する。 |
| | 2 | 4 月21日 | 障害者のアクセシビリティと支援の流れ、支援体制、制度 | 藤原 あや | 福岡教育大学 | 「障害者のアクセシビリティと支援の流れ、支援体制、制度」について講義を行うことで、障害者が社会で共生するための支援や制度についての学習をする。 |
| | 3 | 4 月28日 | 視覚障害者の理解と支援 | 小林 秀之 | 人間系 | 「視覚障害者の理解と支援」について講義を行うことで、視覚障害者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。 |
| | 4 | 5月12日 | 聴覚障害者の理解と支援 | 原島 恒夫 | 人間系 | 「聴覚障害者の理解と支援」について講義を行うことで、聴覚障害者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。 |
| | 5 | 5月 19日 | 運動・内部障害者の理解と支援 | 名川 勝 | 人間系 | 「運動・内部障害者の理解と支援」について講義を行うことで、運動・内部障害者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。 |
| | 6 | 5月26日 | 発達障害者の理解と支援 | 岡崎 慎治 | 人間系 | 「発達障害者の理解と支援」について講義を行うことで、発達障害者の実態や、支援内容、支援方法、評価等について学習する。 |
| | 7 | 6月 2 日 | 障害のある人への災害時支援 | 藤原 あや | 福岡教育大学 | 「障害のある人への災害時支援」について講義を行うことで、要配慮者や避難行動要支援者の実態や特徴、支援方法について学習する。 |
| | 8 | 6 月9日 | 障害のある人に役立つ支援技術 | タキザワ ケイタ | 一般社団法人 PLAYERS | 「障害のある人に役立つ支援技術」について講義を行うことで、アクセシビリティに関わる最新のテクノロジーについての学習をする。 |
| | 9 | 6 月16日 | 諸外国と日本における支援の比較と展開 | 佐々木 銀河 | 人間系 | 「諸外国と日本における支援の比較と展開」について講義を行うことで、障害者を中心とした多様な背景をもつ人々が共生することのできる社会についての学習をする。 |
| | 10 | 6 月23日 | アクセシビリティ支援からユーザビリティ向上へ | 野呂 文行 | 人間系 | 障害のある人へのアクセシビリティ支援が、すでにアクセス可能な人のユーザビリティ向上へとつながることを、実例を交えて講義する。講義を通じて、「障害」「アクセシビリティ」の意味を最後に整理する。 |

**イ）授業評価アンケート**

令和 4 年度春学期に実施した「学生による授業評価アンケート」において、35 名の受講生のうち 11 名から回答がありました。設問 3「授業を通じて、この科目に関連する分野への興味や関心が高まりましたか。」について「大いにそう思う」または「そう思う」との回答は 100%、設問 4「総合的に判断してこの授業を受講してよかったと思いますか。」について「大いにそう思う」または「そう思う」との回答は 100%であったことから、本科目を開設することの意義を再確認できました。

授業評価アンケート集計結果（アクセシビリティリーダー特論）

1 授業の準備は十分にされていたと思いますか。（5肢択一）／The instructions were well prepared for the course. (Choose one.) 【選択式：5者択1】

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う／ Strongly agree | 9 |
| 2 | そう思う／ Agree | 2 |
| 3 | どちらとも言えない／ Neutral | 0 |
| 4 | そう思わない／ Disagree | 0 |
| 5 | 全くそう思わない／ Strongly disagree | 0 |

2 教員の説明や授業の進め方は適切でしたか。（5肢択一）／ The ways the instructor explained and planned the class contents were suitable for the course. (Choose one.) 【選択式：5者択1】

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う／ Strongly agree | 7 |
| 2 | そう思う／ Agree | 4 |
| 3 | どちらとも言えない／ Neutral | 0 |
| 4 | そう思わない／ Disagree | 0 |
| 5 | 全くそう思わない／ Strongly disagree | 0 |

3 授業を通じて、この科目に関連する分野への興味や関心が高まりましたか。（5肢択一）／ Attending this course, I developed a stronger interest in the field of study related to this subject than before. (Choose one.) 【選択式：5者択1】

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う／ Strongly agree | 6 |
| 2 | そう思う／ Agree | 5 |
| 3 | どちらとも言えない／ Neutral | 0 |
| 4 | そう思わない／ Disagree | 0 |
| 5 | 全くそう思わない／ Strongly disagree | 0 |

4 総合的に判断して、この授業を受講してよかったと思いますか。（5肢択一）／ Overall, I am satisfied with this course. (Choose one.) 【選択式：5者択1】

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う／ Strongly agree | 6 |
| 2 | そう思う／ Agree | 5 |
| 3 | どちらとも言えない／ Neutral | 0 |
| 4 | そう思わない／ Disagree | 0 |
| 5 | 全くそう思わない／ Strongly disagree | 0 |

## （6）大学院共通科目「脳の多様性とセルフマネジメント」

発達障害から定型発達の連続体として捉えられる「脳の多様性（ニューロダイバーシティ）について概説し、受講者自身がどのような特性があるかを客観視するワークを行いました。加えて、学業や日常生活において有効なセルフマネジメントテクニックやツールを紹介することで、自身の特性に合ったマネジメント方法を身に付けることを目指しました。また、社会で活躍する発達障害当事者を講師として招き、自己および他者における脳の多様性を深く理解するための話題提供を行いました。

話題提供を踏まえて1日目後半から2日目にかけて、多様な特性のある受講生同士がグループを組み、チームメンバーの強み（凸）を組み合わせ、他者の弱み（凹）を補うような新事業・商品を考案する「凸凹アイデアソン」を実施しました。凸凹アイデアソンでは本学の多様な専門性を有する大学院生がチームを組み、新事業・商品のアイデアを企画・立案し、プレゼンテーションを行いました。合計で56名の学生が受講しました。

授業評価アンケート集計結果（脳の多様性とセルフマネジメント）

**1 授業の準備は十分にされていたと思いますか。（5肢択一）／The instructions were well prepared for the course. (Choose one.)【選択式：5者択1】**

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う／ Strongly agree | 4 |
| 2 | そう思う／ Agree | 1 |
| 3 | どちらとも言えない／ Neutral | 1 |
| 4 | そう思わない／ Disagree | 1 |
| 5 | 全くそう思わない／ Strongly disagree | 0 |

**2 教員の説明や授業の進め方は適切でしたか。（5肢択一）／ The ways the instructor explained and planned the class contents were suitable for the course. (Choose one.)【選択式：5者択1】**

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う／ Strongly agree | 5 |
| 2 | そう思う／ Agree | 1 |
| 3 | どちらとも言えない／ Neutral | 0 |
| 4 | そう思わない／ Disagree | 1 |
| 5 | 全くそう思わない／ Strongly disagree | 0 |

**3 授業を通じて、この科目に関連する分野への興味や関心が高まりましたか。（5肢択一）／ Attending this course, I developed a stronger interest in the field of study related to this subject than before. (Choose one.)【選択式：5者択1】**

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う／ Strongly agree | 5 |
| 2 | そう思う／ Agree | 1 |
| 3 | どちらとも言えない／ Neutral | 0 |
| 4 | そう思わない／ Disagree | 1 |
| 5 | 全くそう思わない／ Strongly disagree | 0 |

**4 総合的に判断して、この授業を受講してよかったと思いますか。（5肢択一）／ Overall, I am satisfied with this course. (Choose one.)【選択式：5者択1】**

| 回答番号 | 回答 | 人数 |
|---|---|---|
| 1 | 大いにそう思う／ Strongly agree | 4 |
| 2 | そう思う／ Agree | 2 |
| 3 | どちらとも言えない／ Neutral | 0 |
| 4 | そう思わない／ Disagree | 1 |
| 5 | 全くそう思わない／ Strongly disagree | 0 |

## 7. バリアフリー推進

### (1)学内のバリアフリー改修

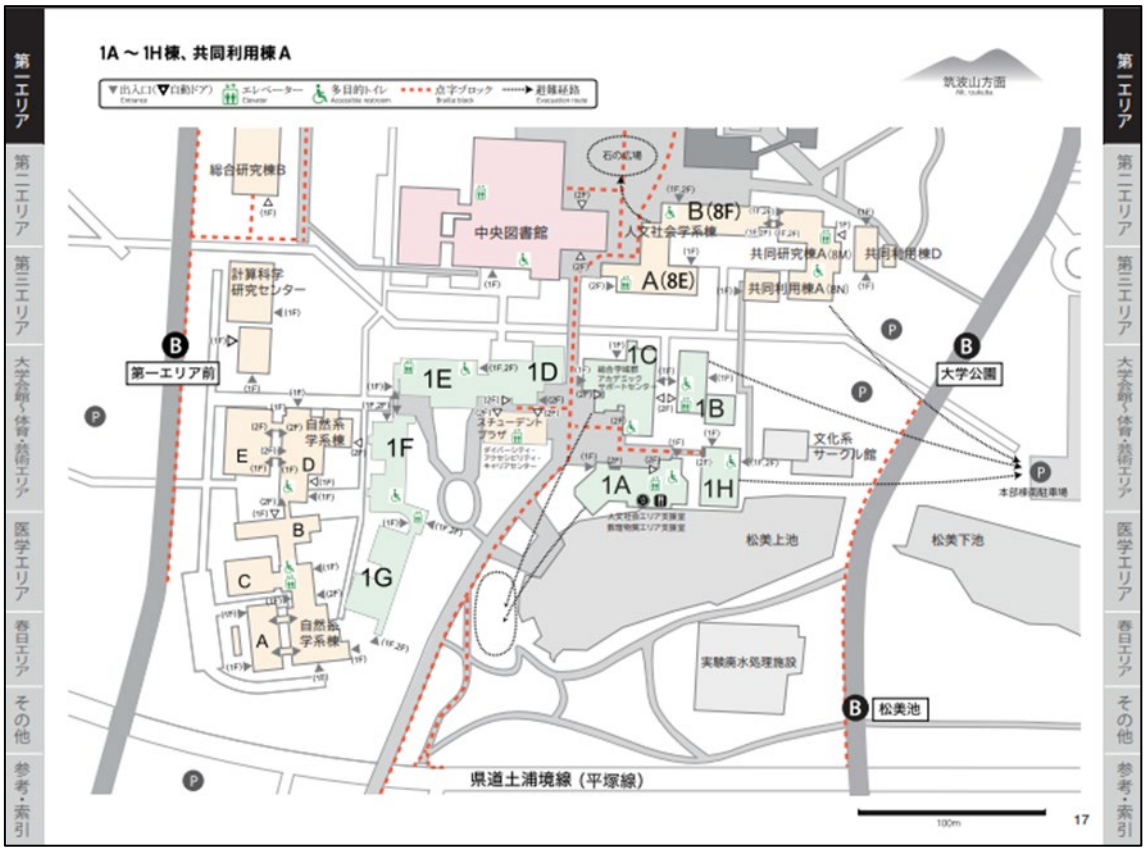
視覚障害学生より、共同利用棟 D 横の外灯がすべて壊れ、消えてしまっていました。夕方・夜間の歩行において周囲の様子がわからないという要望を受けたため、交換を依頼しました。

### (2)アクセシビリティマップの作成・公開

新入障害学生及び入学間もない障害学生、さらには外部より筑波大学を訪れる障害のある方に向けたマップとして、車椅子利用学生のために自動ドアやエレベーターに関する情報を盛り込んだマップと、視覚障害学生のために誘導ブロック上の道順を言葉で説明したマップを作成しました。

前者についてはホームページ上に掲載し、後者については測量・道順の整理が終わり、掲載に向けた文章化を行っています。

(参考)アクセシビリティマップ　https://dac.tsukuba.ac.jp/shien/accessibilitymap/




アクセシビティマップの画面

## 8. 就職・キャリア支援

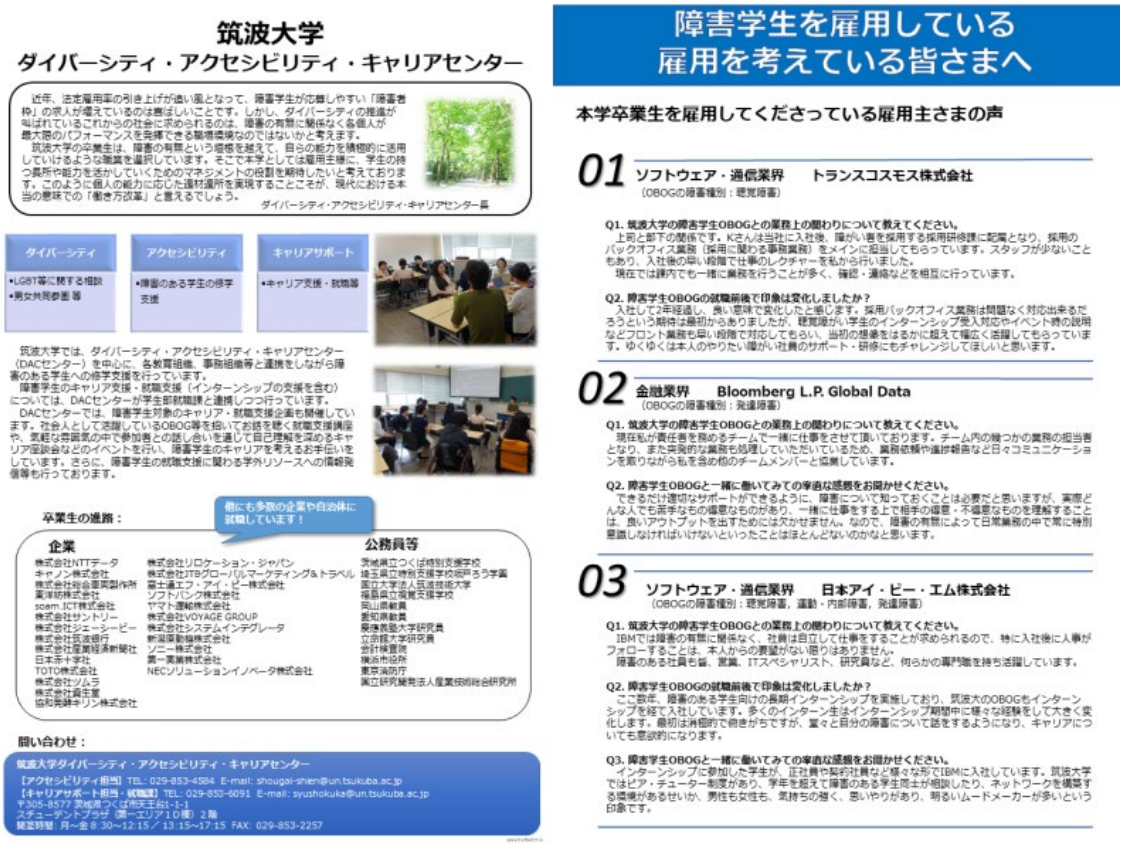
### (1)キャリア支援イベント

「障害学生のための就活セミナーキャリアについて考えてみよう～ハローワーク土浦と茨城障害者職業センターをお招きして～」を実施しました。このイベントはハローワーク土浦及び茨城障害者職業センターより講師を招き、就職までの流れや活用できる支援機関についてなど、基礎的な内容を扱ったものです。また障害学生積極企業とも面談を実施し、連携を図るなどしてインターンシップ、会社見学会などを実施すべく、話し合いを進めています。

### (2)キャリア広報誌

学生あるいは企業等の方へ向けて、障害学生のキャリア支援のための広報誌を Web 公開しています。また、新入障害学生の個別相談時に印刷配布しました。

学生向けキャリア支援広報誌




企業向けキャリア支援広報誌

## (3)障害学生 OBOG ネットワーク

就職活動やキャリア形成に関して障害学生が本学 OBOG と直接連絡を取り、相談が出来る体制の構築を目指し、平成 30 年度に立ち上げました。ネットワークの目的に賛同し、協力の意思を示してくださった OBOG の勤務先や障害、連絡先等といった紙媒体の情報を BHE にて管理し、希望する学生に窓口で提示しています。令和 5 年 3 月現在、34 名の OBOG が登録しています。

## (4)令和3年度卒業生・修了生の進路

令和4年度卒業生・修了生(令和 5 年 3 月卒業・修了)の進路は、以下の通りです。

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【学群】 | 企業 | 教員 | 公務員 | 独法等 | 研修医 | その他 | 進学 |
| | 3 名 | 0 名 | 1 名 | 0 名 | 0 名 | 1 名 | 1 名 |
| 【大学院】 | 企業 | 教員 | 公務員 | 独法等 | 研修医 | その他 | 進学 |
| | 2 名 | 1 名 | 1 名 | 0 名 | 0 名 | 0 名 | 0 名 |

## 9. 緊急時に備えた支援

### (1)ニーズ別避難方法等の HP 掲載

(以下、HP 内容文)

「災害時支援」
(1)災害時避難手順
大規模災害発生時に障害学生と避難誘導者双方が安全に避難するためには、日頃から役割と手順を明確にしておくことが大切です。
ア)地震発生時
1.危険物から離れる
2.急に飛び出さない
3.頭を守る
イ)揺れがおさまったら
授業担当教職員(=避難誘導者)が、災害時における学生等の避難指示・誘導を行います。
1.指定の避難場所への誘導
2.残留者・負傷者確認
※授業履修者に障害学生等で独力での避難が難しい学生がいる場合には、通常の避難指示・誘導に加えて、以下の手順で行動してください。
1.屋外避難の際に情報支援や誘導などの支援が必要な学生の有無の確認
2.避難に支援が必要だが、近くに支援者がいない場合には、その場で配置

### (2)障害学生の各ニーズ別の困難さとその対応

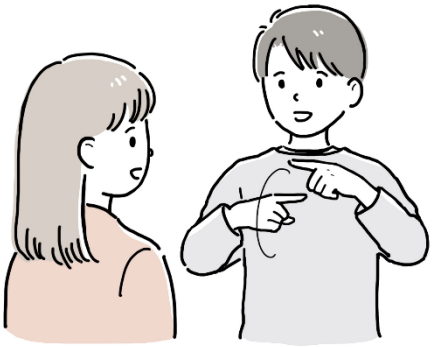
ア)見ることに困難を有する学生(視覚障害等)
視覚情報の取得に困難さがあり、視覚による緊急事態の察知や被害状況(壁や塀の倒壊、道路の亀裂等)など周囲の状況を把握することが困難です。

(必要とされる支援)
避難の手順、避難経路、周囲の状況などについて適切に口頭での情報を提供します。
移動の際のガイドヘルプを必要とする場合、避難誘導をする際は、障害学生の斜め前に立ち、支援者の肘か肩を学生につかんでもらい歩きます。
階段を下りる際は、手すりにつかまってもらいます。
歩行速度に気をつけながら「どの方向に(前後左右)」に「どれだけ動くのか(何歩、何m)」を伝え、また角を曲がる時や

階段の昇り降りの際も動く前と止まる時に声をかけて伝えます。方向感覚を保つことができるように、なるべくまっすぐ歩いて誘導します。方向を示す時は、時計の針の位置で伝えると理解しやすいです。
（例えば、時計の文字盤による方向は、右は 3 時、左は 9 時、正面は 12 時）
文字情報があれば適切に口頭で伝えます。
支援者が一時的にその場を離れる際は、壁または柱の近くへ誘導します。

イ）聞くことの困難を有する学生（聴覚障害・発達障害等）
聴覚情報の取得に困難さがあり、音声による情報伝達が困難であり、避難警報や避難指示など、複雑な情報理解の把握をすることが困難です。

（必要とされる支援）
避難誘導者からの説明や校内放送等の音声情報を、
障害学生に目に見える形で伝えます。
情報を示す際に、学生の背後からではなく、前から提示
するようにします。
避難の手順、避難経路、周囲の状況などを、ゆっくりとした発話（口の形を見て読み取ることが可能）、音声の文字化、筆談、携帯やスマートフォンへのテキスト入力、板書、空書、手のひらに書く、身振り等を使用して的確に伝えます。
避難本部など集合地点に筆談ボードなどを設置し、避難後も的確に情報伝達を行います。


Copyright 2021 Minako Miyahara All Rights Reserved.

ウ）移動することの困難を有する学生（視覚障害・運動障害等）
緊急時に早急に逃げることや、避難場所までの誘導がないと避難することに困難さがあります。また、エレベーターが停止すると他の階に移動することに困難さがあり、道路がひび割れていたり、がれき等が落ちていると進むことができません。

（必要とされる支援）
移動の際のガイドヘルプと周囲の状況についての情報を
適切に口頭で伝えます。
避難誘導の際に、障害学生の身体を押したり引っ張ったりせず、また、学生が持っている白杖を支援者が持ったりしません。（上記の【見ることの困難を有する学生（視覚障害等）】参照）
障害学生と相談したうえで、移動手段を考えます。

Copyright 2021 Minako Miyahara All Rights Reserved.

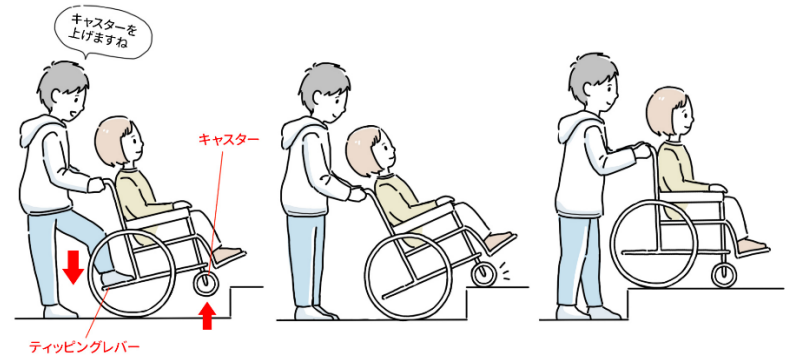
以下、車いす等での階段の上り下りの際の支援方法は、支援者が不慣れな場合は推奨しません。車いすを押す前、止まる前に必ず声をかけながら車いすを動かします。この際、車いすのどの部分を持つべきか、障害学生に注意することはないかを確認します。

・1 人で支援を行う場合

避難の際に、エレベーターが停止し、車いすごと階段を下る際は、障害学生に階段を下ることを声がけして、車いすを後ろ向きにしてキャスターが段差に乗っていることを確認しながら、後輪を下ろす。続けてフットレストや障害学生の足が段差に当たらないように気をつけながら、キャスターを上向かせた状態で下ろす。

階段を上る際は、障害学生に段差を上がることを

声がけして、車いすを前向きにし、下りと同様に気をつけながらキャスターを段差に乗せ、後輪をゆっくりと押し上げます。




①ティッピングレバーを押し、キャスターを上げる
※ティッピングレバーが無い車椅子もあります

②キャスターを段に乗せる

③後輪をゆっくり押し上げる

Copyright 2021 Minako Miyahara All Rights Reserved.

・2～4 人で支援を行う場合

階段を下る際は、障害学生に階段を下ることを伝え、

また上る際は車いすを階段の正面に止め、障害学生に段差を上がることを声がけします。

車いすのブレーキはかけ、後輪を固定します（利用者

に、前方に倒れると危険なため背もたれに身体は寄りかかるよう伝えます）。車いすのグリップ、アームレスト、後輪、フットレストの上下をもち、行動を説明しながら持ち上げます。階段では車いすの前が少し高い状態を保つようにしながら移動します。

また車いすごと移動できない場合は、複数人で障害

学生を抱えて移動し、車いすは別の支援者が畳んで運びます。

無理なら車いすは運ばず、障害学生本人の移動を優先します。

障害学生の障害の状態や程度により、複数の支援者で担架や

※タイヤを持つと回転してしまうため危険です。
絶対持たないこと！

Copyright 2021 Minako Miyahara All Rights Reserved.

キャリダン等の避難介助用器具を用いる必要がある場合もあります。

エ）複雑な情報理解に困難のある学生（聴覚障害・発達障害等）
緊急時の危険な状況の把握が困難であったり、変化に対する不安や抵抗を感じて情報理解の把握をすることが困難です。

（必要とされる支援）
避難経路や避難場所について具体的にはっきりと伝え、
曖昧な言葉や表現は避けます。
視覚的な情報を文字や絵を使って目に見える形での
説明や、ゆっくりと簡潔に穏やかな声で話しかけます。
感覚刺激に必要以上に敏感であったり鈍感である
場合がありますので、ケガなどをしていないか、本人の言葉だけでなく身体状況を一通りよく見る必要があります。
個別空間の保障をすると安心できます。
独力での避難が困難な場合は、教職員や近くにいる学生
とともに避難するよう指示します。

Copyright 2021 Minako Miyahara All Rights Reserved.

**（2）全学防災訓練「障害学生等支援防災ワーク」の実施結果**

「障害学生等支援防災ワーク」（全学リスクマネジメントセミナー）」を ZOOM によるオンライン形式にて、2022 年 11 月 18 日に実施しました。主な内容としては本学 HP に掲載されている、ニーズ別の対応方法や避難手順についてまとめた「災害時の障害学生の避難手順」という講義と、東京消防庁より講師を招き、東日本大震災での経験や災害時にとるべき行動について参加者と話し合う「卒業生と考える障害学生の防災～”もしも”が”今”になる前に～」の二つがあり、57 名が参加しました。このワークについては 2023 年2月7日から 28 日にかけてオンデマンド配信も行い、24 名が視聴しました。

## 10. 学内での理解・啓発活動

### (1)駐輪マナー向上キャンペーンの実施

対面授業の増加を受け、安全キャンペーン週間の一環として、10 月6日に駐輪マナー向上キャンペーンを対面実施することが企画されました。4名のピア・チューターが参加の意思を見せてくれるなど、大きな関心が寄せられましたが、イベントは雨により中止となり、駐輪マナー向上に関するポスターを、ホームページ上に掲載いたしました。

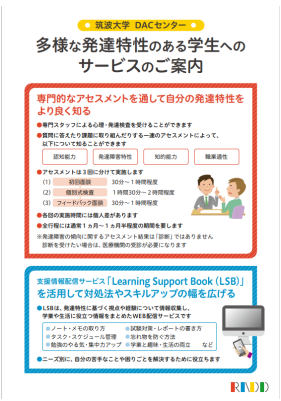
(参考)【10/6】駐輪マナー向上キャンペーンについて ｜ 筑波大学アクセシビリティ
https://dac.tsukuba.ac.jp/shien/20221209-1/

### (2)障害学生支援に関する配布物

障害学生支援についてまとめたリーフレット、発達特性のある学生を対象としたアセスメントやサービスについてまとめたリーフレットを Web 掲載しました。

障害学生支援に関するリーフレット

https://dac.tsukuba.ac.jp/shien/accessibility/publication/

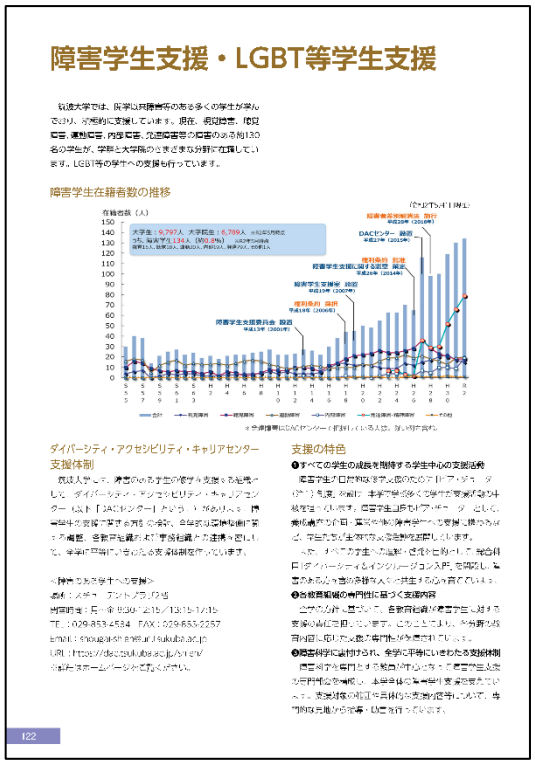



発達特性のある学生へのアセスメント案内　　発達特性のある学生への各種サービス案内

https://dac.tsukuba.ac.jp/shien/disabilities/developmental_disabilities/

## (3)学内各種配布物への情報掲載

「筑波大学入学案内」「学生便覧」などの学内配布物に本学の障害学生支援の考え方や実践の紹介を掲載しています。


障害学生支援・LGBT等学生支援

筑波大学では、医学以外障害等のある多くの学生が学んでおり、対処的に支援しています。現在、視覚障害、聴覚障害、運動障害、内部障害、発達障害等の障害のある約130名の学生が、学部と大学院のさまざまな分野に在籍しています。LGBT等の学生への支援も行っています。

障害学生在籍者数の推移



ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター支援体制

筑波大学では、障害のある学生の修学を支援する組織として、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（以下「DACセンター」という）があります。障害学生の支援が要求される場合、各教育組織の相談機能を補助し、学部に早期に対応した支援体制を作っています。

<障害のある学生への支援>
場所：メディアプラットプラザ
開室時間：月～金 8:30～12:15／13:15-17:15
TEL：029-853-4534 FAX：029-853-2257
E-mail：shougai@shien.ruri.tsukuba.ac.jp
URL：https://dac.tsukuba.ac.jp/shien/
※現在はホームページを改訂しください。

支援の特色

❶すべての学生の成長を期待する学生中心の支援活動

障害学生が日常的な修学と成のためにアドバイス、ダイバーシティ（多様性）を実現し、本学で学ぶ多くの学生が支援の対象を生かしています。障害学生は多くのアドバイス、ダイバーシティ（多様性）を実現し、障害学生の支援に関する学生が、学生たちが生涯的な支援を期待しています。

また、すべての学生への成長と成長を目的として、総合科目（ダイバーシティ&インクリーダーシン入門）を開設し、障害のある学生の各種学人への共生する心を育てています。

❷各教育組織の専門性に基づく支援内容

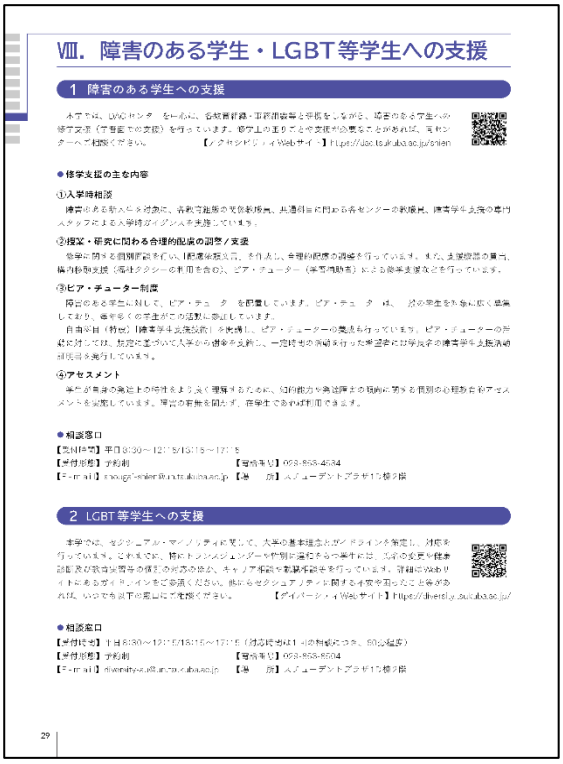
全学の分野に基づいて、各教育組織が障害学生に対する支援の責任を担っています。このことにより、各分野の教育内容に応じた支援の専門性が発揮されています。

❸障害科学に基付けられ、全学に平等にいきわたる支援体制

障害科学を専門とする教員が中心となって障害学生支援の専門性を強調し、本学全体の障害学生支援を支えています。支援対象の特徴や具体的な支援内容等について、専門的な見地から指導・助言を行っています。

122

筑波大学入学案内(p.122-123)


Ⅷ. 障害のある学生・LGBT等学生への支援

1 障害のある学生への支援

本学では、DACセンターを中心に、各教育組織・事務組織等と手段をしながら、障害のある学生への修学支援（学習面での支援）を行っています。修学上の困りごとや支援が必要なことがあれば、当センターへご相談ください。 【アクセシビリティWebサイト】https://dac.tsukuba.ac.jp/shien

●修学支援の主な内容

①入学時相談

障害のある新入学を対象に、各教育組織の支援教授員、共通科目に関わる各センターの教授員、障害学生支援の専門スタッフによる入学時ガイダンスを実施しています。

②授業・研究に関わる合理的配慮の調整／支援

修学に関する個別面談を行い、配慮依頼文書、を作成し、合理的配慮の調整を行っています。また、支援機器の貸与、構内移動支援（高性ダクシーの利用を含む）、ピア・チューター（学習補助者）による修学支援などを行っています。

③ピア・チューター制度

障害のある学生に対して、ピア・チューターを配置しています。ピア・チューターは、一般の学生を対象に広く募集しており、各々多くの学生がこの活動に参加しています。

自由学園（特定）「障害学生支援活動」を実施し、ピア・チューターの養成を行っています。ピア・チューターの活動に対しては、規定に基づいて大学から謝金を支給し、一定時間の活動を行った修了者には学長名の障害学生支援活動証明書を発行しています。

④アセスメント

学生が自身の発達上の特性をより良く理解するために、知的能力や発達障害の機能に関する個別の心理教育的アセスメントを実施しています。障害の有無を問ただす、在学生であれば利用できます。

●相談窓口

【受付時間】平日8:30～12:15/13:15～17:15
【受付形態】予約制 【電話番号】029-853-4534
【E-mail】shougai@shien.ruri.tsukuba.ac.jp 【場　所】メディアプラットプラザ1階

2 LGBT等学生への支援

本学では、セクシュアル・マイノリティに対して、大学の基本理念とガイドラインを策定し、対応を行っています。これまでは、特にトランスジェンダーや性別に違和をもつ学生には、文字の変更や健康診断及び教育実習等の個別の対応の協力、キャリア相談や教職作業等を行っています。詳細はWebサイトにあるガイドラインをご参照ください。他にもセクシュアリティに関する不安や困ったことがあれば、いつでも以下の窓口にご相談ください。 【ダイバーシティWebサイト】https://diversity.ruri.tsukuba.ac.jp/

●相談窓口

【受付時間】平日8:30～12:15/13:15～17:15（対応時間は1人の相談ではなく、90分程度）
【受付形態】予約制 【電話番号】029-853-8504
【E-mail】diversity@ruri.tsukuba.ac.jp 【場　所】メディアプラットプラザ1階

29

学生便覧(p.29)

### (4)ICT の活用と体験の開催

障害学生、ピア・チューター、BHE 教職員を対象に、学生生活で ICT を活用するための研修会を開催しました(2023 年 2 月 17 日)。

研修会では外部講師をお招きし、iOS に標準搭載されたアクセシビリティ機能や修学と日常生活に役立つソフトウェア・アプリケーションの紹介と、紹介された機能の体験を実施しました。研修会は対面とオンラインリアルタイムで実施し、当日は学生と教職員を合わせ 31 名が参加しました。

研修会の様子 1

研修会の様子 2

研修会のチラシ

## 11. 研究活動

### (1)令和4年度実施研究事業一覧

**ア)科学研究費補助金による研究の推進(2 年目／4 年)基盤研究(A)(2021～2024 年度)**

研究課題名:多様な発達特性のアセスメントと FDSD に基づくインクルーシブキャンパスの実現
2022 年度交付額(直接経費)　¥8,300,000
2022 年度実績:8 月と2月に研究分担者でミーティングを実施し、各研究の内容や進捗について研究分担者とのディスカッションを交え研究を進めた。また、関連した研究について国内外での発表を行った。

**イ)科学研究費補助金による研究の推進(3 年目／4年)基盤研究(B)(2020～2023 年度)**

研究課題名:ICT ツールを用いた多様な発達特性を有する学生の高校・大学・就労接続支援
2022 年度交付額(直接経費)　¥3,000,000
2022 年度実績:発達障害のある高校生講座の参加者を含め、ICT ツール「マイメモ」の実証実験を行った。

**ウ)人材養成機能強化経費(2022年度～)**

事業名:「学生の多様な能力アセスメント事業」
2022 年度事業実施経費総額(確定分)　¥15,530,000
2022 年度実績:学生相談室や授業・友人等からの紹介、BHE のホームページをみて来談した学生計 137 名に対して、個別の心理・教育的アセスメントを実施した。申し込みは過去最多であった。アセスメントの結果を踏まえて、支援ニーズの高い学生一人ひとりに適した自助スキル・ツールをコーチングするとともに、支援機器の貸出も行うなど、修学支援体制を整備した。

**エ)文部科学省ミッション実現加速化経費　共通政策課題分(教育関係共同実施分)**
**(2 年目／3 年:2021～2023 年度)**

事業名:ダイバーシティ&インクルージョン教育拠点
2022 年度事業実施経費総額(確定分)　¥10,339,000
2022 年度実績:教育関係共同実施分として、大別して4つの内容を策定し実施した。
①多様な学生支援に関する FD/SD 研修会(計 7 回、総参加者数 6,294 名)・講師派遣(計 40 回、総参加者数 3,036 名)、② 多様な学生支援に関するコンサルテーション(訪問・メール等による相談、計 35 件)、③多様な学生支援に関する教材・データベースの展開(大学等教職員への配信、計 45 校)、④カリキュラム開発・評価を目的とした障害学生支援に携わる教職員(ハブ的人材)に身につけてほしいスキル・コンピテンシー(大分類)として、「多様性の理解」、「修学支援」、「環境調整」、「移行支援」、「連携・協働」の 5 つを設定した。これらのスキル・コンピテンシーとこれまで作成してきた「多様な学生支援 e-learning」を紐づける形で、支援人材養成・認定のためのプログラム実施に向けた準備を進めた。

**オ)国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)・RISTEX(3 年目／3年:2020～2022 年度)**

SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム　シナリオ創出フェーズ
研究課題名:発達障害の特性に関連する対処法を多様な脳特性に対応して自動提案する　情報配信サービスの可能性検証
2022 年度事業実施経費総額　¥3,618,675
2022 年度実績:チャットボット「ダボット:ダックスさんの相談室」を開発し、発達障害のある大学生、計 216 名を対象にトライアル(無作為化比較試験)を実施した。

**カ)国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)・RISTEX(1 年目／4 年:2022～2025 年度)**

SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム　ソリューション創出フェーズ
研究課題名:神経多様性に応じたチャットボットの地域連携モデルの構築および他対象・多地域展開
2022 年度事業実施経費総額　¥8,000,000
2022 年度実績:チャットボット「ダボット:ダックスさんの相談室」の多地域展開に向けて、筑波大学を含む、茨城県南・つくば地区にある支援機関等6カ所において、地域トライアル(可能性試験)を開始した。

**キ)公益財団法人 CTC 未来財団(1 年目／1 年:2022 年度)**

事業名:障がいのある青少年に対する修学及び就労機会創出の支援事業第 5 期助成金
2022 年度助成総額　¥994,840
　手話の習得や障害に対する理解を深めるための講義(手話コミュニケーションⅠ・Ⅱ)において、一般学生と聴覚障害当事者学生の円滑なコミュニケーションを保障し、ユニバーサルデザインに基づく授業運営のために必要な備品を購入した。

## （2）令和 4 年度人材養成機能強化経費「学生の多様な能力アセスメント事業」報告書

令和　5年　3 月　3 日

人材養成機能強化経費（令和 4 年度）
学生生活指導等支援事業「学生の多様な能力アセスメント事業」報告書

1. 令和 4 年度実施計画
(1)ハイブリッドモデル（仮称）構築のための、キャリアアセスメントツールの選別
これまで継続的に行ってきた発達特性に関するアセスメントを発展させる形で、発達特性のアセスメントのみならず、キャリアに関するアセスメントにも対応可能なアセスメントのハイブリッドモデル（仮称）の構築を計画しています。これらのアセスメント機能を充実させることで、多様な発達特性を有する学生に対する修学面だけでなく、キャリア面での支援もより効果的に進められます。次年度は、本プロジェクトで使用するキャリアアセスメントツールについて検討し、具体的なツールを選別します。

(2)全学生に対する包括的スクリーニングの実施体制の実装
これまで同様に「学生生活の困りごと／強み調査」を継続実施するとともに、調査結果の回収から学生・教育組織へのフィードバック、アセスメントまでの接続をよりスムーズに進めるための運用方法・システムを点検します。また、今年度に実施した対処法に関する予備調査結果を踏まえ、学生が困りごとを感じた際に相談機関にすぐにつながらなかったとしても有効と考えられる対処法を WEB 上で提案するサービスの構築を検討します。加えて、本調査を活用して授業のユニバーサルデザイン化につなげるための試行的取組を開始します。

(3)多様な学生に対する心理教育的アセスメント、ならびに、試行的キャリアアセスメントの実施
本プロジェクト HP への掲載、ならびに、Twitter や Facebook 等の SNS での周知を定期的に行い、今年度を上回る約 120 名の高支援ニーズ学生およびアセスメント希望学生に個別のアセスメントを実施します。また、希望者にはキャリアに関するアセスメントを試行的に実施し、アセスメント実施体制やフィードバックに対する満足度・改善点等について学生に評価を依頼し、効率的・効果的な実施体制およびフィードバック方法について検討を行います。

(4)アセスメント結果から円滑な教育・学習支援体制の実装
利用学生の意見を踏まえて、修学支援の充実を図り、利用学生数を約 130 名とすることを目標とします。また、教育・学習支援体制を受ける前後で、高支援ニーズ学生の日常生活における「困り感」や行動、自分自身に対する認識がどのように変化したのかについて検討を行います。あわせて、個別のアセスメントや修学支援を受ける前後で、どのような行動面・心理面の変化が学生に生じるのかについての検討も行い、面談や自記式の質問紙による効果評価を行います。

(5)発達特性に関連したデータ解析による学術的検証およびアセスメントに関する入門書の作成
本プロジェクトの個別の心理教育的アセスメント体制の現状と課題について、”*Journal of Postsecondary Education and Disability* ”あるいは“*Research in Autism Spectrum Disorder* ”に投稿し、本プロジェクトの取り組みを公表することを通して、個別的アセスメント実施体制の可能性と課題について検討を進めていきます。さらに、アセスメントガイドラインに準ずる刊行物を基に、アセッサー養成のための研修会を試行的に実施し、他大学におけるアセスメント体制の構築およびその充実に向けた機会を提供します。

2. 実施状況
(1)プロジェクト運営全体
本プロジェクトの事業内容を円滑に遂行するため、2022 年 4 月より中田弘美氏（常勤）を職員

(アセッサー)、中島範子氏(非常勤)として採用しました。
本プロジェクトの学術界への成果報告の一環として、2022 年 10 月 29 日に開催された第 31 回日本 LD 学会自主企画シンポジウム「高等教育機関における新専門職アセッサーに求められるスキル・コンピテンシーとは」を、本プロジェクト実施スタッフの中野が企画し、同じく実施スタッフである脇が司会を行いました。当日の発表では、本プロジェクトの実践内容について中野が筑波大学におけるアセッサー創出の取組とその職務内容の現況について話題提供を行うとともに、機能評価の在り方や特別支援教育と高等教育段階におけるアセスメントの差異、アセッサーに求められるスキル・コンピテンシーやアセッサー養成の課題等に関する議論が行われました。

(2)全学生に対する包括的スクリーニングの実施体制の検討
今年度はダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターからヒューマンエンパワーメント推進局(BHE)への改組を行い、これまでの実施体制から「学生生活の困りごと/強み調査」を BHE で実施する業務として位置づけるために、BHE での実施体制や次年度以降の実施方針についての検討を行いました。特にキャリア支援チームとの情報共有を行い、キャリア支援チームで実施する面談等でも調査項目を参照したり、学生のニーズに応じて個別アセスメントへの紹介を勧めてもらうなど相互に連携した取り組みを行いました。また、窓口対応から相談、アセスメント実施に至る具体的なフロー等についても検討しました。今年度の検討内容をもとに、次年度の実施体制を新たに構築します。

(3)高支援ニーズ学生に対する個別的アセスメントの実施体制の実装
Table 1 および Figure1 に、過去 3 年間における心理教育的アセスメント希望学生数およびアセスメント利用経緯を示しました。今年度は、137 名の学生を対象に個別の心理・教育的アセスメントを実施しました(以降のデータは 2023 年 1 月 31 日時点、過年度も 1 月 31 日時点の値)。

Table1 過去3年間における心理教育的アセスメント希望学生数、および、アセスメント・初回相談経緯

| 年度 | アセスメント(人) |
|---|---|
| 2020 | 65 |
| 2021 | 98 |
| 2022 | 137 |

| アセスメント・初回相談経緯(人) | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学内組織からの紹介 | | | | 医療機関 | BHEウェブサイト/SNS等 | 困りごと/強み調査 | 他者情報(授業・友人) | 入学前相談 | その他(具体的に) |
| 保健管理センター精神科 | 学生相談総合窓口 | キャリア支援チーム | 教育組織 | | | | | | |
| 10 | 38 | 3 | 14 | 5 | 54 | 1 | 50 | 7 | 11 |

昨年度に引き続き、COVID-19 の影響により、初回の面談はオンラインでの実施で対応しました。今年度はアセスメントを希望する学生がこれまでで最も多く、過去最高が更新されておりアセスメント事業の必要性がうかがえます。また、アセスメント利用経緯の結果から、BHE ウェブサイト/SNS 等による相談経緯がもっとも多く、本プロジェクトにおけるアセスメント実施体制を HP 内で周知していることや、SNS で関連する活動について発信したことが有効であったと考えられます。次いで、他者情報として授業・友人から聞いた割合が高く、すでに利用している学生からの口コミ等も影響したと考えられました。学内組織からの紹介としては「学生相談・総合相談からの紹

介」が最も多く、学生相談部署ともアセスメント事業についての連携が図れていると考えられます。また、Figure1 にアセスメントを受けた時の学生の学年についてまとめました。

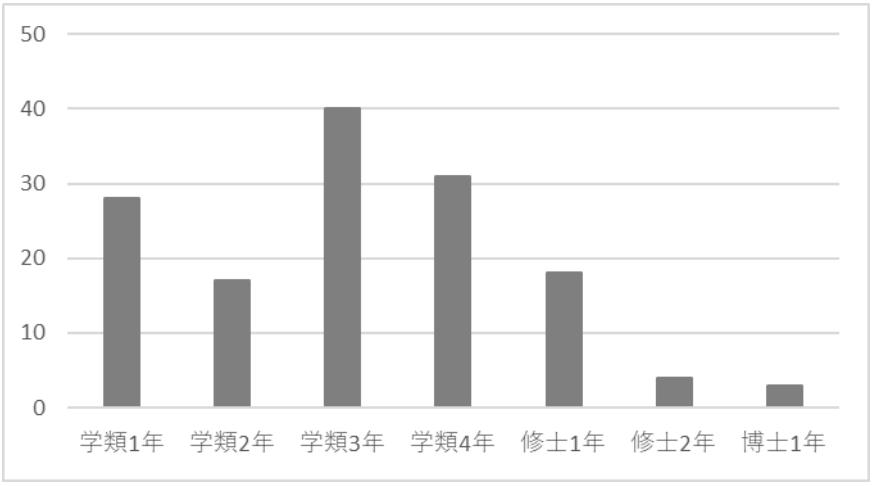



Figure 1 アセスメント実施時の学年毎の学生数

学類生からの希望が多く、今年度は学類3年・4年での実施が多かったです。また学類生のみならず、修士・博士課程学生も含め各学年から一定程度の希望が出ていることが確認されました。

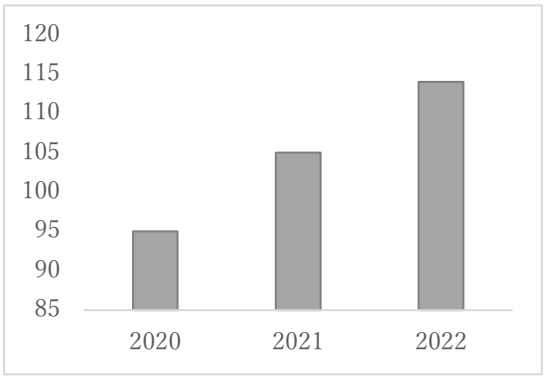
(4)アセスメント結果から円滑な教育・学習支援体制の実装

BHE の修学支援を利用する発達障害の診断または傾向のある学生(以下、利用学生)は 114 名であり、毎年増加しています。また、今年度はアセスメントおよびスタディスキルコーチング・コーチング数ともに過去最多でした。Table 3 および Figure 3 に、過去 3 年間における利用学生の推移およびアセスメント等実績延べ数を示しました。

Table 2 過去 3 年間における利用学生数、および、アセスメント等実績延べ数

| 年度 | 利用学生（人） |
|---|---|
| 2020 | 95 |
| 2021 | 105 |
| 2022 | 114 |

| 年度 | アセスメントおよび<br>スタディスキル・コーチング（件） |
|---|---|
| 2020 | 589 |
| 2021 | 1073 |
| 2022 | 1326 |



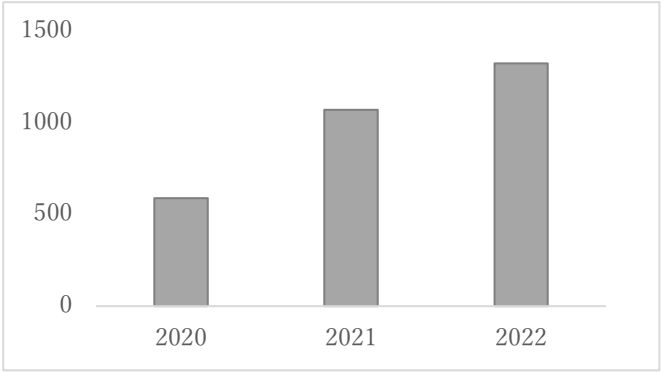




Figure 2 過去 3 年間における利用学生数、および、アセスメント等実績延べ数

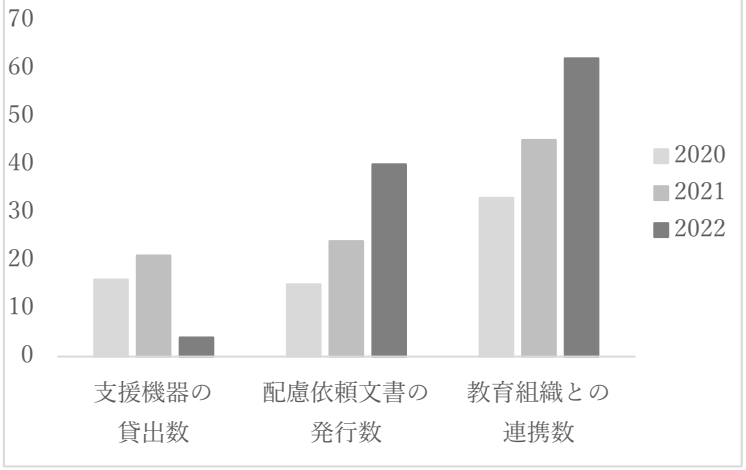
これらの結果から、利用学生数が毎年増加していること、アセスメントならびにスタディスキル・コーチング実績延べ数が増加していることが確認されました。今年度は常勤のアセッサーが配置されたことから、アセスメントを専門に実施する人員を配置でき、その他の専門スタッフがスタディスキル・コーチングを実施するなどの役割分担が可能となりました。そのため、学生個々の修学上の困りごとに合わせて対応することができました。特にスタディスキル・コーチングはアセスメント利用後につながることも多く、修学上困難のある学生に対する円滑な教育・学修支援体制を整備することにもつながります。毎年利用学生が増加していることから、これらの修学支援を学生のニーズに合わせて細やかに実施するためには、今後もアセスメントおよびスタディスキル・コーチングに関する専門教職員によるサポートを恒常的に行える修学支援体制を整えることが必要であると考えられました。

その他の支援体制の整備として、過去 3 年間における支援機器の貸出数、配慮依頼文書の発行数、教育組織との連携数および BHE 主催のグループ活動への参加者数を Table 4 および Figure 4 に示しました。

Table 3 過去3年間における教育・学習支援体制整備の関連数、ならびに、グループ活動への参加者数

| 年度 | 支援機器の貸出数 | 配慮依頼文書の発行数 | 教育組織との連携数 |
|---|---|---|---|
| 2020 | 16 | 15 | 33 |
| 2021 | 21 | 24 | 45 |
| 2022 | 4 | 40 | 62 |

| 年度 | グループ活動の参加者数 |
|---|---|
| 2020 | 65 |
| 2021 | 62 |
| 2022 | 31 |



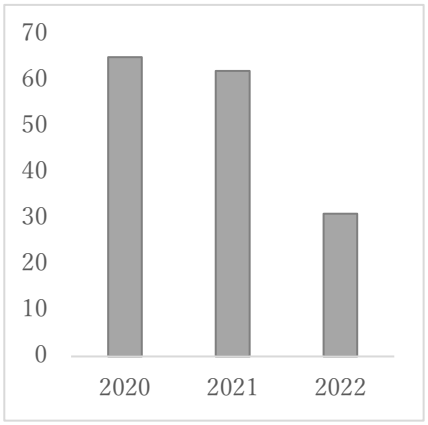




Figure 3 過去3年間における教育・学修支援体制整備の関連数、ならびに、グループ活動への参加者数

支援機器の貸出に関するニーズは減少したものの、配慮依頼文書の発行や教育組織との連携は過去最多でした。先述したように、BHE の利用学生数は年々増加しており、配慮依頼文書の発行や教育組織との連携数の増加とも関連していると考えられます。今後も学生のニーズや、個々の教育・学修環境に応じてきめ細やかな対応が求められます。この傾向は今後も続くことが予想され、BHE の修学支援体制を拡充していくことが今後の課題として考えられました。なお、支援機器の貸出数は減少したものの、毎年一定程度ニーズが認められるため、学生の修学上の困りごとへの工夫や予防的対応として今後も対応を行う予定です。

その他、利用学生を中心としたグループ活動を企画・実施しました。昨年度と比較すると、一定程度の参加はあったものの、グループ活動参加学生の数は減少していることがうかがえました。参加者からの聞き取りによると、対面授業が本格的に再開したことから、以前よりも大学生活内

で交流の機会が増えていること、本グループ活動以外においても学生が個々に交流の機会を設けており、各自で交流を行っていたことがうかがえました。今後は学生のニーズに合わせてグループ活動の企画・内容を調整する必要があると考えられました。

(5)アセスメント後の学生の変容とフィードバックの実施方法

アセスメント実施後に、アセスメントを受けたことで行動面、心理面で変容したことやアセスメントを受けた感想について聴取しました。下記、学生から聴取した内容を示しました。

Table4 アセスメント実施後の変容・感想(一部抜粋)

| カテゴリ | 具体的な変容・アセスメント実施後の感想 |
|---|---|
| 行動面 | BHE の主催するグループ活動に登録し参加した |
| 行動面 | 研究室で指導教員と話す機会があり、自身の現状を伝えた |
| 心理面 | 人と話すことで気持ちが楽になる。落ち込むこともあるので今回のように話せてよかった |
| 心理面 | これまでの自分の行動が数値化されることで、意識することができてよかった |
| 心理面 | 自分で苦手と思っていたことが、検査結果より裏づけとなったため安心できた |
| 心理面 | 今回の検査結果をもとに、自分自身の行動を意識したりして、対策を講じてみたい |
| 心理面 | 今回の検査で、漠然と描いていた自分のイメージが根拠をもって示されたように思う |

行動面として、その後の BHE グループ活動への参加や指導教員に自分から現状を伝えるなど、積極的な行動を示す学生がいたことが明らかになりました。また、心理面ではアセスメントを受けたことで、自分自身の特徴が客観的な裏づけをもって把握でき、理解や安心感につながっていました。また、自分のことを話す機会にもなり、気持ちが楽になったり、ストレスが減ったと表現する学生もいました。アセスメントにより、自分自身で対処できる工夫や対策を考えるきっかけにもつながったと考えられます。

(6)発達特性に関するデータ解析による新たな教育方略やアセスメント法の開発

修学上の困りごとと多様な発達特性との関連に関する学術的検証(『障害科学研究』第 45 巻への掲載)から得られた考察・課題を踏まえて、研究を実施しています。R4 年度は、困りごと質問紙と感覚特性や読み書きスキル、精神状態との関連を検討しました。また、読み書きスキルと困りごと質問紙の結果や発達特性等との関連についても検討し、読み書きスキル、特に音読課題のパフォーマンスと修学上の困りごとや発達特性等と何らかの関連性を有している可能性が挙げられました。

(7)キャリアアセスメントツールの選別と試行的実施

今後キャリアアセスメントを本格的に実施するためのツールとして、アセッサーを中心に下記の3種類の検査を選別しました。

●「RCC 就職レディネスチェック」

第一段階として、学生が自分の就職活動への取り組み状況(準備度)を客観的に点検することができ、モチベーションをアップさせたり、就職活動に関する行動を促したりすることで、今後の活動に活かすことを目的としているツールであり、自分にとって「就職」とは何かを考えるきっかけに

なります。
●「VRT 職業レディネス・テスト」
　第二段階として、学生が自己理解を深め、職業選択に対する考え方を学習できる教材として有効なツールであり、検査結果から具体的な職業の領域などを示し、本人の興味ある領域や志向性を知ることができます。
●「SDS キャリア自己診断テスト」
　第三段階として、職業興味だけでなく、活動性、能力、自己評価といったキャリアに関する多面的な理解が可能なツールであり、「VRT 職業レディネス・テスト」よりも詳細な職業名を把握することができます。 キャリアに関するガイダンスやアセスメントツールとしても使用されています。
　今年度キャリアアセスメントとして「VRT 職業レディネス・テスト」を1名（学群4年生1名）、「SDS キャリア自己診断テスト」を 4 名（学群4年生3名、1 名）に試行的に実施しました。学生の具体的な職業名を知りたいという希望に合わせて、特に「SDS キャリア自己診断テスト」を実施しました。学生からの反応としては、「社会的職業が高くなるとは思っていなかった。やってよかった。」「研究職的職業や現実的職業が高い結果となったことに納得できた。自分の興味関心のあることについて、具体的な職種や職業を知らないこともあった」などが示されました。
　「SDS キャリア自己診断テスト」は職業名が明らかとなるため、アセスメント実施後に具体的な仕事がイメージしやすい点に特長があります。今回希望した4名はいずれも最終学年であったため、本人のニーズにも合っていたと考えられます。一方で、「VRT 職業レディネス・テスト」は具体的な職業名が出ない分、その後のフィードバックや面談等で検査結果や自分の考えについて確認する機会にもつながりやすいです。本年度は学生のニーズに応じた上記2つの検査を行ったが、来年度は「RCC 就職レディネスチェック」も含めた3つの検査をもとに、キャリアアセスメントを行っていく予定です。また、これらのツール以外にも有用なキャリアアセスメントツールがないか、引き続き検討を行っていきます。

3. 成果報告（研究実績）
学会発表
中野泰伺・中島範子・北島千里・長原邦明・佐々木銀河, 学内外における関係機関との連携を通した高次脳機能障害学生に対する修学支援の実践, 全国高等教育障害学生支援協議会第 8 回大会, WEB 開催, 2022 年 8 月（査読あり, ポスター）
脇貴典・佐々木銀河・青木真純・中野泰伺・竹田一則, 高等教育機関の教職員を対象にした e-learning 受講者の研修アンケート分析, 全国高等教育障害学生支援協議会第 8 回大会, WEB 開催, 2022 年 8 月（査読あり, ポスター）
中野泰伺（企画・話題提供）・脇貴典（司会）・諏訪絵里子（話題提供）・青木真純（話題提供）・高橋知音（指定討論）・篠田晴男（指定討論）, 高等教育機関における新専門職アセッサーに求められるスキル・コンピテンシーとは. 日本 LD 学会第 31 回大会自主シンポジウム, 2022 年 10 月 29 日.
Takanori Waki; Ayaka Sueyoshi; Kazuki Yamamori; Yasushi Nakano; Ginga Sasaki; Kazunori Takeda. Reasonable Accommodation for Online Learning at the University of Tsukuba, *4th International Disability Inclusion Symposium*, WEB 開催, 2023年2月18日.
Takanori Waki; Aya Fujiwara; Atsuko Iwata; Kazunori Takeda . Factors Affecting Support for Students with Developmental Disabilities in Japanese Institutions of Higher Education – an Interview Survey Study, *38th Annual Pacific Rim International Conference on Disability and Diversity*, 2023年 3 月 6 日-3 月 7 日.
Yasushi Nakano; Tomone Takahashi; Shinji Okazaki; Haruo Shinoda; Takanori Waki; Kazunori Takeda; Ginga Sasaki. Creation of a New Professional Position of ”Assessor” in Japanese Institutions of Higher Education – Introduction to

the University of Tsukuba's Initiatives -, *38th Annual Pacific Rim International Conference on Disability and Diversity*, 2023年3月6日-3月7日.

4. 次年度の計画

(1)発達特性ならびにキャリアアセスメントの実装に向けたハイブリッドモデルの作成

今年度のキャリアアセスメントツールの選別と試行的なキャリアアセスメントの結果を踏まえ、これまで継続的に行ってきた発達特性等に関するアセスメントを発展させる形で、発達特性のアセスメントのみならず、キャリアに関するアセスメントにも対応可能なアセスメントのハイブリッドモデルの作成を計画しています。具体的には、アクセシビリティ支援チームにおける発達特性等のアセスメントとキャリアアセスメントの結果より、自己特性理解や自身の強み・弱みの把握のみならず、卒業・修了後の就職・キャリアを考える上での材料となる情報を集めます。修学での困りごとや就職・キャリアにおける自身の弱み・苦手な点を早期に発見・理解することで、その後自発的に工夫や問題解決を進めることが可能となります。他方、キャリア支援チームにおける相談の中で、就職活動の困難が生じた場合に自己特性理解を進めるためにアクセシビリティ支援チームのアセスメントを紹介するなど、アクセシビリティ支援チームとキャリア支援チームとの橋渡しを行いシームレスな連携を図ります。これらのハイブリッドモデルによるアセスメント受けることで、修学と就職双方向の視点をもって、大学生活を過ごすための機会や自分なりの工夫、必要な支援につなげていくことを目指します。

(2)全学生に対する包括的スクリーニングの実施体制の実装

BHE 体制での「学生生活の困りごと／強み調査」を実施するとともに、調査結果の回収から学生・教育組織へのフィードバック、アセスメントまでの接続をよりスムーズに進めるための運用方法・システムを点検します。

(3)多様な学生へのアセスメントが教育・学修支援体制に及ぼす影響の検討

今年度の支援体制を継続し学生の修学支援の充実を図り、中期計画 KPI を参考にアセスメント利用学生数 105 名を目標とします。そのために、本プロジェクト HP へのアセスメント情報の掲載、ならびに、BHE に関する情報を Twitter や Facebook 等の SNS で定期的に周知を行います。利用学生には個別のアセスメントや修学支援を受ける前後で、どのような心理面の変化が生じるかについて面談により聞き取りを行います。また、フィードバックを受けた直後だけでなく、一定期間経過した後の修学面・生活面での変容について追加で聴取する機会を設けます。

(4)新専門職アセッサー創出の取り組みとアセッサーに必要なスキル・コンピテンシーの検討

本事業におけるアセッサー創出の取り組みと高等教育機関を取り巻く課題について、"*Review of Disability Studies: An International Journal*"内で公表するとともに、アセッサーに関連したシンポジウムや研修会を開催し、大学生を対象としたアセスメントに関する議論を継続的に実施していきます。あわせて、アセッサー養成のためのスキル・コンピテンシーの骨子を固め、高等教育段階におけるアセスメント体制の構築およびその充実に向けたノウハウを提供します。

## 12.広報・渉外活動

### (1)ウェブサイトにおける情報発信

令和4年度 WEB サイト、Facebook、Twitter による広報実績　※2023年 1 月時点

●WEB サイト

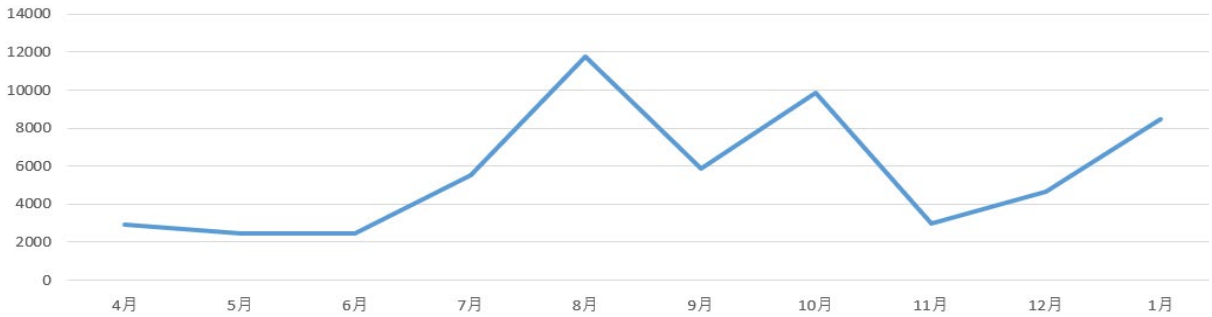
＜投稿件数(アクセシビリティ)＞34件

2022 年 5 月 9 日　令和 4 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞 理解増進部門」
2022 年 5 月 24 日　【6/28 開催】第 1 回 FD/SD 研修会「吃音のある学生の理解と支援」の開催について
2022 年 6 月 7 日　2022 年度春学期 運動・内部コース養成講座開催
2022 年 6 月 22 日　駐輪マナー向上キャンペーンの実施について
2022 年 6 月 24 日　【7/29 開催】第 2 回 FD/SD 研修会「仮想事例動画による事例検討会」の開催について
2022 年 6 月 28 日　2022 年度春学期 聴覚コース養成講座開催
2022 年 7 月 5 日　2022 年度春学期 発達コース養成講座開催
2022 年 7 月 5 日　2022 年度筑波大学説明会(オープンキャンパス)において、障害等の理由により支援を必要とする皆様、障害学生支援について個別相談を希望される皆様へ
2022 年 7 月 21 日　発達障害啓発マンガのイラスト公開について
2022 年 7 月 21 日　2022 年度春学期 LS コース養成講座を開催しました
2022 年 7 月 21 日　2022 年度春学期 視覚コース養成講座を開催しました
2022 年 7 月 22 日　【見逃し配信】FD/SD 研修会「吃音のある学生の理解と支援」
2022 年 7 月 28 日　「青年期・成人期における発達障害のある人を誰一人取り残さない社会に向けて」
2022 年 7 月 28 日　【9/27 開催】第 3 回 FD/SD 研修会「学生のメンタルヘルスと修学支援」の開催について
2022 年 7 月 28 日　2022 年度 手話コミュニケーション I が開催されました
2022 年 8 月 26 日　【見逃し配信】第 2 回 FD/SD 研修会「仮想事例動画による事例検討会」
2022 年 9 月 5 日　障害を理由とした合理的配慮としてのオンラインによる授業受講について(通知)
2022 年 9 月 9 日　【見逃し配信】一般公開 WEB イベント「青年期・成人期における発達障害のある人を誰一人取り残さない社会に向けて」
2022 年 9 月 12 日　【10/20 開催】第 4 回 FD/SD 研修会「仮想事例動画による事例検討会(キャリア支援)」
2022 年 10 月 13 日　【見逃し配信】第 3 回 FD/SD 研修会「学生のメンタルヘルスと修学支援」
2022 年 11 月 1 日　関東鉄道バス土浦営業所訪問
2022 年 11 月 1 日　2022 年度秋学期 視覚コース養成講座開催
2022 年 11 月 1 日　第 5 回 FD/SD 研修会「大学等に求められるインクルーシブなキャンパスづくりのために」
2022 年 11 月 1 日　令和 4 年度全学防災訓練「障害学生等支援防災ワーク」の開催について
2022 年 11 月 8 日　2022 年度秋学期 聴覚障害学生支援グループ養成講座開催
2022 年 12 月 2 日　2022 年度秋学期 運動・内部障害学生支援グループ養成講座を開催しました
2022 年 12 月 7 日　【見逃し配信】第 4 回 FD/SD 研修会「仮想事例動画による事例検討会(キャリア支援)」
2022 年 12 月 9 日　【10/6】駐輪マナー向上キャンペーンについて
2022 年 12 月 13 日　2022 年度秋学期 LS グループピア・チューター養成講座を開催しまし

た
2022 年 12 月 13 日　2022 年度秋学期　発達障害学生支援グループ養成講座開催
2022 年 12 月 20 日　【1/20 開催】FD/SD 研修会「仮想事例動画による事例検討会（自己特性理解支援）」
2023 年 1 月　5 日　2022 年度 手話コミュニケーションⅡ開催
2023 年 1 月 20 日　【2/22 開催】障害学生のための就活セミナー「キャリアについて考えてみよう～ハローワーク土浦と茨城障害者職業センターをお招きして～」の開催について
2023 年 1 月 24 日　【無料トライアル実施中！】大学生活の困りごとに対するアイディアや便利ツールを自動提案する LINE チャットボット「ダボット：ダックスさんの相談室」
2023 年 2 月 20 日　令和 4 年度全学防災訓練「障害学生等支援防災ワーク」（全学リスクマネジメントセミナー）を実施しました
＜投稿件数（RADD）＞28件

### （2）Facebook、Twitter における情報発信

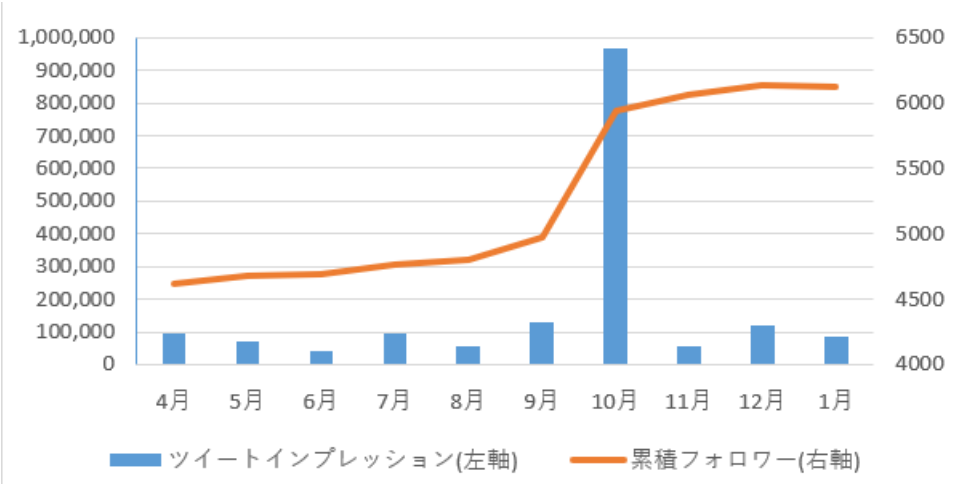
●Facebook
＜投稿件数＞49 件
＜総フォロワー数＞2215 人（前年度＋96 人）




投稿のリーチ数の推移（最低1回は投稿を見た人の数）

＜投稿のリーチ順位＞
8月3日：【配布イラスト追加】発達障害の特性や日常のひとコマ（7059 リーチ）
1月10日：【センター改組とイラスト追加のお知らせ】（3948リーチ）
10月6日：【書籍化のお知らせ】「ヒトはそれを『発達障害』と名づけました」（3654リーチ）
9月7日：　【吃音 心の中ではすらすらと】6 月に実施した研修会「吃音のある学生の理解と支援」（2784 リーチ）
1月13日：【募集：3/11 発達障害のある高校生向け大学生1日体験講座「じぶんハッタツラボ」（2023 春）】（2454 リーチ）

●Twitter
＜投稿件数＞80 件




フォロワーの推移（累積）

＜いいね、リツイート数順位＞
・発達障害啓発マンガ関連　※延べ 8,346 件のいいね…投稿 1 回あたり平均 397 件
・FDSD 研修会のお知らせ、見逃し配信など一連の投稿　378件
・（うち「吃音のある学生の理解と支援」一連の投稿が 216 件）
・「障害学生支援技術」授業広報　69 件
・全国5大学の取組をショーケースの配信　66 件
・大学生活のアイディアやツールを自動提案する LINE チャットボット「 ＃ダボット 」の無償トライアル　52 件

### （3）発達障害啓発マンガによる広報

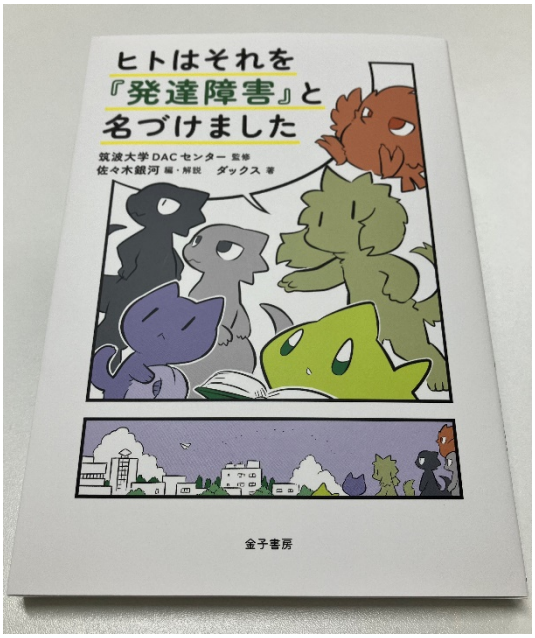
#### ア）概要

理解啓発としてより多くの方が発達障害のことを知る契機となるよう、発達障害啓発マンガ「ヒトはそれを『発達障害』と名づけました」のキャラクターを用いて広報活動を行った。

#### イ）活動内容

①「ヒトはそれを『発達障害』と名づけました」の書籍出版

発達障害支援プロジェクト（RADD）のホームページで公開している漫画に書き下ろしを加える形で、株式会社金子書房より上記キャラクターを用いた発達障害啓発漫画を出版した。



②上記キャラクターを用いたイラストギャラリーの公開

発達障害支援プロジェクトのホームページで画像のダウンロードが可能なギャラリーを作成し、発達障害の特性やキャラクターの日常イラストの公開を行った。

**（4）各種取材への対応**

障害学生支援に関連して、下記7件の取材対応を行いました。

・2022 年 5 月 22 日：朝日新聞「発達障害診断ない学生の支援は」
https://www.asahi.com/articles/DA3S15301773.html

・2022 年 11 月 4 日：筑波大学新聞「現状と課題を追う　筑波大のバリアフリー」
https://www.tsukuba.ac.jp/about/public-newspaper/pdf/373.pdf

・2022 年 12 月 19 日：AERA「発達障害学生 10 年間で 6 倍に増加　各大学が支援体制を強化、筑波大は専用スペースも」
https://dot.asahi.com/aera/2022121400042.html?page=1

・2023 年 2 月 1 日：読売新聞ヨミドクター「発達障害に配慮した施策で、風通しの良い職場に」
https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20230106-OYTET50002/3/

・2023 年 2 月 7 日：文化放送 大竹まことゴールデンラジオ！「2023 年 2 月 7 日 佐々木銀河」
https://podcastqr.joqr.co.jp/programs/golden_main

・2023 年 2 月 13 日：筑波大学新聞「ヒューマンエンパワーメント推進局新設」
https://www.tsukuba.ac.jp/about/public-newspaper/pdf/375.pdf

・2023 年1月6日：クローバーナビ
「大学のチャレンジ・バリアフリー～チーム間の連携を密にし、就職支援の充実度を高める～」
クローバー2023spring -春号- Vol.68

## 13. 他機関との連携・他大学等への支援実績

### (1)アクセシビリティ専門部会委員学外業務

| 日付 | 氏名 | 主催者／場所 | 名称 | 種別 |
|---|---|---|---|---|
| 4 月 1 日<br>～(通年) | 佐々木 | 独立行政法人日本学生支援機構 | 紛争の防止・解決等事例集 | 協力者 |
| 4 月 2 日 | 佐々木・ダックス | 株式会社 Ledsone／オンライン | ハッタツソンフェス 2022 | 講師 |
| 5 月 18 日 | 脇 | 日本プライマリ・ケア連合学会／オンライン | 第 218 回 保健・医療・福祉に関する勉強会 | 講師 |
| 6 月 20 日、22 日 、27 日、29 日 | 佐々木 | 筑波大学大学研究センター／オンライン | 大学マネジメント講義 | 講師 |
| 7 月 21 日 | 大村 | PHED／オンライン | PHED SIG-CSW ミーティング | 情報交換 |
| 7 月 28 日 | 末吉 | 札幌学院大学／オンライン | 令和 4 年度 発達障がいのある大学生への修学就職支援に関する FD/SD 研修会 | 講師 |
| 8 月 8 日 | 中野 | 創価大学障害学生支援室運営委員会・教育・学習支援センター(CETL)／オンライン | 授業等における合理的配慮に関する勉強会 | 講師 |
| 8 月 26 日 | 佐々木 | 愛媛大学／オンライン | SPOD フォーラム | 講師 |
| 8 月 29 日 | 鶴井 | 岡山大学教育推進機構、大学コンソーシアム岡山障がい学生支援委員会／オンライン | 2022 年度 岡山大学・大学コンソーシアム岡山「障がい学生支援研修会」 | 参加 |
| 8 月 29 日～10 月 2 日 | 脇・中野 | AHEAD JAPAN／オンライン | AHEAD JAPAN2022 年全国大会オンラインプログラム | 実践発表 |
| 8 月 30 日 | 脇 | 埼玉県立総合教育センター／オンライン | 高等学校のこれからの学びの推進研修会 | 講師 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 9 月 5 日 | 佐々木 | 一般社団法人日本高等教育障害学生支援協議会／京都大学 | AHEAD JAPAN CONFERENCE 2022 オンサイト企画 | 講師 |
| 9 月 5 日 | 脇･中野 | AHEAD JAPAN／京都大学 | AHEAD JAPAN2022 年度全国大会 オンサイトイベント | 参加･情報交換 |
| 9 月 17～19 日 | 中野 | 特殊教育学会／つくば国際会議場 | 日本特殊教育学会第 60 回大会 | 参加･自主シンポジウム開催 |
| 9 月 21 日 | 佐々木 | いばらき発達障害研究会／オンライン | いばらき発達障害セミナー | 講師 |
| 9 月 22 日 | 佐々木 | 上智大学／オンライン | 上智大学 FD | 講師 |
| 9 月 23 日 | 大村 | PHED／東京大学先端研 | PHED SIG SUMMIT | 参加 |
| 9 月 29 日 | 佐々木 | 東京海洋大学／オンライン | 東京海洋大学研修会 | 講師 |
| 10 月 15 日 | 佐々木 | 東北大学／オンライン | 東北大学学生相談･特別支援センタースーパービジョン研修 | 講師 |
| 10 月 16 日 | 佐々木 | 神奈川 LD 等発達障害児･者親の会 にじの会／横浜市西区福祉保健活動拠点フクシア･多目的研修室 | 神奈川 LD 等発達障害児･者親の会 にじの会会員向け学習会 | 講師 |
| 10 月 29～30 日 | 脇･中野 | 日本 LD 学会／国立京都国際会館 | 日本 LD 学会第 31 回大会 | 参加･自主シンポジウム開催 |
| 11 月 9 日 | 末吉 | 北星学園大学 | 発達障害と学習支援 | 講師 |
| 11 月 11 日 | 大村 | PHED／オンライン | PHED SIG-CSW ミーティング | 情報交換 |
| 11 月 16 日 | 佐々木 | 昭和女子大学／オンライン | 昭和女子大学 障がい学生支援研修会 | 講師 |
| 11 月 16 日 | 佐々木 | 公益社団法人日本理学療法士協会／オンライン | 公益社団法人日本理学療法士協会 産業領域業務推進部会 | 講師 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 11月19日 | 佐々木 | 日本心理学会／オンライン | 日本心理学会公開シンポジウム | 講師 |
| 11月20日～21日 | 佐々木 | 日本学生相談学会／オンライン | 日本学生相談学会 第60 回全国学生相談研修会 | 講師 |
| 11月24日 | 竹田 | 日本学生支援機構／オンライン | 令和4年度障害学生支援委員会 | 参加（委員長） |
| 12月3日 | 脇 | 千葉大学アカデミック・リンク・センター／オンライン | 学生の抱える困難の理解と支援 | 講師 |
| 12月7日 | 佐々木 | 作新学院大学／オンライン | 作新学院大学 FD・SD研修 | 講師 |
| 12月8日 | 佐々木 | 千葉工業大学／オンライン | 千葉工業大学 研修会 | 講師 |
| 12月10日 | 佐々木 | 慶應義塾大学／オンライン | 慶應義塾大学文学部 FD講演会 | 講師 |
| 12月16日 | 大村 | 美浦特別支援学校／オンライン | 令和４年度特別支援学校就労支援充実事業拠点校研修会 | 講師 |
| 1月17日 | 脇 | 大原大学院大学／オンデマンド | FD･SD 研修会 | 講師 |
| 2月2日 | 大村 | PHED／東京大学先端研 | PHED SIG-CSW | 参加 |
| 2月6日 | 宮本 | 杉並区立高井戸小学校 | 吃音のある児童の保護者会講演 | 講師 |
| 2月7日 | 佐々木 | 文化放送／ラジオ | 文化放送「大竹まこと ゴールデンラジオ！」 | 出演 |
| 2月10日 | 佐々木 | 武田薬品工業株式会社／オンライン | ND Symposium | 講師 |
| 2月11日 | 大村 | PHED／東京大学先端研 | PHED SIG SUMMIT | 参加 |
| 2月12日 | 鶴井 | SIG-AT／オンライン | 車椅子利用学生を支援するための車椅子の基礎知識と相談の視点 | 参加 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2 月 13 日 | 中野 | 名古屋市立大学／オンライン | 令和４年度名古屋市立大学 FD･SD 講演会 | 講師 |
| 2 月 14 日 | 佐々木 | 徳島文理大学／徳島文理大学 | 徳島文理大学 研修会 | 講師 |
| 2 月 18～19 日 | 脇･中野 | 東京大学／オンライン | 4th International Disability Inclusion Symposium | 参加 |
| 2 月 27 日 | 佐々木 | 日本獣医生命科学大学／日本獣医生命科学大学 | 日本獣医生命科学大学 FD ワークショップ | 講師 |
| 3 月 2 日 | 佐々木 | 大阪電気通信大学／大阪電気通信大学 | 大阪電気通信大学 FD/SD 研修会 | 講師 |
| 3 月 3 日 | 佐々木 | 東京海洋大学／オンライン | 東京海洋大学 研修会 | 講師 |
| 3 月 6～7 日 | 脇･中野 | ハワイ大学マノア校／ハワイコンベンションセンター | 38th Annual Pacific Rim International Conference on Disability and Diversity | 参加･実践発表 |
| 3 月 10 日 | 脇 | 共立女子大学／共立女子大学 | 学生相談研修会 | 講師 |
| 3 月 16 日 | 脇 | 東京医療保健大学／オンライン | FD 研修会 | 講師 |
| 3 月 21 日 | 佐々木 | 星槎大学／新宿歴史博物館講堂 | ヨコハマモデル シンポジウム | 講師 |
| 3 月 23 日 | 脇 | 東京未来大学／東京未来大学 | FD･SD 研修会 | 講師 |

**（2）日本学生支援機構ネットワーク拠点校相談等の対応**

日本学生支援機構の「障害学生修学支援ネットワーク」相談事業における拠点校として、他大学からの相談45件に対し、対応を行いました。

（https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/shien_network/index.html）

## (3)障害学生支援に関する訪問・見学者対応

令和４年度アクセシビリティ訪問・見学者対応実績

| 日付 | 機関名等 | 訪問者内訳 | 備考 |
|---|---|---|---|
| ５月６日 | 株式会社乃村工藝社 | 職員２名 | アクセシブルスタディルームの見学・情報交換 |
| ５月 24 日 | 中央大学、筑波大学 | 教員・学生 12 名 | アクセシブルスタディルームの見学・情報交換 |
| ５月 24 日 | サポートセンターしょうなん | 職員４名 | 障害学生支援準備室及びアクセシブルスタディルームの見学・情報交換 |
| ７月６日 | 齋藤茂昭記念財団 | ６名 | 障害学生支援体制の説明 |
| ７月 15 日 | 筑波大学附属視覚特別支援学校 | 高等部２年 19 名<br>教員４名 | オンラインキャンパス体験（模擬講義、視覚障害学生、ピア・チューター学生の話） |
| ７月 27 日 | 千葉工業大学 | 職員４名 | 発達障害・精神障害学生についての情報交換・アクセシブルスタディルームの見学 |
| ９月７日 | メインストリーム協会 | スタッフ４名 | 障害学生支援体制の説明、障害学生向けインターンシップの打ち合わせ |
| ９月 17 日 | インクルーシブ・リーダーズ・カレッジ | 講座受講者 7 名 | アクセシブルスタディルームの見学 |
| 10 月 19 日 | 日本学生支援機構 | 理事長代理 1 名、部長１名、課長１名 | 障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明、DACセンター障害学生支援関連施設等見学、意見交換 |
| 11月15日 | 茨城県教育庁 | 職員１名 | 障害学生支援体制についての情報交換 |
| 12 月２日 | 日本学生支援機構 | 障害学生支援課職員 4 名、学生支援企画課職員２名 | 障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明、DACセンター障害学生支援関連施設等見学、意見交換 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 12 月 6 日 | パナソニックEWエンジニアリング株式会社 | 1 名 | アクセシブルスタディルームの見学 |
| 12 月 12 日 | 南山大学保健センター | センター長 1 名、教職員 3 名 | 障害学生支援体制の説明、DAC センター障害学生支援関連施設等見学 |
| 12 月 19 日 | RISTEX 事業 | JST 事務局 2 名、アドバイザー1 名 | 障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明、アクセシブルスタディルームの見学 |
| 12 月 20 日 | 金子書房 | 1 名 | 障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明 |
| 1月10日 | 株式会社ふくしごと | 職員他 2 名 | 障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明 |
| 1 月 12 日 | 台北教育大学 | 教授 1 名 | 障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明、BHE 障害学生支援関連施設等見学 |
| 1 月24日 | 岐阜聖徳学園大学 | 室長 1 名 | 障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明、BHE 障害学生支援関連施設等見学、意見交換 |
| 2 月 7 日 | 信州大学 | 教職員 2 名 | 障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明、BHE 障害学生支援関連施設等見学、意見交換 |
| 3 月 2 日 | 鳥取大学 | 教職員 3 名 | 障害学生支援体制・発達障害学生支援プロジェクト事業の概要説明、BHE 障害学生支援関連施設等見学、意見交換 |

### （4）高大連携

#### ア）筑波大学附属視覚特別支援学校対応

7月 15 日に、附属視覚特別支援学校の高等部2年生 19 名を対象として、キャンパス体験を実施しました。今年度は新型コロナウィルス感染症の拡大を考慮し、対面ではなく ZOOM を用いての実施となりました。内容としては筑波大学における障害学生支援の概要、「入学前相談等の心構え」をテーマとした学生生活に必要な準備や知識の確認、さらには視覚障害学生3名による、学生生活や普段活用している合理的配慮に関する説明を盛り込みました。例年とは異なる実施方法・内容となった一方で、参加生徒からは数多くの質問や感想が寄せられました。

#### イ）発達障害のある高校生向け大学生1日体験講座

茨城県教育委員会・つくば市の後援により、夏：8 月 7 日、冬：3 月 11 日の 2 回実施しました。この講座では、発達障害のある高校生が夢をもって進学を選択できるように、大学生・大学生活とは何かを理解すること、また、どんな大学に行っても必要となる自分の特性研究を行いました。今年度もオンライン（Remo）により実施しました。本講座の特徴として、参加された高校生1人に対して筑波大学の学生1人がメンターとして1日一緒に行動することで、1日の中で参加された高校生から気になったこと・聞きたいことにすぐに答えられるようにしました。また、発達障害のある当事者の方に大学生活の体験談を話していただき、発達障害のある学生がどのように大学生活を過ごしているかイメージができるような情報提供を行いました。オンラインで実施したことで、全国各地の高校生が参加できる講座となりました。

### （５）交通機関との連携

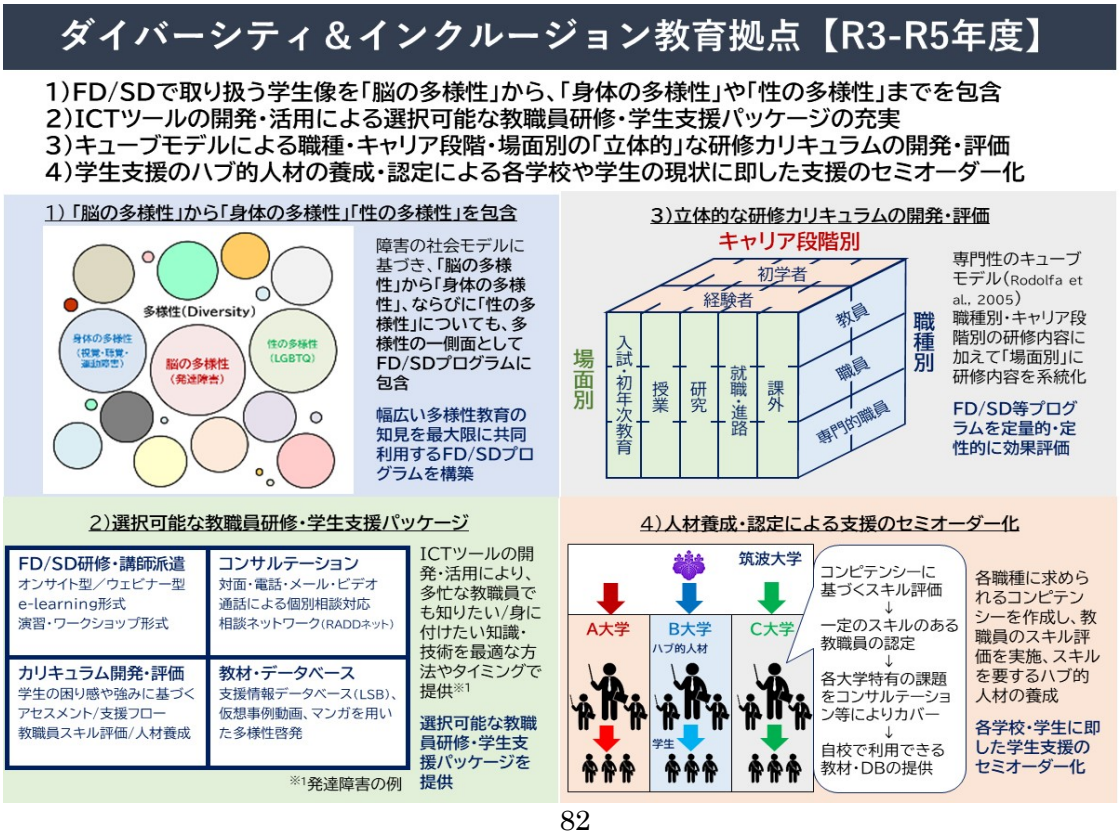
関東鉄道バス土浦営業所への訪問を、2022 年9月 27 日に実施し、車椅子利用学生と BHE 職員合わせて5名が参加しました。当日は、BHE 職員と車椅子利用学生・土浦営業所職員で、バスの乗降体験と、バス利用に関する意見交換を行いました。

## （6）教育関係共同利用拠点事業の概要

### ア）筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局教育関係共同利用拠点の事業と組織

筑波大学は、令和 5 年（2023 年）1 月 1 日付で、学生や職員を含む「すべての人の多様性を尊重し、可能性を広げる」というチャレンジを実現するべく、ヒューマンエンパワーメント推進局（英語名称：Bureau of Human Empowerment；以下、BHE）（旧名称：ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター）を発足しました。BHE は、性別や障害の有無、国籍や肌の色、世代、セクシュアリティ、宗教、文化の違いに留まらず、出生地やキャリア、価値観、ワークスタイルなど、あらゆる違いをダイバーシティと捉え、すべての人が互いに尊重し合い、自分らしく学び、能力を最大限に発揮できるようにするための、より公正な教育環境と職場の実現を目指しています。また、他大学等とも連携し、よりよい社会の構築に貢献していくことを目指しています。

筑波大学 BHE の前身であるダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターは、平成 30 年度～令和 2 年度にかけて教育関係共同利用拠点（拠点名称：多様な発達特性を有する学生に対する支援人材教育拠点）として文部科学大臣より認定され、多様な発達特性を有する学生への教職員の対応能力を向上するために活動してきました。令和 3 年度からは、教育関係共同利用拠点（拠点名称：ダイバーシティ&インクルージョン教育拠点）として、新たに文部科学大臣より再認定を受け、これまで対象としていた発達障害学生のみならず、視覚障害、聴覚障害、運動障害（肢体不自由）といった身体障害学生や、LGBTQ 等の性的マイノリティ学生も対象に含めた多様な学生に対する合理的配慮の提供（またはそれに準じた調整）や、多様な学生への対応能力を向上するための教育拠点として、教職員のスキルアップを目的とした活動（FD/SD 研修会の企画・運営、講師派遣対応、コンサルテーション、Learning Support Book 等の教材・データベースの提供など）を展開しています。加えて、これらの取組において、必要な知識や技能を体系的に獲得するための研修が必要とされ、専門性のキューブモデル（Rodolfa et al., 2005）による職種・キャリア段階・場面別の「立体的な」研修カリキュラムの開発・評価と、多様な学生を支援するハブ的人材の養成・認定によって各学校や学生の現状に即した支援のセミオーダー化を促進することを目指しています。



本事業の共同利用の実施に関する重要事項を審議する会として、運営委員会を設置しています。運営委員会は、関連領域を専門とする学内外の有識者から構成されています。以下にその詳細を示します。

運営委員会委員一覧（2023 年 2 月 1 日時点）

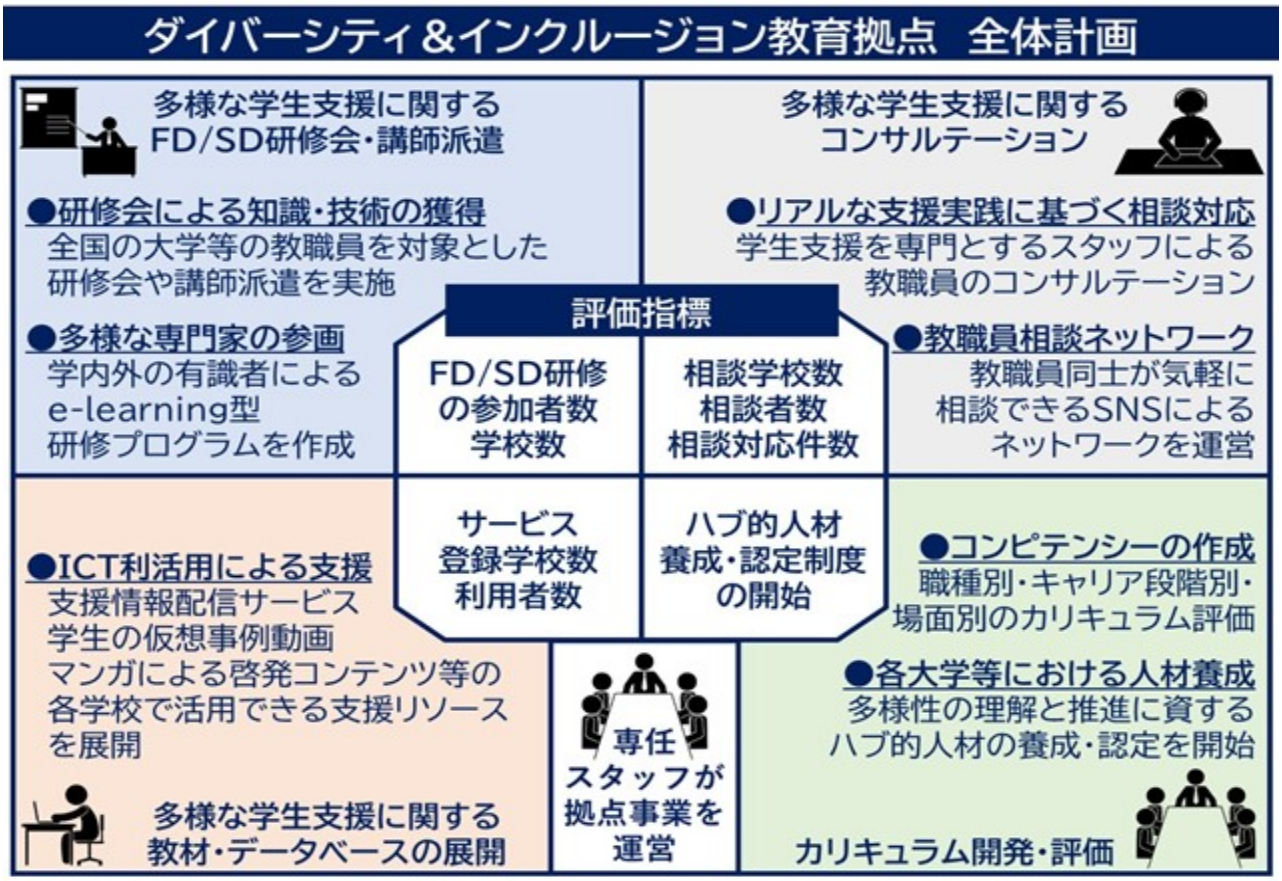
| 氏　　名 | 職 名 | 所　　属 |
|---|---|---|
| 太 田　　圭 | 局 長（副学長） | 筑波大学 |
| 山 口　　香 | 次 長（教 授） | ヒューマンエンパワーメント推進局<br>（体育系） |
| 竹 田 一 則 | 次 長（教 授） | ヒューマンエンパワーメント推進局<br>（人間系） |
| 坂 入 洋 右 | 次 長（教 授） | ヒューマンエンパワーメント推進局<br>（体育系） |
| 関　　瑞 穂 | 次 長（学生部長） | ヒューマンエンパワーメント推進局<br>（学生部） |
| 梅 田　　恵 | 業務推進マネージャー | ヒューマンエンパワーメント推進局 |
| 脇　　貴 典 | 助 教 | ヒューマンエンパワーメント推進局 |
| 中 野 泰 伺 | 助 教 | ヒューマンエンパワーメント推進局 |
| 野 呂 文 行 | 教 授 | 人間系 |
| 岡 崎 慎 治 | 准教授 | 人間系 |
| 米 田 宏 樹 | 准教授 | 人間系 |
| 佐々木 銀 河 | 准教授 | 人間系 |
| 宮 内 久 絵 | 准教授 | 人間系 |
| 河 野 禎 之 | 助 教 | 人間系 |
| 田 中 真 理 | 教 授 | 九州大学　基幹教育院　人文社会科学部門 |
| 高 橋 知 音 | 教 授 | 信州大学　学術研究院　教育学系 |
| 岩 崎 信 明 | 病院 | 社会医療法人　若竹会<br>土浦リハビリテーション病院 |
| 丸 田 伯 子 | 教 授 | 一橋大学　保健センター |
| 佐 藤 克 敏 | 教 授 | 京都教育大学　教育学部　発達障害学科 |

| | | |
|---|---|---|
| 村 田　　淳 | 准教授 | 京都大学　学生総合支援機構<br>障害学生支援部門 |
| 近 藤 武 夫 | 教 授 | 東京大学　先端科学技術研究センター |
| 鮎 澤　　聡 | 教 授 | 筑波技術大学　保健科学部保健学科<br>鍼灸学専攻 |
| 石 井 映 美 | 教 授 | 早稲田大学保健センター |

2023 年2月 28 日(火)に、2022 年度教育関係共同利用拠点運営委員会を遠隔会議にて実施しました。委員会では、2022 年度の活動実施状況および 2023 年度の活動計画(案)人材養成プログラムならびに「多様な学生支援 e-learning」の有償共同利用について審議されました。また、運営委員との意見交換が行われ、本拠点事業の内容、次年度の活動計画等について承認されました。

**イ　教育関係共同利用拠点事業の各プログラム概要**

本事業では、前期拠点事業(事業名:「多様な発達特性を有する学生に対する支援人材育成教育拠点」)の継続的・発展的な取り組みとして、以下の 4 点を中心に進めていくこととしました。各プログラムの概要は以下の通りです。




ダイバーシティ・インクルージョン教育拠点全体計画図

①多様な学生支援に関する FD/SD 研修会・講師派遣

全国の高等教育機関の教職員を対象とした FD/SD 研修会をウェビナー型かつ教職員の職種別演習を含めた研修会を実施しました。今年度は、吃音のある学生の理解と支援、仮想事例動画による事例検討会（アセスメント、キャリア支援、自己特性理解支援）、青年期・成人期における発達障害者支援、学生のメンタルヘルスと修学支援、そして、大学等に求められるインクルーシブなキャンパスづくりに関する等、7 回の研修会を企画・開催し、当日参加・見逃し配信等を含め、延べ 6,294 名（前年度 2,630 名）の教職員等にご参加いただきました。

また、各大学等への講師派遣にも対応しました。今年度は、大学等からの講師派遣依頼が 40 件（前年度 41 件）あり、延べ 3,036 名（前年度 3,001 名）の教職員等に対して本学の拠点運営スタッフが研修を行いました。

また、発達障害に関する有識者を講師とした、多様な学生支援に関する e-learning を一昨年度より、身体障害・LGBTQ に関する有識者を講師とした e-learning を昨年度より継続して、累計 35 件のコンテンツを配信しています（https://dac.tsukuba.ac.jp/radd/joint-base/e-learning/）。各コースの視聴回数と登録者数（令和 5 年 2 月 15 日時点）は以下の通りです。

| コース名 | 視聴回数 | 登録者数 |
|---|---|---|
| 発達障害（基礎） | 197 | 111 |
| 発達障害（概論） | 603 | 230 |
| 身体障害 | 124 | 38 |
| LGBTQ | 82 | 33 |

②多様な学生支援に関するコンサルテーション

各大学等からの障害学生支援に関するメール・電話等の遠隔相談対応（コンサルテーション）を延べ 35 件（前年度 18 件）行いました。また、個別の訪問・相談対応を述べ 20 件（前年度 1 件）行いました。

本拠点事業では、クローズ型 SNS を用いた教職員相談ネットワーク（RADD ネット）を、一昨年度より構築しています（https://dac.tsukuba.ac.jp/radd/joint-base/raddnet/）。2023 年 2 月 15 日時点で、全国 152 校（国立 28 校、公立 11 校、私立 93 校、短期大学 7 校、高等専門学校 4 校、その他 9 校）（前年度：全国 97 校（国立 23 校、公立 5 校、私立 60 校、短期大学 3 校、高等専門学校 2 校、その他 4 校）にご参加いただき、参加者は計 216 名（教員 97 名、職員 61 名、専門職員 97 名、その他 2 名；一部重複あり）（前年度：参加者 155 名（教員 61 名、職員 39 名、専門職員 55 名；一部重複あり）となりました。また、RADD ネット参加者を対象とした交流会を今年度も企画し、2023 年 1 月 17 日（火）ならびに 3 月 20 日（月）の計 2 回開催しました。

③多様な学生支援に関する教材・データベースの展開

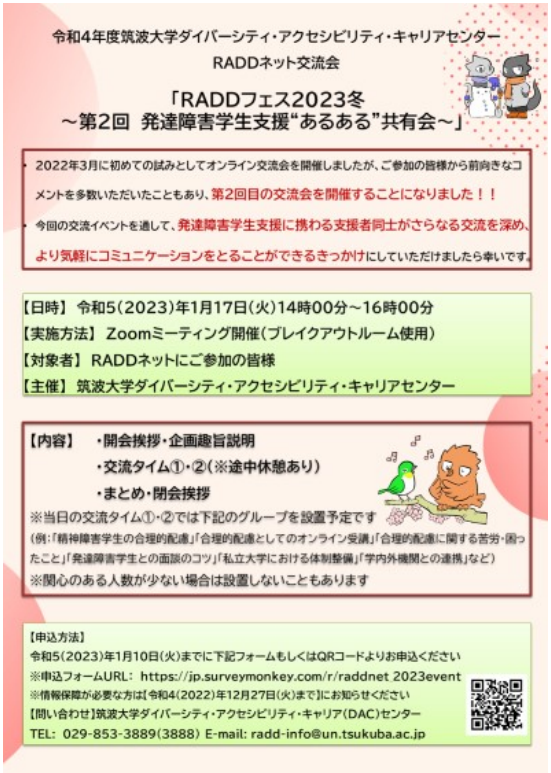
大学等の高等教育機関に在籍する多様な特性を有する学生が自立して自身の学習・生活スキルを向上するツールならびに、これらの学生に対する高等教育機関の教職員への多様性に関する理解・啓発、適切な知識や対応スキルの習得が必要であると思われます。そのための教材・データベースとして、支援情報配信サービス「Learning Support Book（LSB）」を全国の大学等の教職員を対象に配信しております。2023 年 2 月 15 日時点で全国 45 校（国立 9 校、公立 6 校、私立 26 校、短期大学 2 校、高等専門学校 2 校）（前年度：全国 45 校（国立 8 校、公立 6 校、私立 26 校、短期大学 3 校、高等専門学校 2 校））に配信をしました。

また、本学での過去の相談事例等を参考に、複数の事例を組み合わせたり、加工したりすることで作成した仮想事例動画を FD/SD 研修会や講師派遣対応において上映し、参加者同士でのグループワークやグループディスカッションをする際の教材として利用しました。

その他、マンガを用いた多様性啓発コンテンツの詳細については、「ウ　教育関係共同利用拠点のプロジェクト全体運営および広報・啓発」の項に記載しております。

④カリキュラム開発・評価

専門性のキューブモデル(Rodolfa et al., 2005)に基づき、各事業を関連させて、職種に応じて求められるコンピテンシーを作成することとしました。障害学生支援に携わる教職員(ハブ的人材)に身につけてほしいスキル・コンピテンシー(大分類)として、「多様性の理解」、「修学支援」、「環境調整」、「移行支援」、「連携・協働」の５つを設定した。これらのスキル・コンピテンシーとこれまで作成してきた「多様な学生支援 e-learning」を紐づける形で、支援人材養成・認定のためのプログラム実施に向けた準備を進めました。




RADD フェス 2023 チラシ 1

RADD フェス 2023 チラシ 2

**ウ）教育関係共同利用拠点のプロジェクト全体運営および広報・啓発**

2022 年 9 月 5 日（月）に京都大学にて開催された「AHEAD JAPAN Conference2022」のオンサイト企画にてブース出展を行い、本拠点に関連する活動等について広報・周知を行いました。

また、教職員や学生、一般等への障害に関する理解・啓発を目的として、本拠点に関する活動内容について、マンガ（グラフィックレコーディング）による情報発信（WEB サイト・Facebook・Twitter）を行いました。2023 年 1 月時点で Facebook では 27,159 名（昨年度 16,995 名）にリーチし、Twitter の関連投稿には延べ 8,346 件（昨年度 2,372 件）のいいね！（全 21 回の関連投稿中、投稿1回あたり平均 397 件）（昨年度：全 77 回の関連投稿中、投稿1回あたり平均 31 件）を得ました。グラフィックレコーディングに関しては、ヒューマンエンパワーメント推進局のアクセシビリティ支援チームが管轄する Twitter や Facebook ならびにホームページ等で閲覧・ダウンロードすることが可能となっています。

あわせて、令和 4 年 10 月 14 日に、BHE（旧：DAC センター）の監修により、発達障害啓発マンガ「ヒトはそれを『発達障害』と名づけました」が金子書房より発売されました。

「ヒトはそれを『発達障害』と名づけました」表紙

# PART 3
# 資料

## 14. 令和4年度活動歴

| | |
|---|---|
| 令和 4 年<br>4月 | 新入障害学生ガイダンス・個別の入学時相談<br>ピア・チューター養成講座の広報活動<br>ダイバーシティ・アクセシビリティ担当教員の選出 |
| 5月 | 障害学生支援技術オリエンテーション<br>ピア・チューター養成講座（聴覚・LS（Library Support））<br> |
| 6月 | 第1回アクセシビリティ専門部会<br>ピア・チューター養成講座（視覚・運動・内部・発達・LS）<br>第 1 回駐輪マナー向上キャンペーン |
| 7月 | |
| 8月 | オンライン大学説明会における支援（情報支援等）<br>障害学生支援の説明会・相談会<br>発達障害のある高校生向け大学生1日体験講座（夏） |
| 9月 | |
| 10月 | ピア・チューター養成講座（視覚・聴覚・LS）<br>第 2 回駐輪マナー向上キャンペーン |
| 11月 | ピア・チューター養成講座（運動・内部・発達・LS）<br>関東鉄道バス土浦営業所訪問<br>「障害学生等支援防災ワーク」（全学リスクマネジメントセミナー） |
| 12月 | 推薦入試合格者の入学前相談・支援対応 |
| 令和 5 年<br>1月 | |
| 2月 | 障害学生のための就活セミナー「キャリアについて考えてみよう～ハローワーク土浦と茨城障害者職業センターをお招きして～」<br>次年度新入生の入学前相談・支援対応 |
| 3月 | 第 1 回ヒューマンエンパワーメント推進局アクセシビリティ専門部会<br>発達障害のある高校生向け大学生1日体験講座（冬）<br>次年度新入生の入学前相談・支援対応<br>卒業式・学位授与式における支援（情報支援）<br>支援活動証明書の発行 |

## 15. 各種文書一覧

### (1)相談申込書

別紙1

当てはまるところに〇をつけ（もしくは該当しない項目を削除する）、または具体的にご記入いただき、
●/●（●）までにヒューマンエンパワーメント推進局（BHE）アクセシビリティ支援チームにご提出ください。
申込書の内容については、個別相談の際に、さらに詳しくうかがいます。

日付：　年　月　日　　相談申込書

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ① | 氏名（ふりがな） | | | |
| ② | 入学予定の学群・学類<br>研究群・学位プログラム／専攻 | 大学 | 学群　学類 | |
| | | 大学院 | 研究群<br>専攻　学位プログラム | |
| ③ | 障害の内容 | 障害種<br>※該当するものに〇をつけてください。 | 視覚　／　聴覚　／　運動・内部　／<br>発達　／　精神　／　その他（　） | |
| | | 手帳の有無・等級 | 有<br>→手帳の等級を右欄にご記入ください | 身体障害者手帳　級　／<br>精神障害者保健福祉手帳　級 |
| | | | 無<br>→その他資料の有無を右欄にご記入ください | 【診断書など手帳に代わる資料】<br>有（種類：　）／<br>無 |
| | | 障害の内容の詳細<br>（疾患名、障害による困難などを具体的にご記入ください。） | | |
| | | 日常的に利用している補装具・補助具（例：電動車いす、クラッチ　等） | | |
| ④ | 入学後の宿舎の希望<br>（筑波キャンパスのみ） | 入居の希望 | 有　／　無 | |
| | | 障害を理由とした、設備の必要性についてご記入ください。 | 要　／　不要 | ※要に〇をした方は、下記の内希望する設備に〇をしてください。<br>居室内の風呂　／　居室内のトイレ　／<br>居室内の台所　／　1階の部屋　／<br>建物の出入り口のスロープ　／<br>その他（　） |

裏面へ続きます

別紙1

| | | | |
|---|---|---|---|
| ⑤ | これまでに受けてきた修学上の支援 | （授業時・試験時・実習時などに分けてご記入ください。） | |
| ⑥ | 入学後主に必要な支援 | （授業時・試験時・実習時などに分けてご記入ください。） | |
| ⑦ | 入学までの期間に、個別相談の実施を希望されますか？ | はい　／　いいえ | ＊2月中で希望される曜日・時間帯をご記入下さい。<br>（土・日、祝日を除く 9:00 ～ 17:00 の間において） |
| | | 「はい」の方は、どちらの方法を希望されますか？<br>対面　／　オンライン | ※対面を希望された場合にも、状況に応じてオンラインとなる場合があります。 |
| ⑧ | 入学までの期間に、宿舎の見学等を希望されますか？ | はい　／　いいえ | ＊希望される場合、来学出来る曜日・時間帯をご記入下さい。<br>（土・日、祝日を除く 9:00 ～ 17:00 の間において） |
| ⑨ | 連絡先<br>※４月以降も連絡が取れるご本人の連絡先をご記入ください | 電話（家） | 電話可能な時間帯： |
| | | FAX | |
| | | 電話（携帯） | |
| | | メール（携帯） | @ |
| | | メール（PC） | @ |

本申込書でヒューマンエンパワーメント推進局（BHE）アクセシビリティ支援チームが得た個人情報は、BHEが行う修学支援の目的にのみ使用いたします。

★ お問い合わせ先
ヒューマンエンパワーメント推進局（BHE）
アクセシビリティ支援チーム　　０２９－８５３－４５８４

## (2)支援申請書

【様式１】

筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局 支援申請書

| | |
|---|---|
| フリガナ<br>氏名 | |
| 所属・年次 | 年次　※申込時の年次を記入してください。 |
| 学籍番号 | |
| 住所 | 〒 |
| 携帯電話 | |
| E ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ | s　@ |

障害の種別

☐ 視覚障害　☐ 聴覚障害　☐ 運動・内部障害
☐ 発達障害　☐ 精神障害　☐ その他（　　）
☐ 診断名（　　）　☐ 障害者手帳（　　）

希望する支援

☐ 支援に関わる情報提供（障害者就職支援等のお知らせ 等）
☐ 事務的手続き（駐車場や宿舎関連の申請 等）
☐ 修学支援（移動支援、パソコン要約筆記等の情報支援、ノートテイク　等）　※発達障害・精神障害は個別面談
☐ 支援機器の貸し出し　☐ その他（　　）

==========

支援について

※　必ずしも希望の支援や配慮を提供できるとは限りません
※　障害学生支援に関連した研究にご参加いただく場合があります

情報開示の範囲について

☐ 以下に示すすべてに情報を開示して良い　☐ チェックした対象のみ情報を開示して良い
☐ 以下に示すすべてに情報開示を希望しない

---

☐ 保護者　☐周囲の学生　☐ 教育・事務組織（学群学類・研究群学位プログラム・教育関係事務組織）
☐ 学内の学生支援組織（保健管理センター 等）　☐学外の支援組織（病院，ハローワーク 等）
● 備考（　　）

※　情報とは今後ヒューマンエンパワーメント推進局で得られる支援に関わる情報すべてを指します
※　情報開示の範囲に指定がある場合は、備考欄にその詳細をご記入ください。
※　修学上の合理的配慮の提供を希望する場合には「教育・事務組織」への障害に関する情報開示が原則的に必要となります。

☐ 以上の内容に同意します。

年　月　日　　署　名：

ヒューマンエンパワーメント推進局長　殿

筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局（アクセシビリティ支援チーム）
令和 4 年度（2022 年度）　活動実績報告書

発行者　　筑波大学　ヒューマンエンパワーメント推進局
〒305-8572　茨城県つくば市天王台 1 − 1 − 1
TEL：029-858-4584
FAX：029-853-2257
E-mail：shougai-shien@un.tsukuba.ac.jp
WEB サイト：http://dac.tsukuba.ac.jp/shien/

編集責任者　竹田　一則
編　集　者　末吉　彩香・岡野　雅典・鶴井　孝大・山森　一希・脇　貴典
発　行　日　令和 5 年 4 月

Ⓒ筑波大学 ヒューマンエンパワーメント推進局
本書の無断転載・複製はお断りさせていただきます。転載をご希望の方は、ヒューマンエンパワーメント推進局までお問い合わせください。